

千葉県八千代市

市内遺跡発掘調査報告書

ライノ作南遺跡 e 地点

高津新山遺跡 d 地点

内 込 遺 跡 d 地点

高津新田遺跡 e 地点・高津新田野馬堀遺跡 m 地点

村上宮内遺跡 c 地点

作ヶ谷津遺跡 b 地点

平 沢 遺 跡 e 地点

井戸向遺跡 d 地点

逆 水 遺 跡 i 地点

島田込の内遺跡 d 地点

大和田新田芝山遺跡 g 地点・笹塚塚群 a 地点

白 幡 前 遺 跡 f 地点

神 明 前 遺 跡 a 地点

内 野 南 遺 跡 h 地点

下 船 田 遺 跡 c 地点

平成 28 年度

八千代市教育委員会

例 言

1 本書は、八千代市教育委員会が平成27年度市内遺跡発掘調査事業として、国庫及び県費の補助を受けて実施した埋蔵文化財発掘調査の報告書である。報告書作成作業は、平成28年度事業として行った。

2 本書に収録した遺跡は、以下のとおりである。

No.	遺跡No.	遺 跡 名 地点名	所 在 地	調査期間	調査面積(m ²) 掘削/対象	調査原因	担当者
1	276	ライノ作南遺跡 e 地点	大和田新田字貞光寺野 930-2	H27.5.7 ～5.11	上層 10/105	個人住宅建設	宮澤
2	239	高津新山遺跡 d 地点	高津東4丁目12-17	H27.5.12 ～5.14	上層 16.5/165.44 本調査 32.67	個人住宅建設	轟
3	246	内込遺跡 d 地点	八千代台北17丁目 1615-25	H27.5.14 ～5.20	上層 8.1/119.25	建売住宅建設	宮下
4	250 251	高津新田遺跡 e 地点 高津新田野馬堀遺跡 m 地点	八千代台南2丁目 1-77,18-1,19	H27.5.26 ～6.3	上層 118/1,231.36	宅地造成	轟
5	191	村上宮内遺跡 c 地点	村上字鳥居作 994,995-1各一部	H27.6.1 ～6.8	上層 18/194.94	個人住宅建設	宮下
6	62	作ヶ谷津遺跡 b 地点	島田台字東桑橋台 744-1	H27.7.3 ～7.15	上層 312/3,047	宅地造成	轟
7	217	平沢遺跡 e 地点	上高野字平沢 151-4,152-1	H27.7.17 ～7.31	上層 472/4,860	福祉施設建設	轟
8	284	井戸向遺跡 d 地点	ゆりのき台3丁目 4-1,2,3	H27.7.22 ～9.1	上層 150/5,921.27	店舗建設	宮澤
9	100	逆水遺跡 i 地点	米本字逆水1280-1,4	H27.8.31 ～9.14	上層 96/1,419 一部本調査	福祉施設建設	轟
10	48	島田込の内遺跡 d 地点	第1次確認調査 島田字込之内1005-1,2,3 1008-1,5,6,12,13 1009-1	H27.9.29 ～10.21	上層 656/7,985	物流基地建設	宮澤
			第2次確認調査 島田字込之内1003-1,2,3	H28.2.18 ～3.25	上層 203/1,878		
11	159 161	大和田新田芝山遺跡 g 地点 笹塚塚群 a 地点	大和田新田字平作 813-1	H27.10.20 ～10.28	上層 106/942	駐車場建設	宮澤 宮下
12	185	白幡前遺跡 f 地点	萱田2214-51,2213-7	H28.1.8 ～1.14	上層 8/97.99 一部本調査	個人住宅建設	宮澤
13	36	神明前遺跡 a 地点	島田台字高堀1268-2	H28.2.12 ～2.19	上層 38/388.93 本調査 1.44	個人住宅建設	常松
14	289	内野南遺跡 h 地点	吉橋字内野1064-1	H28.2.23 ～2.26	上層 17/204	建売住宅建設	常松
15	164	下船田遺跡 c 地点	大和田新田字新木戸前 42-18,19,20, 28,30,31,32	H28.3.8 ～3.18	上層 196/1,980.76	宅地造成	宮澤 宮下

3 平成27年度の教育委員会の調査体制は以下のとおりである。

調査主体者	加賀谷 孝	八千代市教育委員会	教育長
	小林 伸夫	八千代市教育委員会	教育次長
事務担当	蕨 茂美	八千代市教育委員会教育総務課	主幹(文化財担当)
	常松 成人	八千代市教育委員会教育総務課文化財班	副主幹
	佐藤麻里子	八千代市教育委員会教育総務課文化財班	主査
調査担当	宮澤 久史	八千代市教育委員会教育総務課文化財班	副主幹
	宮下 聡史	八千代市教育委員会教育総務課文化財班	文化財主事
	轟 直行	八千代市教育委員会教育総務課文化財班	文化財主事
整理担当	秋山 利光	八千代市教育委員会教育総務課文化財班	主任主事

4 整理作業は、資料の収集・整理、出土土器の拓本・断面実測を宇都洋子、半澤秀子、岩崎千代子、杵島由希が行い、遺物の実測・トレース、遺物の写真、本文の執筆・編集を秋山が行った。

5 本書で使用した地形図は、下記のとおりである。

第1図 国土地理院 「佐倉」 1/50,000(平成10年発行)

各遺跡の調査地点位置図 八千代市 「八千代都市計画基本図」 1/2,500(平成22年撮影・平成24年修正)
を加筆・修正し使用した。地形図は原図を正位置のまま用い、常に図の真上が座標北となる。

6 本書の地形図等の実測図における用例は、以下のとおりである。

(1)図面の縮尺は以下を基本とし、必要に応じて縮尺を変更した。

調査地点位置図 1/5,000 トレンチ配置図 1/200～1/1,000 土層断面図 1/40～1/80

(2)図中における標高の記載は、調査時に用いた基準点の精度に応じた有効桁で表記した。

8 本書の遺物実測図における用例は、以下のとおりである。

(1)図面の縮尺は基本的には以下のとおりとした。

完形土器等実測図 1/4 土器拓影図・土製品実測図 1/3 石器・石製品実測図 1/2～1/4

(2)遺物実測図には挿図番号をゴシック体、注記内容を明朝体で図の下に表記した。注記は遺跡ナンバー、地点名、出土地点(グリッド・トレンチ名+取上げナンバー等)を必要に応じて記している。

(3)図中の網掛けは以下のとおりとした。



9 表又は本文中の[]は現存値, ()は推定復元値を表している。

また、本文第1表から第15表中の「報告書」の欄における「市内H○」の記載は、本市「市内遺跡調査報告書平成○年度」に掲載されていることを意味する。

10 本報告の発掘調査に伴う出土品及び図面、写真等の記録類は八千代市教育委員会で保管する。

目 次

例 言・目 次・挿図目次・表目次・図版目次

I 調査に至る経緯	1
II 各調査の概要	7
1. ライノ作南遺跡 e 地点	7
2. 高津新山遺跡 d 地点	10
3. 内込遺跡 d 地点	14
4. 高津新田遺跡 e 地点・高津新田野馬堀遺跡 m 地点	16
5. 村上宮内遺跡 c 地点	20
6. 作ヶ谷津遺跡 b 地点	23
7. 平沢遺跡 e 地点	28
8. 井戸向遺跡 d 地点	32
9. 逆水遺跡 i 地点	35
10. 島田込の内遺跡 d 地点(第1次確認・第2次確認)	38
11. 大和田新田芝山遺跡 g 地点・笹塚塚群 a 地点	45
12. 白幡前遺跡 f 地点	48
13. 神明前遺跡 a 地点	51
14. 内野南遺跡 h 地点	54
15. 下船田遺跡 c 地点	57
報告書抄録	巻末

挿図目次

第1図 平成27年度市内遺跡調査地点位置図	
第2図 ライノ作南遺跡 e 地点位置図	7
第3図 e 地点トレンチ配置図・土層断面図	8
第4図 高津新山遺跡 d 地点・内込遺跡 d 地点位置図	10
第5図 高津新山遺跡 d 地点トレンチ配置図・土層断面図	11
第6図 高津新山遺跡 d 地点 出土遺物	11
第7図 高津新山遺跡 a 地点遺構検出状況と各地点位置図	12
第8図 内込遺跡 d 地点トレンチ配置図・土層断面図	14
第9図 高津新田遺跡 e 地点・高津新田野馬堀遺跡 m 地点位置図	17
第10図 高津新田遺跡 e 地点・高津新田野馬堀遺跡 m 地点トレンチ配置図・土層断面図	18
第11図 村上宮内遺跡 c 地点位置図	20
第12図 c 地点トレンチ配置図・土層断面図	21
第13図 作ヶ谷津遺跡 b 地点位置図	23
第14図 b 地点トレンチ配置図・土層断面図・P1実測図	24
第15図 作ヶ谷津遺跡 b 地点 出土遺物	25

第16図	作ヶ谷津遺跡 a 地点・b 地点	26
第17図	平沢遺跡 e 地点位置図	28
第18図	e 地点トレンチ配置図・土層断面図	29
第19図	平沢遺跡 e 地点 出土遺物	30
第20図	井戸向遺跡 d 地点位置図	32
第21図	d 地点トレンチ配置図・土層断面図	33
第22図	逆水遺跡 i 地点位置図	35
第23図	i 地点トレンチ配置図・土層断面図・出土遺物	36
第24図	島田込の内遺跡 d 地点位置図	38
第25図	d 地点トレンチ配置図・土層断面図	40
第26図	島田込の内遺跡 d 地点 出土遺物	42
第27図	大和田新田芝山遺跡 g 地点・笹塚塚群 a 地点位置図	45
第28図	大和田新田芝山遺跡 g 地点・笹塚塚群 a 地点トレンチ配置図・土層断面図・出土遺物	46
第29図	白幡前遺跡 f 地点位置図	48
第30図	f 地点トレンチ配置図・土層断面図・1P実測図	49
第31図	神明前遺跡 a 地点位置図	51
第32図	a 地点トレンチ配置図・土層断面図・1P実測図	52
第33図	内野南遺跡 h 地点位置図	54
第34図	h 地点トレンチ配置図・土層断面図	55
第35図	下船田遺跡 c 地点位置図	57
第36図	c 地点トレンチ配置図・土層断面図	58

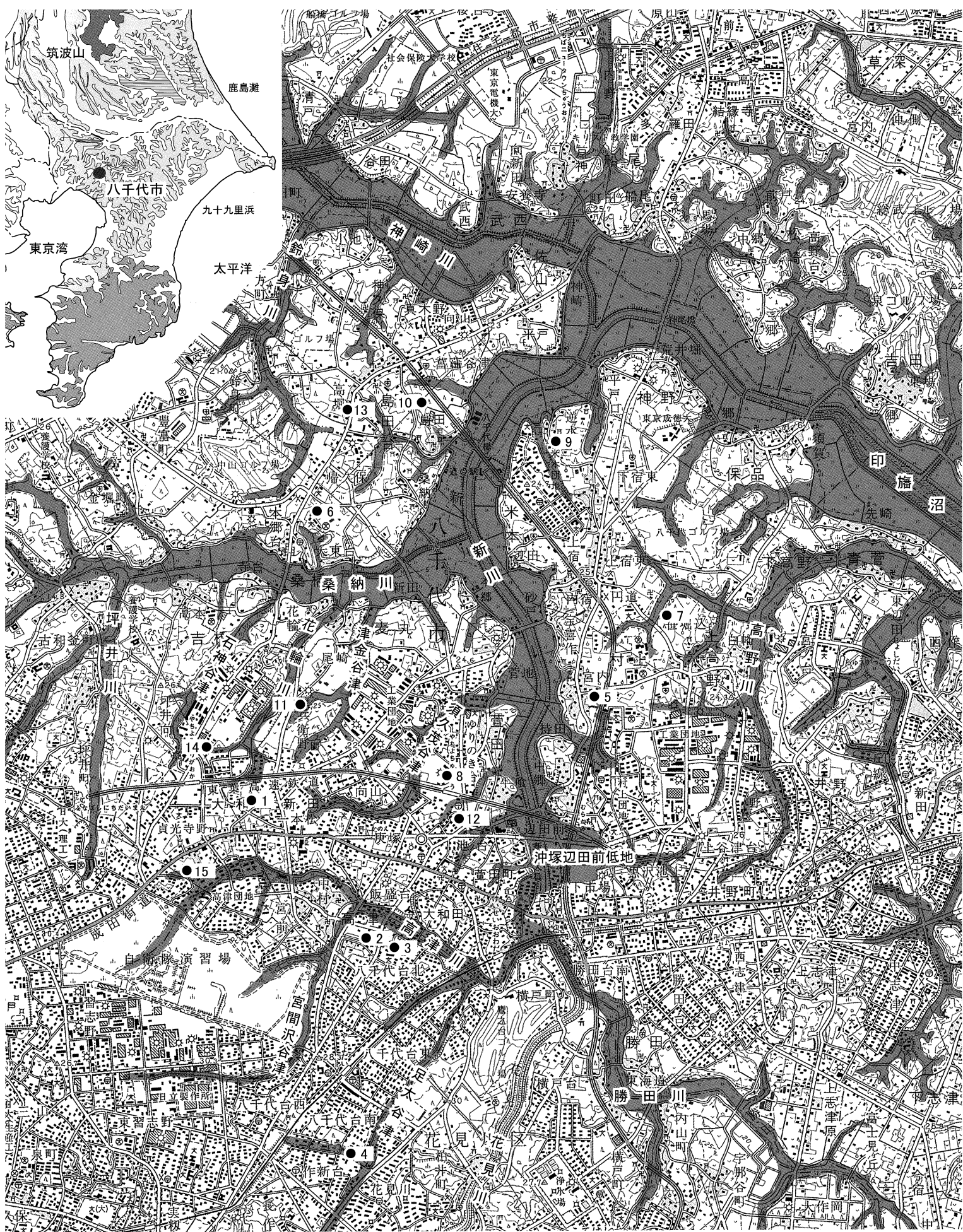
表 目 次

第1表	ライノ作南遺跡の調査	8	第2表	高津新山遺跡の調査	11
第3表	内込遺跡の調査	14	第4表	高津新田遺跡の調査	16
第5表	高津新田野馬堀遺跡の調査	16	第6表	村上宮内遺跡の調査	21
第7表	作ヶ谷津遺跡の調査	24	第8表	平沢遺跡の調査	28
第9表	井戸向遺跡の調査	32	第10表	逆水遺跡の調査	36
第11表	島田込の内遺跡の調査	39	第12表	大和田新田芝山遺跡の調査	46
第13表	白幡前遺跡の調査	49	第14表	内野南遺跡の調査	55
第15表	下船田遺跡の調査	57			

図版目次

図版1	ヲイノ作南遺跡 e 地点	9
図版2	高津新山遺跡 d 地点	13
図版3	内込遺跡 d 地点	15
図版4	高津新田遺跡 e 地点・高津新田野馬堀遺跡 m 地点	19
図版5	村上宮内遺跡 c 地点	22
図版6	作ヶ谷津遺跡 b 地点	27
図版7	平沢遺跡 e 地点	31
図版8	井戸向遺跡 d 地点	34
図版9	逆水遺跡 i 地点	37
図版10-1	島田込の内遺跡 d 地点 第1次確認調査	43
図版10-2	島田込の内遺跡 d 地点 第2次確認調査	44
図版11	大和田新田芝山遺跡 g 地点・笹塚塚群 a 地点	47
図版12	白幡前遺跡 f 地点	50
図版13	神明前遺跡 a 地点	53
図版14	内野南遺跡 h 地点	56
図版15	下船田遺跡 c 地点	59
図版16		60

1.	島田込の内遺跡 d 地点 出土遺物(1)	2.	島田込の内遺跡 d 地点 出土遺物(2)
3.	島田込の内遺跡 d 地点 出土遺物(3)	4.	島田込の内遺跡 d 地点 出土遺物(4)14 刻書拡大
5.	大和田新田芝山遺跡 g 地点・笹塚塚群 a 地点 出土遺物		
6.	白幡前遺跡 f 地点 出土遺物	7.	神明前遺跡 a 地点 出土遺物
8.	内野南遺跡 h 地点 出土遺物		



第1図 平成27年度市内遺跡調査地点位置図

0 1km 2km
1/50,000

- 1.ライノ作南遺跡e地点 2.高津新山遺跡d地点 3.内込遺跡d地点 4.高津新田遺跡e地点・高津新田野馬堀遺跡m地点
5.村上宮内遺跡c地点 6.作ヶ谷津遺跡b地点 7.平沢遺跡e地点 8.井戸向遺跡d地点 9.逆水遺跡i地点 10.島田の内遺跡d地点
11.大和田新田芝山遺跡g地点・笹塚塚群a地点 12.白幡前遺跡f地点 13.神明前遺跡a地点 14.内野南遺跡h地点 15.下船田遺跡c地点

I 調査に至る経緯

八千代市は都心から東へ約30km, 千葉市の市街地中心部から北へ約13km, 千葉県北西部地域の印旛沼西岸に位置する。市域の地形は, 房総半島の内陸部, 平坦な下総台地とそれを樹枝状に開析する河川や谷津で構成されている。市域の下総台地は, 三つの地形面で構成されている。下総上位面は台地全体に広く分布し, 最も上位に位置する。下総下位面は神崎川の両岸や新川の西岸, 旧印旛沼の南岸などに幅1~3kmの範囲で分布し, 中位に位置する。千葉段丘面は旧印旛沼の南岸, 神崎川の南岸, 桑納川の南岸, 新川の西岸, 高津川の南岸, 勝田川の両岸などにみられ, 複数の段丘面で構成される下位の段丘面群である。

市域の中央を南北に貫く新川(印旛放水路)は, 上流域では勝田川, 下流域では平戸川と呼ばれており, 本来, 印旛沼水系に属していた。千葉市の長沼一帯を水源とし南から北に流下し, その左岸から, 高津川(八千代1号幹線)・桑納川・神崎川が合流し, 平戸で流れを東に変え, 印旛沼に流れ込んでいた。戦後, 大和田排水機場の完成と江戸時代からの悲願であった新川と花見川の開通により, 現在は東京湾に流れる河川となっている。

市内を流れるこれらの河川は, 市域の台地を大きく大和田・睦・阿蘇の3つに区分している。

本市における埋蔵文化財の保護は, 文化財保護法の規定に基づき, 千葉県教育委員会(以下「県教委」という。)と連携して実施してきた。とりわけ, 市域で行われる開発事業については「八千代市開発事業における事前協議の手続等に関する条例」および同条例施行規則に基づき, 『八千代市開発事業』の事前協議として, 八千代市教育委員会(以下「市教委」という。)が「埋蔵文化財の取り扱いについて(確認)」(以下「確認依頼」という。)の書面を受け, 開発予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地であるか, または, 現地踏査等により確認調査が必要と判断された場合に, 埋蔵文化財の範囲や時代・性格など包蔵地の実態を把握するため, 事業者や土地所有者等の承諾や協力を得て, 国庫及び県費の補助を受け「市内遺跡発掘調査事業」を実施し, その調査の成果を基礎資料として, 市教委は埋蔵文化財の保護に努めてきた。

以下は, 平成27年度に実施した「市内遺跡発掘調査事業」の各調査に至る経緯である。

1. ライノ作南遺跡 e 地点

平成27年3月30日, 古谷 登美子氏から八千代市大和田新田字貞光寺野930番2, 面積 105㎡に個人住宅を建設することを目的とした確認依頼が市教委に提出された。

確認地の現況は荒蕪地であったが, 周知の埋蔵文化財包蔵地(市遺跡No.(以下「No.」という。)276 ライノ作南遺跡)の区域内にあり, 近隣の調査で縄文時代前期の集落を中心とした遺構・遺物が検出されていた。そのため, 市教委は確認依頼地全域について, 文化財保護法(以下「法」という。)第93条第1項の規定による土木工事のための発掘届(以下「法第93条の届出」という。)及びその取扱いについての協議(以下「協議」という。)が必要である旨, 同年3月31日付け回答した。市教委と事業者との協議において, 事業継続の意向が確認されたため, 当該地における埋蔵文化財の内容や現在の状況を把握する目的で確認調査(以下「確認調査」という。)を行うこととなった。

法第93条の届出は, 同年3月30日付けで, すでに同氏から提出されていた。

市教委は、同年4月27日付けで法第99条第1項の規定による埋蔵文化財の発掘調査(以下「法第99条の発掘調査」という。)を県教委に報告し、準備の整った同年5月7日に調査を開始した。

2. 高津新山遺跡d地点

平成27年3月9日、立石 賀也氏から八千代市高津東4丁目12-17、面積 165.44㎡に個人住宅を建設することを目的とした確認依頼が市教委に提出された。

確認地の現況は荒蕪地であったが、周知の埋蔵文化財包蔵地(No.239 高津新山遺跡)の区域内にあり、近隣の調査で古墳時代から平安時代にわたる大規模な集落や中近世の遺構・遺物が検出されていた。そのため、市教委は確認依頼地全域について、法第93条の届出及び協議が必要である旨、同年3月20日付け回答した。市教委と事業者との協議において、事業継続の意向が確認されたため、確認調査を行うこととなった。

同年3月24日付け、同氏から法第93条の届出が提出された。

市教委は、同年5月8日付けで法第99条の発掘調査を県教委に報告し、準備の整った同年5月12日に調査を開始した。

3. 内込遺跡d地点

平成27年4月10日、株式会社 東栄住宅から八千代市八千代台北17丁目1615-25、面積 119.25㎡に建売住宅を建設することを目的とした確認依頼が市教委に提出された。

確認地の現況は既存の住宅が現存する宅地であったが、周知の埋蔵文化財包蔵地(No.246 内込遺跡)の区域内にあり、近隣の調査で古墳時代の集落を中心とする遺構・遺物が検出されていた。そのため、市教委は確認依頼地全域について、法第93条の届出及び協議が必要である旨、同年4月14日付け回答した。市教委と開発事業者との協議において、事業継続の意向が確認されたため、確認調査を行うこととなった。

同年4月21日付け、同社から法第93条の届出が提出された。

市教委は、同年5月13日付けで法第99条の発掘調査を県教委に報告し、準備の整った同年5月14日に調査を開始した。

4. 高津新田遺跡e地点・高津新田野馬堀遺跡m地点

平成27年4月15日、株式会社 アーネストワンから八千代市八千代台南2丁目1-77, 18-1, 19、面積 1,231.36㎡に宅地造成することを目的とした確認依頼が市教委に提出された。

確認地の現況は荒蕪地であったが、周知の埋蔵文化財包蔵地(No.250 高津新田遺跡, No.251 高津新田野馬堀遺跡)の区域内にあり、近隣の調査で野馬堀や縄文時代早期の遺構・遺物が検出されていた。そのため、市教委は確認依頼地全域について、法第93条の届出及び協議が必要である旨、同年4月20日付け回答した。市教委と開発事業者との協議において、事業継続の意向が確認されたため、確認調査を行うこととなった。

同年4月27日付け、同社から法第93条の届出が提出された。

市教委は、同年5月22日付けで法第99条の発掘調査を県教委に報告し、準備の整った同年5月26日に調査を開始した。

5. 村上宮内遺跡c地点

平成27年5月15日、宮崎 徹氏から八千代市村上字鳥居作994、995-1の各一部、面積 約276㎡に個人住宅を建設することを目的とした確認依頼が市教委に提出された。

確認地の現況は荒蕪地であったが、周知の埋蔵文化財包蔵地(No.191 村上宮内遺跡)の区域内にあり、近隣の調査で古墳時代の集落を中心とする遺構・遺物が検出されていた。そのため、市教委は確認依頼地全域について、法第93条の届出及び協議が必要である旨、同年5月20日付け回答した。市教委と事業者との協議において、事業継続の意向が確認されたため、確認調査を行うこととなった。

同年5月21日付け、同氏から法第93条の届出が、事業区域を住宅の敷地に限定した実測値194.94㎡で提出された。

市教委は、同年5月29日付けで法第99条の発掘調査を県教委に報告し、準備の整った同年6月1日に調査を開始した。

6. 作ヶ谷津遺跡b地点

平成27年6月19日、株式会社 野崎建築工業から八千代市島田台字東桑橋台741番1の一部、744番1、字作ヶ谷津795番1の一部、面積 9,908.14㎡に宅地造成することを目的とした確認依頼が市教委に提出された。

当該地は、以前山林であったが、現地踏査をした同年6月22日時点の確認地の現況では、すでに伐採・抜根されていた。それにより、区域の一部である台地上の平坦部において縄文土器が多量に散布していることが確認された。また、区域の一部が周知の埋蔵文化財包蔵地(No.62 作ヶ谷津遺跡)の区域内にあり、隣接する区域の調査では縄文時代中期の集落を中心とする遺構・遺物が検出されていた。そのため、市教委は確認依頼地の一部、島田台字東桑橋台744番-1、公図上の面積3,047㎡に対して、法第93条の届出及び協議が必要である旨、同年6月23日付け回答した。市教委と開発事業者との協議において、事業継続の意向が確認されたため、届け出及び協議が必要である開発区域の一部に対して確認調査を行うこととなった。

同年6月30日付け、同社から法第93条の届出が開発区域全域について提出された。

市教委は、同年7月2日付けで法第99条の発掘調査を県教委に報告し、準備の整った同年7月3日に調査を開始した。

7. 平沢遺跡e地点

平成26年11月25日、社会福祉法人 鳳雄会から八千代市上高野字平沢152番1、公図上の面積 2,879㎡に社会福祉施設を建設することを目的とした確認依頼が市教委に提出された。

確認地の現況は山林であったが、区域が周知の埋蔵文化財包蔵地(No.217 平沢遺跡)の区域内にあり、周辺区域の複数の調査で弥生時代後期の集落を中心とする遺構・遺物が検出されていた。そのため、市教委は確認依頼地全域に対して、法第93条の届出及び協議が必要である旨、同年12月1日付け回答した。市教委と事業者との協議において、事業継続の意向が確認されたため、確認調査を行うこととなった。

翌平成27年4月14日付け、同法人から当初予定の開発区域に八千代市上高野字平沢151番-4、公図上の面積1,981㎡を追加して、合計4,860㎡の区域で法第93条の届出が提出された。

市教委は、同年7月13日付けで法第99条の発掘調査を県教委に報告し、準備の整った同年7月17日に調

査を開始した。

8. 井戸向遺跡 d 地点

平成27年2月20日、東京ステンレス研磨興業 株式会社から八千代市ゆりのき台3丁目4-1, 2, 3, 面積5,921.27㎡に店舗を建設することを目的とした確認依頼が市教委に提出された。

確認地の現況は既存の建築物があるものの、周知の埋蔵文化財包蔵地(No.284 井戸向遺跡)の区域内にあり、周辺区域の調査で奈良・平安時代の集落を中心とする遺構・遺物が検出されていた。そのため、市教委は確認依頼地全域に対して、法第93条の届出及び協議が必要である旨、同年2月26日付け回答した。市教委と開発事業者との協議において、事業継続の意向が確認されたため、確認調査を行うこととなった。開発区域にある既存の建築物の撤去以前に、確認調査が可能な区域は調査を実施し、残りの区域は建築物撤去時に掘削工事に立ち会い、埋蔵文化財の有無を確認することとなった。

同年5月18日付け、同社から法第93条の届出が提出された。

市教委は、同年7月16日付けで法第99条の発掘調査を県教委に報告し、準備の整った同年7月22日に調査を開始した。

9. 逆水遺跡 i 地点

平成27年7月22日、社会福祉法人 八千代翼友福祉会から八千代市米本1280番1, 4, 公図上の面積 1,419㎡に社会福祉施設を建設することを目的とした確認依頼が市教委に提出された。

確認地の現況は既存建物がある砂利敷きの資材置き場であったが、区域が周知の埋蔵文化財包蔵地(No.100 逆水遺跡)の区域内にあり、周辺区域の調査で弥生時代後期の集落を中心とする遺構・遺物が検出されていた。そのため、市教委は確認依頼地全域に対して、法第93条の届出及び協議が必要である旨、同年8月3日付け回答した。市教委と事業者との協議において、事業継続の意向が確認されたため、確認調査を行うこととなった。

同年8月3日付け、同法人から法第93条の届出が提出された。

市教委は、同年8月26日付けで法第99条の発掘調査を県教委に報告し、準備の整った同年8月31日に調査を開始した。

10. 島田込の内遺跡 d 地点

平成27年7月16日、染谷不動産 株式会社から八千代市島田字込之内1003-1, 2, 3, 1004-1, 1005-1, 2, 3, 1006-1, 9, 10, 11, 12, 13, 1008-1, 5, 6, 12, 13, 1009-1(19筆), 島田台字木戸場875-7, 8, 9, 10, 11, 12, 13, 14, 876, 877-2, 3, 878-2, 10(13筆), 神久保字菖蒲谷津201-1, 2, 3, 202, 203-1, 204-1, 2, 5, 6, 205, 206-1, 2, 207, 208, 209-1, 2, 210, 211-1, 2, 212, 213, 214-1, 2, 215-1, 220-1(25筆), 申請書類上の面積 30,000㎡に物流基地を建設することを目的とした確認依頼が市教委に提出された。

確認地の現況は山林や畑地であり、区域の一部が周知の埋蔵文化財包蔵地(No.48 島田込の内遺跡, No.50 島田塚群)の区域内にあり、周辺区域の調査で奈良・平安時代の集落を中心とする遺構・遺物が検出されていた。市教委は同年7月21日現地踏査を行い、島田込の内遺跡の菖蒲谷津に面する区域と対岸の台地平

坦面が深く削平されており、すでに埋蔵文化財包蔵地は失われてしまっていることが確認された。そのため、市教委は開発区域の一部、島田字込之内1003-1, 2, 3, 1005-1, 2, 3, 1006-1, 9, 10, 11, 12, 13, 1008-1, 5, 6, 12, 13, 1009-1(18筆)、公図上の面積16,370㎡に対して、法第93条の届出及び協議が必要である旨、同年8月3日付け回答した。市教委と開発事業者との協議において、事業継続の意向が確認されたため、確認調査を行うこととなった。

同年7月16日付け、同社から開発予定区域全域30,000㎡について法第93条の届出が提出された。

市教委は、同年9月29日付けで土地所有者による発掘調査の承諾が得られた島田字込之内1005-1, 2, 3, 1008-1, 5, 6, 12, 13, 1009-1(9筆)、公図上の面積7,985㎡の法第99条の発掘調査を県教委に報告し、準備の整った同年9月29日に第1次確認調査を開始した。

また、翌平成28年2月17日付け、追加で土地所有者による発掘調査の承諾が得られた島田字込之内1003-1, 2, 3(3筆)、公図上の面積1,878㎡の法第99条の発掘調査を県教委に報告し、準備の整った同年2月18日に第2次確認調査を開始した。

確認調査の行われていない島田字込之内1006-1, 9, 10, 11, 12, 13(6筆)、公図上の面積6,507㎡については未調査区域として残された。

11. 大和田新田芝山遺跡 g 地点・笹塚塚群 a 地点

平成27年9月9日、株式会社 オカムラメイトから八千代市大和田新田字平作813番1、公図上の面積942㎡に駐車場を建設することを目的とした確認依頼が市教委に提出された。

確認地の現況は山林であったが、区域内に直径6m、高さ50cm程の高まりが確認された。区域の一部は周知の埋蔵文化財包蔵地(No.159 大和田新田芝山遺跡、No.161 笹塚塚群)の区域内にあり、隣接する区域の調査では、縄文時代等の遺構・遺物が検出されていた。そのため、市教委は確認依頼地全域に対して、法第93条の届出及び協議が必要である旨、同年9月10日付け回答した。市教委と開発事業者との協議において、事業継続の意向が確認されたため、確認調査を行うこととなった。

同年9月24日付け、工事主体者である中川 正光氏から法第93条の届出が提出された。

市教委は、同年10月15日付けで法第99条の発掘調査を県教委に報告し、準備の整った同年10月20日に調査を開始した。

12. 白幡前遺跡 f 地点

平成27年12月24日、山田 精一氏から八千代市萱田2214番51, 2213番7、面積 97.99㎡に個人住宅を建築することを目的とした確認依頼が市教委に提出された。

確認地の現況は既存の建物のある宅地であったが、周知の埋蔵文化財包蔵地(No.185 白幡前遺跡)の区域内にあり、隣接する区域の調査では、古墳時代から奈良・平安時代の集落を中心とする遺構・遺物が検出されていた。そのため、市教委は確認依頼地全域に対して、法第93条の届出及び協議が必要である旨、同年12月25日付け回答した。市教委と開発事業者との協議において、事業継続の意向が確認されたため、確認調査を行うこととなった。法第93条の届出は、同年12月24日付けで、すでに同氏から提出されていた。

市教委は、翌平成28年1月7日付けで法第99条の発掘調査を県教委に報告し、準備の整った同年1月8日に調査を開始した。

13. 神明前遺跡 a 地点

平成28年1月25日、木下 一博氏から八千代市島田台字高堀1268番2 面積 388.93㎡に個人住宅を建築することを目的とした確認依頼が市教委に提出された。

確認地の現況は荒蕪地であったが、周知の埋蔵文化財包蔵地(No.36 神明前遺跡)の区域内にあり、市教委は確認依頼地全域に対して、法第93条の届出及び協議が必要である旨、同年1月27日付け回答した。市教委と事業者との協議において、事業継続の意向が確認されたため、確認調査を行うこととなった。

法第93条の届出は、同年1月25日付けで、すでに同氏から提出されていた。

市教委は、同年2月9日付けで法第99条の発掘調査を県教委に報告し、準備の整った同年2月12日に調査を開始した。

14. 内野南遺跡 h 地点

平成28年1月28日、内田 也子氏から八千代市吉橋字内野1064番1 面積 204㎡に建売住宅を建築することを目的とした確認依頼が市教委に提出された。

確認地の現況は既存住宅の解体中の宅地であった。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地(No.239 内野南遺跡)の区域内にあり、周辺の調査で縄文時代を中心とする遺構・遺物が検出されていた。市教委は確認依頼地全域に対して、法第93条の届出及び協議が必要である旨、同年2月1日付け回答した。市教委と開発事業者との協議において、事業継続の意向が確認されたため、確認調査を行うこととなった。

法第93条の届出は、同年1月28日付けで、すでに同氏から提出されていた。

市教委は、同年2月22日付けで法第99条の発掘調査を県教委に報告し、準備の整った同年2月23日に調査を開始した。

15. 下船田遺跡 c 地点

平成28年2月2日、株式会社 レスパイトサービスから八千代市大和田新田字新木戸前42番18, 19, 20, 28, 30, 31, 32, 面積 1,980.76㎡に宅地造成をすることを目的とした確認依頼が市教委に提出された。

確認地の現況は畑地であったが、遺物の散布はみられなかった。当該地は、周知の埋蔵文化財包蔵地(No.164 下船田遺跡)の区域外にあったが、現行の包蔵地の範囲と以前のものが著しく相違していたため、現地踏査と過去の調査内容を再検証し、確認調査の必要性があると判断した。市教委は確認依頼地全域に対して、法第93条の届出及び協議が必要である旨、同年2月8日付け回答した。市教委と開発事業者との協議において、事業継続の意向が確認されたため、確認調査を行うこととなった。

同年2月9日付けで、同社から法第93条の届出が提出された。

市教委は、同年3月7日付けで法第99条の発掘調査を県教委に報告し、準備の整った同年3月8日に調査を開始した。

参考文献

杉原重夫(1970)「下総台地西部における地形の発達」『地理学評論 43 12』

佐々木茂ほか(1981)「八千代市の地形・地質」『八千代市文化財総合調査報告 I』

Ⅱ 各調査の概要

1. ライノ作南遺跡 e 地点

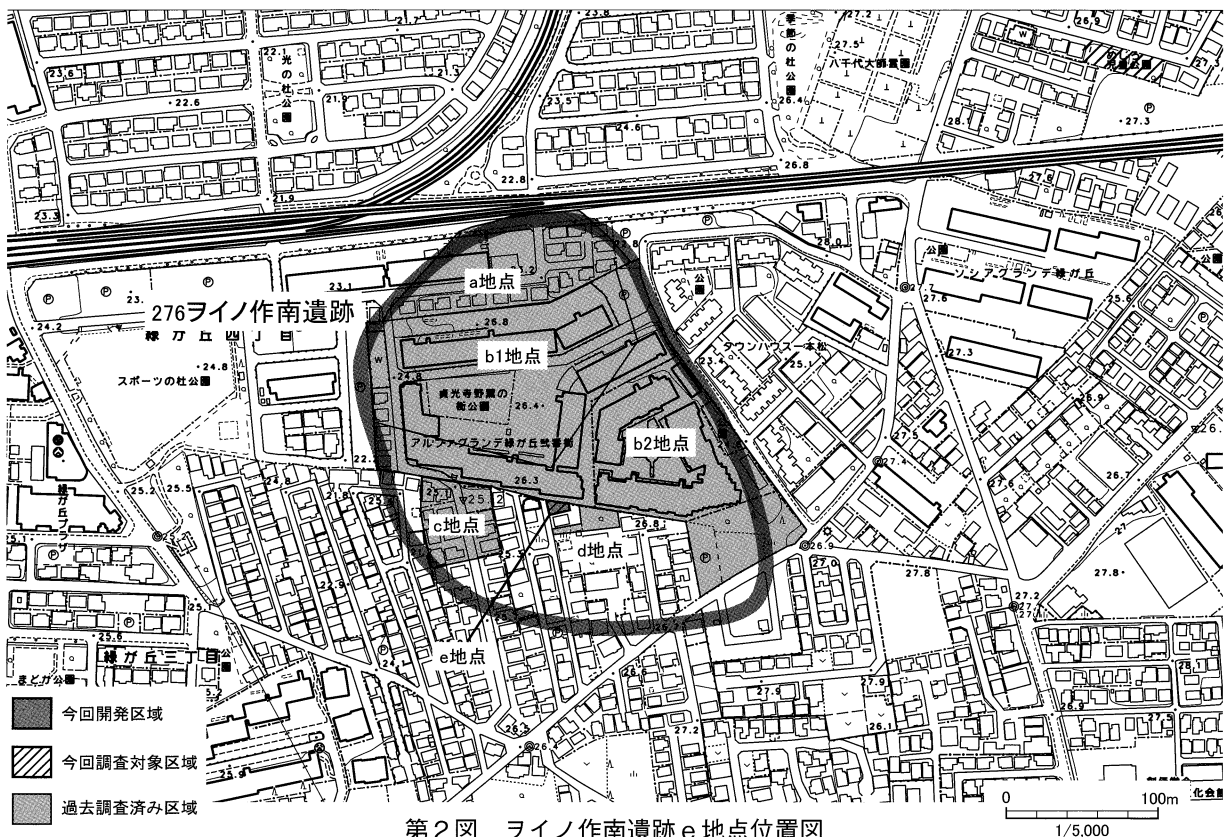
遺跡の立地と概要

ライノ作南遺跡は、市域の西部、大和田新田地区の中央、貞光寺野に所在する。現地地形は、大規模な区画整理事業を始め多くの開発により周辺一帯がすでに市街化されているため、旧地形を想像することは難しくなっている。旧地形における本跡は、桑納川の下流域で南岸から合流する花輪川の最上流にある北側に突き出た舌状台地の先端部にあたり、地形面としては、下総上位面の標高26mから27mに立地する。本跡の規模は、北西－南東方向で約300m、北東－南西方向で最大約220mである。

本跡の調査は、昭和62年、西八千代地区の大規模な区画整理事業を原因として行われた八千代市西八千代遺跡群調査会(以下、この節では「調査会」と言う。)が行った調査を最初として4回の調査で、縄文時代前期の集落、堅穴建物跡24軒や陥穴状土坑28基、平安時代から中世における溝状遺構数条が確認されていた。

b 地点では、2回の確認調査(b1地点、b2地点)と3次にわたる本調査で縄文時代前期の集落の南側部分が検出され、さらに、縄文時代早期の炉穴などの遺構の調査も行われている。その後、b 地点の南側に位置するc・dの2地点で調査が行われたが、縄文時代の遺構は検出されていない。

今回の調査区域 e 地点は、本跡の中央よりやや南側に位置し、b 地点南端に接する道路を隔てた向かい側にあたる。



第2図 ライノ作南遺跡 e 地点位置図

第1表 ライノ作南遺跡の調査

地点	調査面積(m ²)	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
a	570/5,700	確認	縄文時代 竪穴建物跡4, 陥穴状土坑3, 土坑11, 溝1	縄文土器(前期中心, 中期, 後期) 石器(磨製石斧, 石鏃, 石皿, 磨石)	調査会	S 62.11	*1
	2,000	本調査			調査会	S 63.5	
b	1,592/15,000	1次確認	縄文時代 竪穴建物跡20, 炉穴3, 陥穴15, 土坑6 平安時代~中世 溝2, 土坑2	旧石器時代 石器 縄文土器(早期, 前期, 中期, 後期) 石器(磨製石斧, 石鏃, 石皿, 磨石) 魚骨圧痕土器	市教委	H7.3	市内H6
	8,400	1次本調査			調査会	H8.8	*2
	1,766/17,200	2次確認	縄文時代 陥穴状土坑10, 土坑3, 溝1	縄文土器	市教委	H7.11	市内H7
	300	2次本調査	縄文時代 土坑2	縄文土器(前期, 中期, 後期)	調査会	H9.6	未報告
c	280/2,800	確認	なし	縄文土器(早期, 前期)	市教委	H8.6	市内H8
	下層 18/2,800						
d	44.5/464.18	確認	奈良・平安時代 溝1	なし	市教委	H23.10	未報告
	36	本調査				縄文土器	

*1「仲ノ台遺跡・ライノ作遺跡他発掘調査報告書」1996(H8) *2「ライノ作南遺跡発掘調査報告書」2000(H12) *3「ライノ作南遺跡b地点発掘調査報告書 2008(H20)

調査の方法と経過

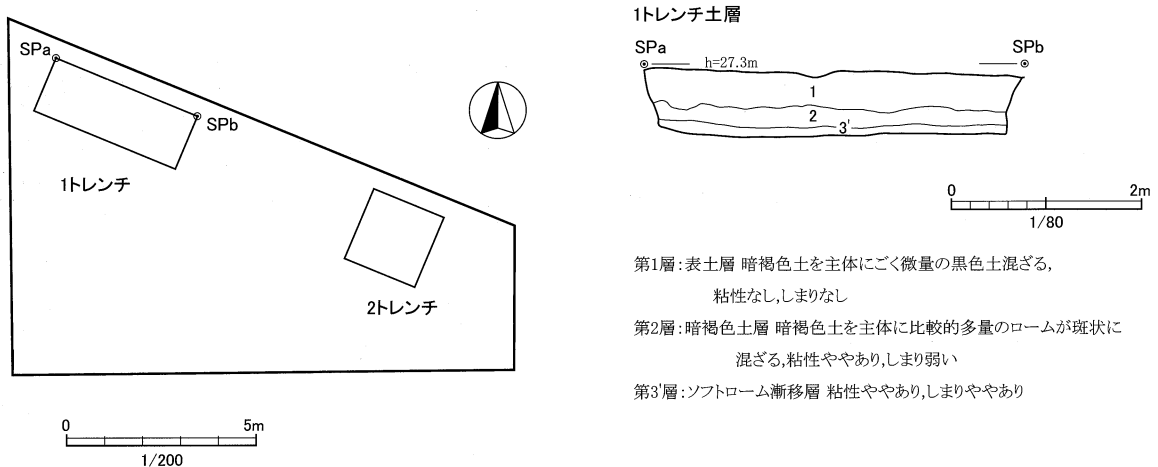
発掘調査は、調査区の面積が狭小のため、基準杭を設けず、任意に2か所のトレンチを設定することとした。掘削は人力により行い、掘削後、遺構の検出作業、土層の分析を行った。調査での標高の基準は、都市再生街区基本調査における街区三角点1010A(補正後X=-30195.21 Y=22251.675 H=25.155)を都市計画図上に表記された標高25.2mとして計測した。

調査は平成27年5月7日から5月11日まで実施した。7日木曜日:トレンチを設定する。人力によりトレンチの掘削を開始した。8日金曜日:引き続き掘削作業を継続し、あわせて遺構検出面であるローム層の清掃を行い、遺構検出作業を終了した。また、調査のための標高の基準となる仮ベンチマークをレベル移動して設定した。11日月曜日:土層の分層、実測、写真撮影等の記録作業を行う。トレンチの埋め戻しを行い、調査を完了した。

調査の概要

発掘調査は調査対象面積 105m²に対して、トレンチ2か所、掘削面積10m²、全体の9.5%の面積を調査した。調査区の土層は、現地表面より60cmほどで遺構確認面としたローム層に達した。ソフトローム漸移層以下は良好に残存しているが、その上層には自然堆積がみられなかった。

調査の結果、遺構・遺物は検出されなかった。



第3図 e地点トレンチ配置図・土層断面図

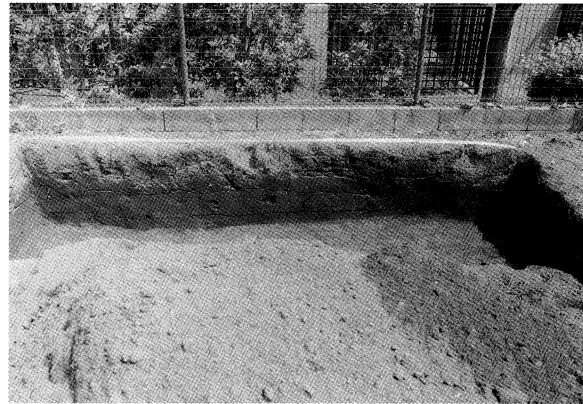
調査のまとめ

本跡は、縄文時代前期の集落を主体とする遺跡ではあるが、本地点においては遺構・遺物の検出はみられなかった。この調査結果は、調査対象面積が狭小であることや周辺が宅地化しており土地の改変が進んでいることもあるが、b地点などの調査成果やc地点、d地点で遺構・遺物が希薄であったことなどから推測すると、遺跡の主体部が本地点よりも北側の台地先端部の極めて狭い範囲に限定される可能性がある。

図版1 ライノ作南遺跡 e 地点



1. 調査区域全景



2. 1トレンチ土層堆積状況



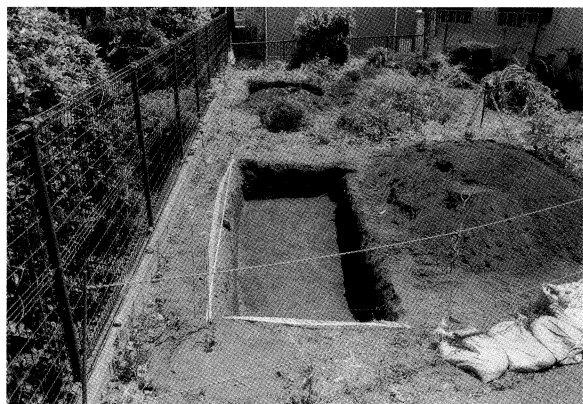
3. 1トレンチ確認面検出状況



4. 2トレンチ確認面検出状況



5. 調査風景



6. 完掘状況

2. 高津新山遺跡 d 地点

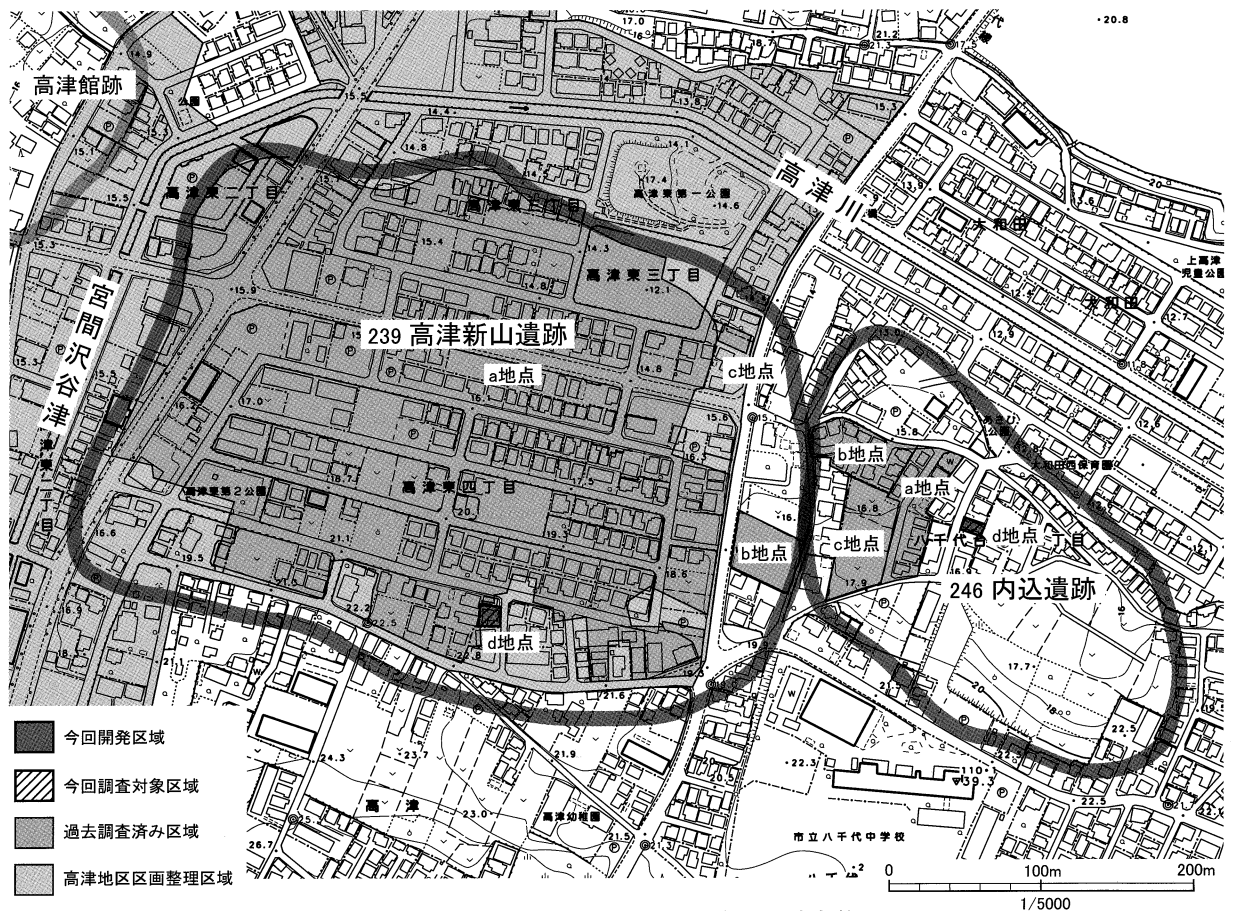
遺跡の立地と概要

高津新山遺跡は、市域南西部の高津地区に所在する。新川の上流域、大和田付近で、西側から流れ込む高津川上流の右岸、標高15mから22mの河岸段丘上に立地する。地形面としては千葉段丘面から下総下位面にかけて占地している。想定される遺跡の範囲としては、東西方向約450m、南北方向約340mの広がりがあるとみられる。

本跡の調査は、過去3回行われている。大規模な区画整理事業に先行して、a地点の調査が行われた。この事業区域に本跡の大半の部分が占められていたが、区画整理の関係で調査区域内に未調査地が残された。この調査の結果、古墳時代から奈良・平安時代の集落、竪穴建物跡や掘立柱建物跡多数が検出されている。また、中世における地下式坑もみられた。出土遺物では、旧石器時代のナイフ形石器をはじめ、縄文土器のほか、古墳時代から奈良・平安時代に至る土師器も多数検出されている。各時代を通じて人々の生活の痕跡がみられた。

b地点は区画整理区域から外れていたが、竪穴建物跡などは確認できなかった。c地点は区画整理区域内の未調査地であったが、同様に竪穴建物跡などは検出されていない。

今回の開発区域は、遺跡が立地する台地の南側の平坦面、地形面としては、上位の河岸段丘面である下総下位面に立地する。また、区画整理区域内の調査時における未調査地の一部で、調査が行われたa地点の南端に接する。



第4図 高津新山遺跡 d 地点・内込遺跡 d 地点位置図

調査の方法と経過

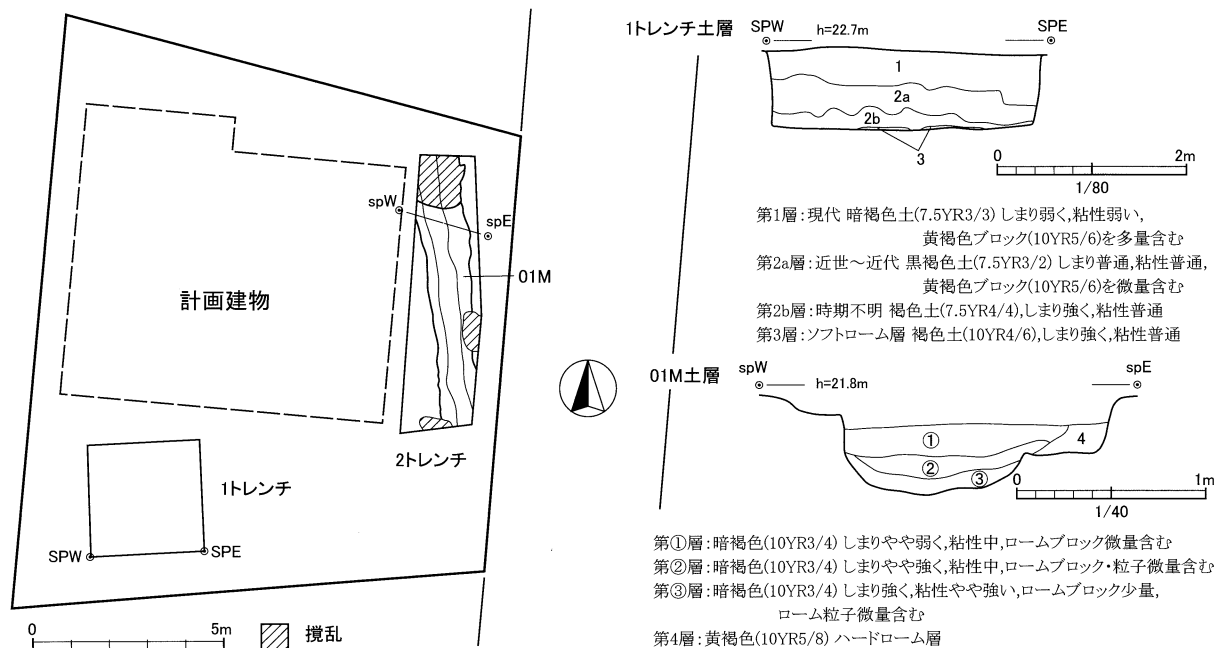
発掘調査は計画されている建物の建築予定地を避け、調査区の形状にあわせて任意にトレンチを設定した。掘削は遺構確認面であるローム上面まで人力により表土を除去した。掘削後、遺構の検出作業、土層の分析を行った。この調査での標高の基準は調査区付近で都市計画図上の標高の明らかな地点を基準に計測した。

調査は平成27年5月12日から5月14日まで実施した。12日火曜日:トレンチの設定, 人力で1トレンチ(T1), 2トレンチ(T2)の掘削を開始。2トレンチで溝検出。13日水曜日:掘削継続, 2トレンチの溝精査。

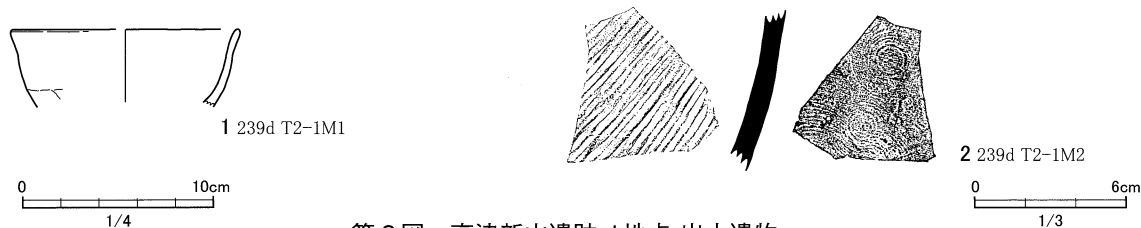
第2表 高津新山遺跡の調査

地点	調査面積 (㎡)	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
a	8,180/50,000	1次確認	竪穴建物跡34, 掘立柱穴列5, 土坑92, 溝18	旧石器時代 ナイフ形石器, ポイント, 黒曜石剥片 縄文土器(前期, 中期, 後期, 晩期) 奈良・平安時代 土師器, 須恵器, 紡錘車 中近世 陶磁器, 銭貨, 刀子	市教委	S56.11	*1
	3,779/26,800	2次確認	竪穴建物跡10, 土坑70, 溝27, 地下式坑1	旧石器時代 剥片 縄文土器(前期, 中期, 後期), 石器 奈良・平安時代 土師器, 鉄滓, 輪羽口 中世 陶器片	市教委	S57.12	*2
	3,350/20,000	3次確認	竪穴建物跡15, 土坑36, 溝3	縄文土器(前期, 中期, 後期), 石鏃 弥生土器 古墳時代(前期) 土師器 奈良・平安時代 土師器	市教委	S58.7	*3
	79,000	本調査	竪穴建物跡, 掘立柱建物跡, 土坑その他	縄文土器, 古墳~平安 土師器, 須恵器他	調査会	S60.4~ H1.3	未報告
b	152/1,592.37	確認	近世・近代 溝2	奈良・平安時代 土師器	市教委	H25.11	市内H26
c	16/229.34	確認	近世・近代 溝1	奈良・平安時代 土師器	市教委	H25.11	市内H26

*1 「高津新山遺跡-昭和56年度確認調査の概要-」 1982(S57) *2 「高津新山遺跡 II-昭和57年度確認調査の概要-」 1983(S58)
*3 「高津新山遺跡 III-昭和58年度確認調査の概要-」 1984(S59)



第5図 高津新山遺跡 d 地点 トレンチ配置図・土層断面図



第6図 高津新山遺跡 d 地点 出土遺物

溝覆土中から古墳時代後期以降の土師器片出土。14日木曜日溝状遺構(1M)調査実施。覆土中から陶器片や土師器坏出土。埋め戻しを実施し、調査を完了した。

調査の概要

調査区の土層は、現地表面より30~80cmほどの堆積土を除去するとソフトローム層が検出された。表土層は攪乱されていたが、下層は自然堆積のまま残存していた。

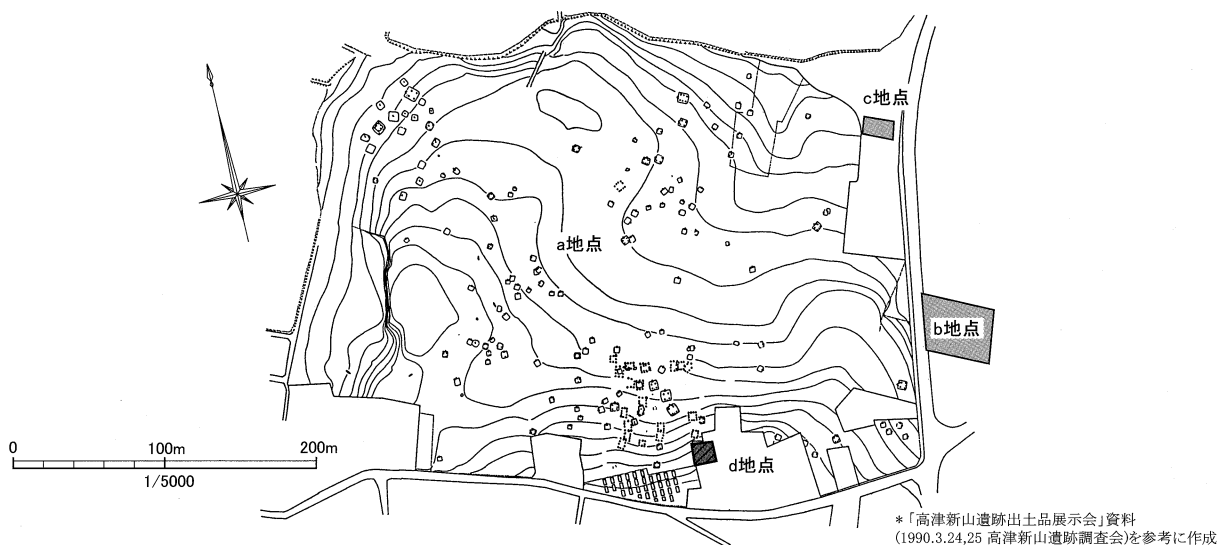
発掘調査は、調査対象面積 165.44㎡に対して、トレンチ2か所、掘削面積16.5㎡、全体の9.97%の面積を調査した。検出された遺構が、溝状遺構のみであったため、その部分の遺構調査を行った。調査面積は32.67㎡であった。

確認調査の結果、溝状遺構(1M)が1条検出された。この溝状遺構は調査区域東端を南北方向に延びており、溝の幅は約1m20cm、深さは約40cm、検出された長さ約7mで、しっかりと掘り込まれた溝状遺構であることが判明した。

今回の確認調査により出土した遺物は、総数8点であり、すべて2トレンチ内の溝状遺構(1M)からの出土であったが、遺構は攪乱を相当受けており、すべてが遺構に伴うものではないと思われる。出土遺物の内訳は、土師器の小破片が6点(内1点第6図1)、陶器の小破片(第6図2)が1点、礫が1点であった。

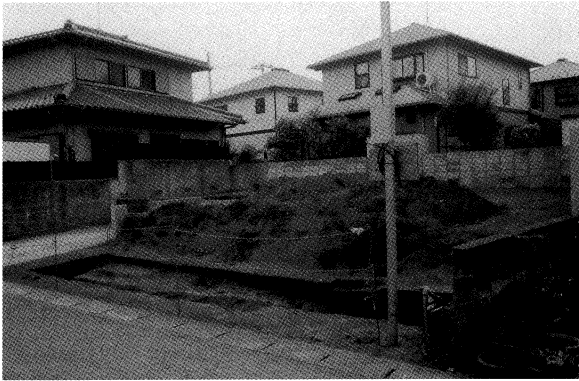
調査のまとめ

現在、a地点の調査報告がないため、本跡の内容を正確に把握することはできないものの、遺跡の主体は、古墳時代から奈良・平安時代にわたる大規模な集落を中心として、広範囲に展開するものと思われる。そして、今回の調査地点はそのa地点の南端部に位置しているが、小規模な調査でもあり、堅穴建物跡などの集落を構成する遺構を検出することはできなかった。第7図でみる限り、本地点のすぐ北側まで、集落の一部が迫っていることから、現時点では、集落や建物群がさらに南側に展開する可能性を否定できない。

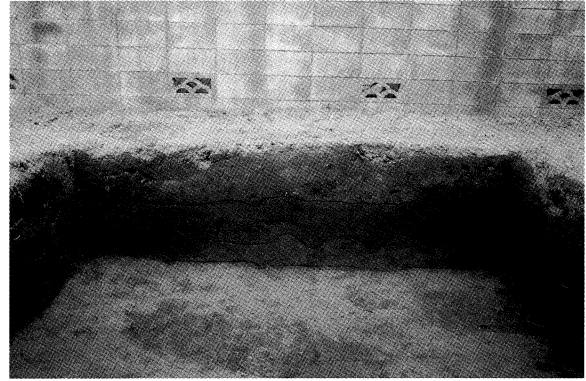


第7図 高津新山遺跡 a地点遺構検出状況と各地点位置図

図版2 高津新山遺跡 d 地点



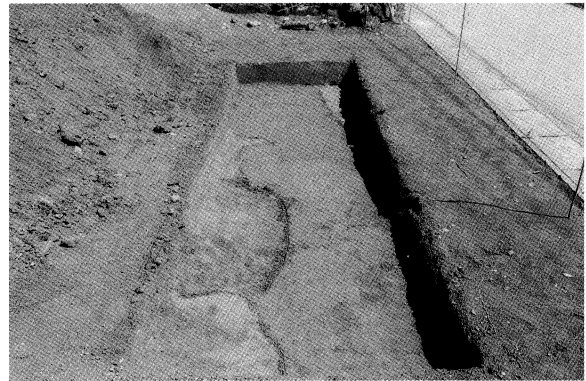
1. 調査区域全景



2. 1トレンチ土層堆積状況



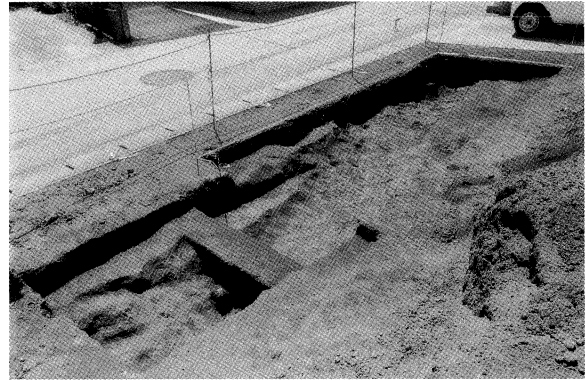
3. 1トレンチ確認面検出状況



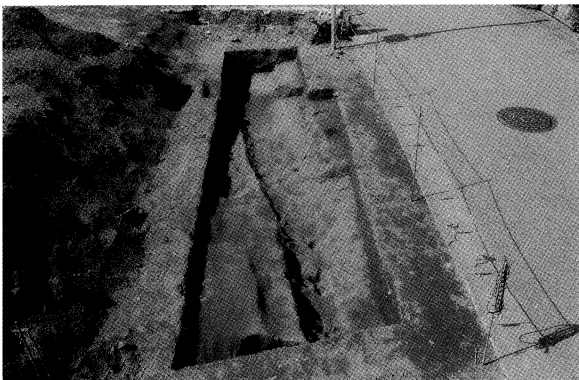
4. 2トレンチ確認面検出状況



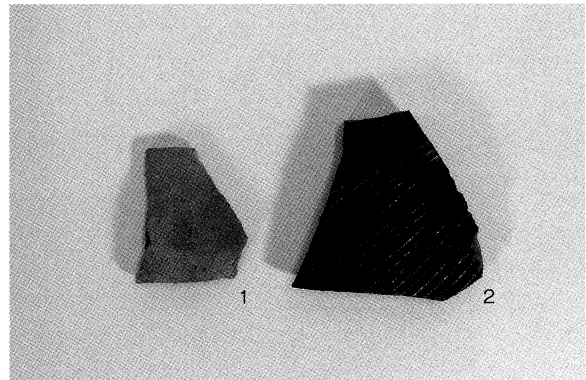
5. 1M土層堆積状況



6. 1M遺物出土状況



7. 1M完掘状況



8. 出土遺物(1, 2)

3. 内込遺跡 d 地点

遺跡の立地と概要

内込遺跡は、市域の南西部の八千代台17丁目地区に所在する。新川の中流域で、西側から流れ込む高津川中流域の右岸、標高15mから20mの下位の河岸段丘(千葉段丘面)上に立地する。前出の高津新山遺跡の東側に、小さな谷津を挟んで隣接する。本跡が立地する段丘面は北側に向かって緩やかに傾斜する。

本跡の調査は、過去3地点で行われている。下表のとおり、本跡域の西側で行われた調査では、古墳時代中期から後期の竪穴建物跡や平安時代の竪穴建物跡・掘立柱建物跡などが検出されていた。そのほか、縄文時代の炉穴や陥穴なども散発的に確認されている。出土遺物では、縄文土器も多く出土しているが、古墳時代後期や平安時代の土師器、須恵器が主体となっている。

今回の調査区域 d 地点は、跡域のほぼ中央、北側に傾斜する緩やかな段丘面のほぼ中央に位置する。

調査の方法と経過

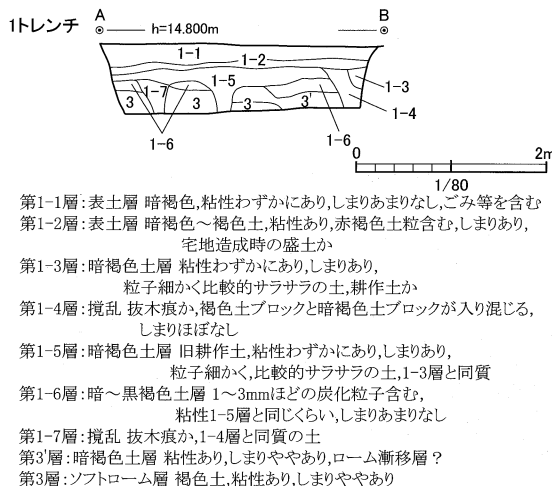
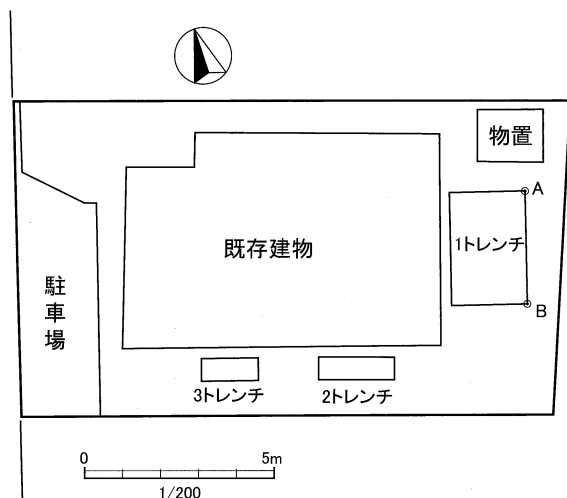
発掘調査は、調査対象区域内に既存の建物や各種の障害物、さらに掘削による廃土処理のためのスペースの確保のため、位置や規模について任意にトレンチを設定せざるを得なかった。掘削は遺構確認面であるソフトローム上面まで人力により表土を除去した。掘削後、遺構の検出確認作業、土層の分析を行った。

この調査での標高は、調査区付近に設置された都市再生街区基本調査における補助点3 C059(X=31642.921 Y=23847.868 H=14.517補正済み)を参考に計測した。

第3表 内込遺跡の調査

地点	調査面積 (㎡)	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
a	305/2,340	確認	古墳時代後期 竪穴建物跡9, 土坑7, 溝2	古墳時代 土師器	市教委	H8.12	市内H8
	2,338.30	本調査	縄文時代 炉穴1, 陥穴1 古墳時代中期 竪穴建物跡1 同後期 竪穴建物跡15, 掘立柱建物跡5, 土坑8 平安時代 竪穴建物跡5, 掘立柱建物跡2, 溝1	縄文土器(早期, 中期), 土偶片, 石鏃 古墳時代(中期, 後期) 土師器, 須恵器 平安時代 土師器, 須恵器他	調査会	H9.6	*1
b	236/2,013 下層 3/2,013	確認	縄文時代 炉穴1, 陥穴1 古墳時代後期 竪穴建物跡6, 掘立柱建物跡1 平安時代 竪穴建物跡2, 掘立柱建物跡1	縄文土器(早期, 中期), 石鏃 古墳時代(後期) 土師器, 須恵器 平安時代 土師器, 須恵器, 刀子	市教委	H13.12	市内H14
	1,500	本調査	中近世 溝5, 土坑2	平安時代 土師器, 須恵器, 刀子	調査会	H14.2	*2
c	275/2,388	確認	古墳時代後期 竪穴建物跡4, 土坑8	古墳時代 土師器, 須恵器, 鉄製品, 石製品	市教委	H25.11	市内H26
	216	本調査	奈良・平安時代 土坑2	奈良・平安時代 土師器, 須恵器	市教委	H26.2	*3

*1「内込遺跡発掘調査報告書」2001(H13) *2「内込遺跡 b 地点発掘調査報告書」2003(H15) *3「内込遺跡 c 地点」2015(H27)



第8図 内込遺跡 d 地点トレンチ配置図・土層断面図

調査は平成27年5月14日から5月20日まで実施した。14日木曜日:区域内の環境整備, トレンチの設定, 1 トレンチの掘削開始。15日金曜日:レベル移動, 1 トレンチ掘削終了。遺構遺物なし。18日月曜日:1 トレンチの土層実測, 写真。同埋め戻し。2 トレンチ, 3 トレンチの掘削開始。19日火曜日:中止。20日水曜日:2 トレンチを清掃し, 土層実測。3 トレンチ掘削が終了し, 土層実測。トレンチの埋め戻しを終了した。機材撤収により調査を完了した。

調査の概要

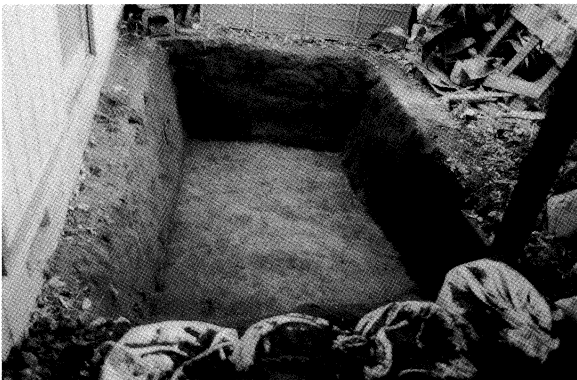
調査区は, 周辺一帯が既存の住宅地でもあり, 本来の地形の微妙な変化はわからないが, 緩やかに傾斜する地形とみられる。調査区の土層の堆積は, 宅地化されているため全体に攪乱が激しいが, 旧表土層である旧耕作土やソフトローム層, その漸移層などが確認され, 自然堆積が残存することも確認された。遺構確認面としたソフトローム層まで50cm~60cm程であった。ローム面には傾斜がみられた。

発掘調査は, 調査対象面積 119.25㎡に対して, トレンチ3か所, 掘削面積は8.1㎡, 6.79%の面積を掘削した。調査の結果, 遺構・遺物は検出されなかった。

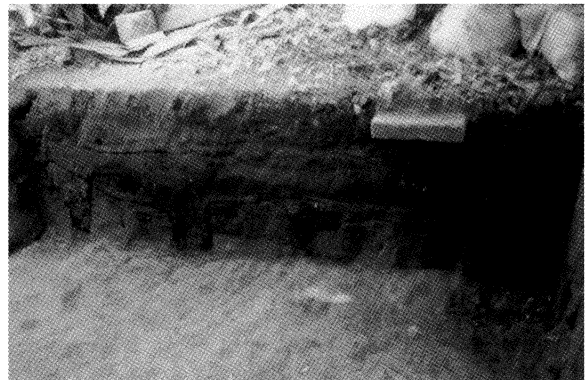
調査のまとめ

本跡域の西側に調査が集中していることもあり, 本跡の全体像を正確につかむにいたってはいないが, 跡域の東側にも段丘面の広がりが見られ, 古墳時代等の各時代の遺構の展開が想定される。しかし, 今回の調査地点においては, 遺構・遺物の検出はみられず, あらたな資料は得られなかった。

図版3 内込遺跡 d 地点



1. 1 トレンチ確認面検出状況



2. 1 トレンチ東面土層堆積状況



3. 2 トレンチ確認面検出状況



4. 3 トレンチ確認面検出状況

4. 高津新田遺跡 e 地点・高津新田野馬堀遺跡 m 地点

遺跡の立地と概要

旧来、千葉市や習志野市との行政境には、野馬土手や野馬堀が確認され、高津新田野馬堀遺跡として認識されていた。また、平成4年の野馬堀遺跡 f 地点の調査時において、高津新田遺跡(当初は「大請遺跡」の名称が用いられた。)の存在が新たに確認されていたため、今回の開発区域はこの両包蔵地にまたがって位置していると推定された。

高津新田野馬堀遺跡は、市域の南西部、八千代台地区から高津地区の南端、千葉市と習志野市の市境に所在する。この遺跡は、江戸時代に馬の放牧のために整備された小金牧の中の下野牧、その南東端の一部をさしている。高津新田は八千代台地区の旧村名・旧地名である。現市境はこの野馬堀を基準に行政境としている。牧の本体は千葉市側・習志野市側にあり、本市にとっては本跡(市境)を境に牧場の外側となる。本跡は高津川(八千代1号幹線)の支流、足太谷津(葦太谷津・足太雨水1号幹線)※第1図参照の南際に沿って造られているが、その東端では、屈曲して北上する足太谷津の東際に沿って延びていると推定される。この一帯も市街地化が進み現況では土塁等の痕跡を確認できないが、明治時代初期に作成された迅速測図にわずかにその痕跡をみることができる。迅速測図を基に推定した位置を第9図に破線で示した。跡域の西側は、高津川のさらに上流で分岐する宮間沢谷津を結ぶと考えられる。市域で確認される本跡の規模は、東西方向で1,100mほどと推定される。

野馬堀遺跡は、過去12地点で調査が行われている。開発区域による調査区の制限もあるが、1条から3

第4表 高津新田遺跡の調査

地点	調査面積(m ²)	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
a	489/4,297	確認	野馬堀遺跡 f 地点として調査堀2	陶磁器、泥面子	市教委	H4.4	未報告
		本調査	縄文時代早期 堅穴建物跡1、土坑2 (大請遺跡との名称もあり)	縄文土器(早期撚糸文系土器) 有舌尖頭器、石鏃、フレイク			
b	690/4,336	確認	野馬堀遺跡 h 地点として調査 野馬堀2野馬土手一部、溝1	近世・近代 陶磁器、泥面子、基石、銭貨	市教委	H12.3	市内H12
c	1,436/12,681	確認	縄文時代 土坑1	縄文土器、近世陶磁器、泥面子	市教委	H17.11	*1
		本調査	近世 溝3				
d	278/2,958.85	確認	近世 野馬堀2	近世陶磁器	市教委	H23.7	市内H24

*1「不特定遺跡発掘調査報告書 V」2008(H20)

第5表 高津新田野馬堀遺跡の調査

地点	調査面積(m ²)	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
a	/6,700	確認	比較的新しい掘り込み1 (中東遺跡として調査)	土師器、カワラケカ	市教委	S59.1	未報告
b	163/1,200	確認・本	近世 野馬堀2	近世 陶磁器、砥石、泥面子	調査会	S60.5	*1
c	*2 1,617.99	—	—	—	—	—	—
d	*3 90/300	確認	野馬堀3	なし	市教委	H2.7	市内H2
e	*4 約40/1,054	確認	野馬土手・堀1	なし	市教委	H4.12	市内H4
f	489/4,297	確認	野馬堀 堀2	陶磁器、泥面子	市教委	H4.4	未報告
		本調査	高津新田遺跡(大請遺跡) a 地点 縄文時代早期 堅穴建物跡1、土坑2	縄文土器(早期撚糸文系土器) 有舌尖頭器、石鏃、フレイク			
g	500/500 18.40	確認	野馬堀2、近世・近代土坑1	近世・近代 陶磁器	市教委	H10.1	*5
		本調査					
h	690/4,336	確認	高津新田遺跡 b 地点と同時調査 野馬堀2、野馬土手一部、溝1	近世・近代 陶磁器、泥面子、基石、銭貨	市教委	H12.3	市内H12
		本調査	野馬堀、野馬土手				
i	36/208 22	確認	野馬堀1	近世・近代 陶磁器、泥面子	市教委	H12.8	市内H13
		本調査					
j	106/1,080	確認	野馬堀1	近世 陶磁器	市教委	H22.8	市内H23
k	59/629	本調査	高津新田遺跡 d 地点として調査 野馬堀2	近世 陶磁器	市教委	H23.8	未報告
l	144/1,382 116/1,382	確認	野馬堀3	近世 陶磁器	市教委	H27.1	市内H27
		本調査	野馬堀3	近世 陶磁器			

*1「千葉県八千代市高津新田野馬堀」1999(H11) *2 昭和62年10月、八千代台南3丁目52,53,57-1,57-8の照会に対し、「なし」回答。その後地点名を付与 *3 d 地点の調査に関する面積が不明なため図面より計算した。開発面積1,090m²(公園) *4 野馬土手を削平するために土手部分のみ調査 *5「不特定遺跡発掘調査報告書 1」2002(H14)当時高津新田野馬堀遺跡は遺跡地図上になかったため、高津新田遺跡として調査。また、同報告書の報文中「c 地点とする」との記載は誤りである。 *6「千葉県八千代市高津新田野馬堀遺跡 h 地点」2007(H19)

条の大小の溝や堀が各地点で確認されている。これらの溝や堀の方向は前述のとおり、市境に沿って掘られている。ただ、主となる堀が1条か2条かは明確ではなく、部分的に2条になっているのかもしれない。その外側に検出される小溝は、常に堀に付随して検出されている。また、築かれた土手は、昭和60年代前半まで一部では残存していたが、現在は壊滅している。

今回の調査区 m 地点は、本跡の東側に位置し、市境が屈曲する地点に近い。

高津新田遺跡は市域の南西部、八千代台地区、千葉市との市境に所在する。市境に沿って足太谷津が屈曲する一帯に立地する。本跡の中央を同谷津が開析している。谷津南岸に立地する a 地点で縄文時代早期の竪穴建物跡が1軒検出された以外、各地点で縄文時代の土坑が3基まばらに検出されている。

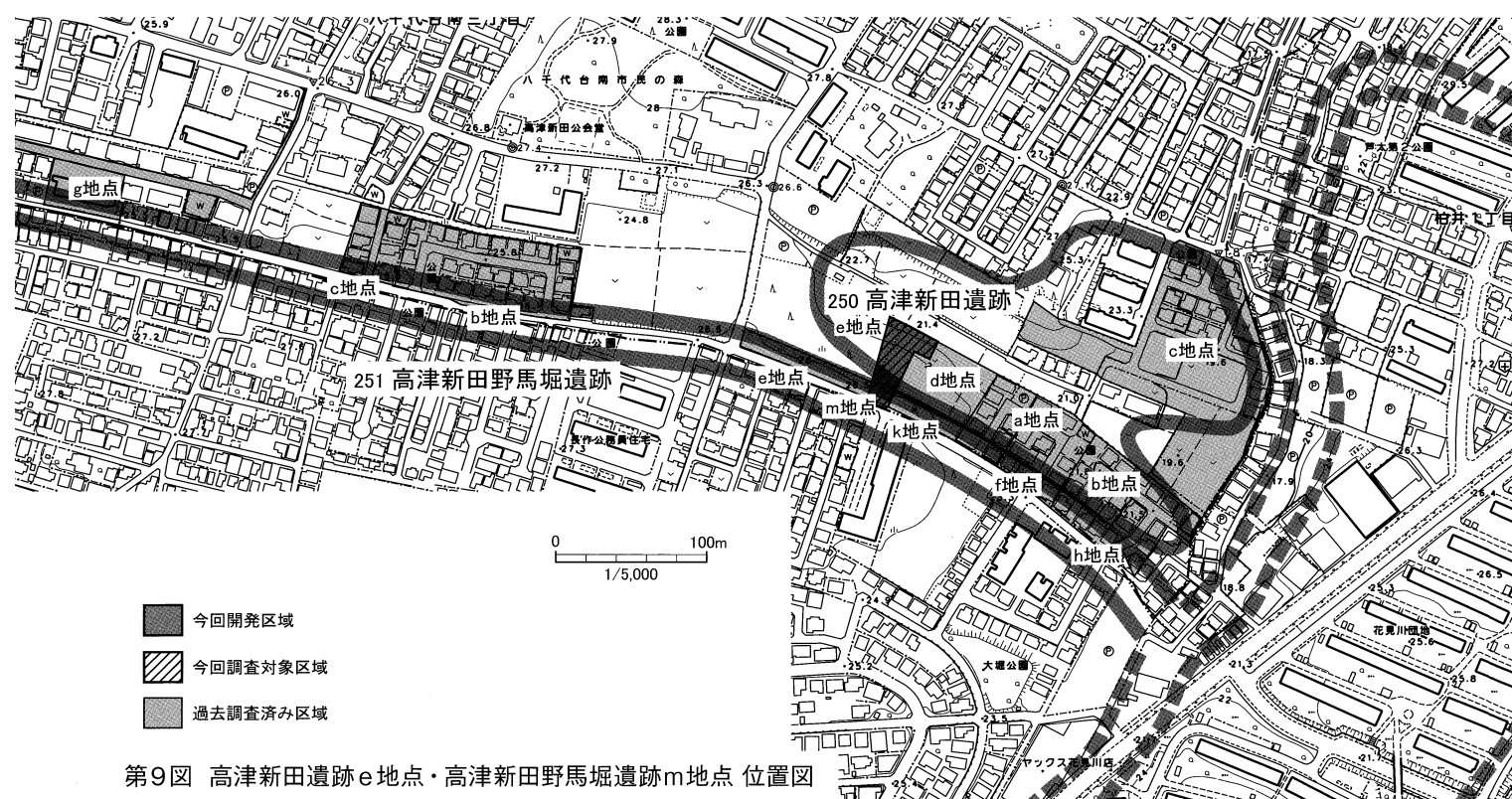
今回の調査区 e 地点は、高津新田遺跡の北西側に位置し、足太谷津の南岸の斜面に立地する。a 地点で検出された縄文時代早期の竪穴建物跡から約100m東に位置する。

調査の方法と経過

発掘調査は、調査区の形状に合わせて2m×4mのトレンチを基本に設定した。野馬堀側には堀や溝の検出のため、長めのトレンチを設定している。掘削は遺構確認面であるソフトローム上面まで重機により表土を除去した。掘削後、遺構の検出確認作業、土層の分析を行った。

この調査での標高は、調査区付近で都市計画図上の標高の明らかな地点を基準に計測した。

調査は平成27年5月26日から6月3日まで実施した。26日火曜日:調査区の環境整備のため草刈。27日水曜日:草刈, トレンチの設定。28日木曜日:重機による表土除去作業開始。T1～T7, T9, T10掘削終了。T1で野馬堀を確認。T4でピット2基確認。29日金曜日:T10で溝2条検出, T4でピットを検出したため、拡張。6月2日火曜日:T1精査, 小溝を検出。T10から近世陶磁器が出土。遺構の検出状況や土層の記録を行う。3日水曜日:埋め戻し作業を実施し、調査を完了した。



第9図 高津新田遺跡 e 地点・高津新田野馬堀遺跡 m 地点 位置図

調査の概要

調査区は足太谷津の南側に面して立地し、北側に向かって急激に傾斜する地形であった。調査区の土層は、現地表面より30cmほどで遺構確認面としたソフトローム層が検出され、その間は耕作土の表土層のみであった。

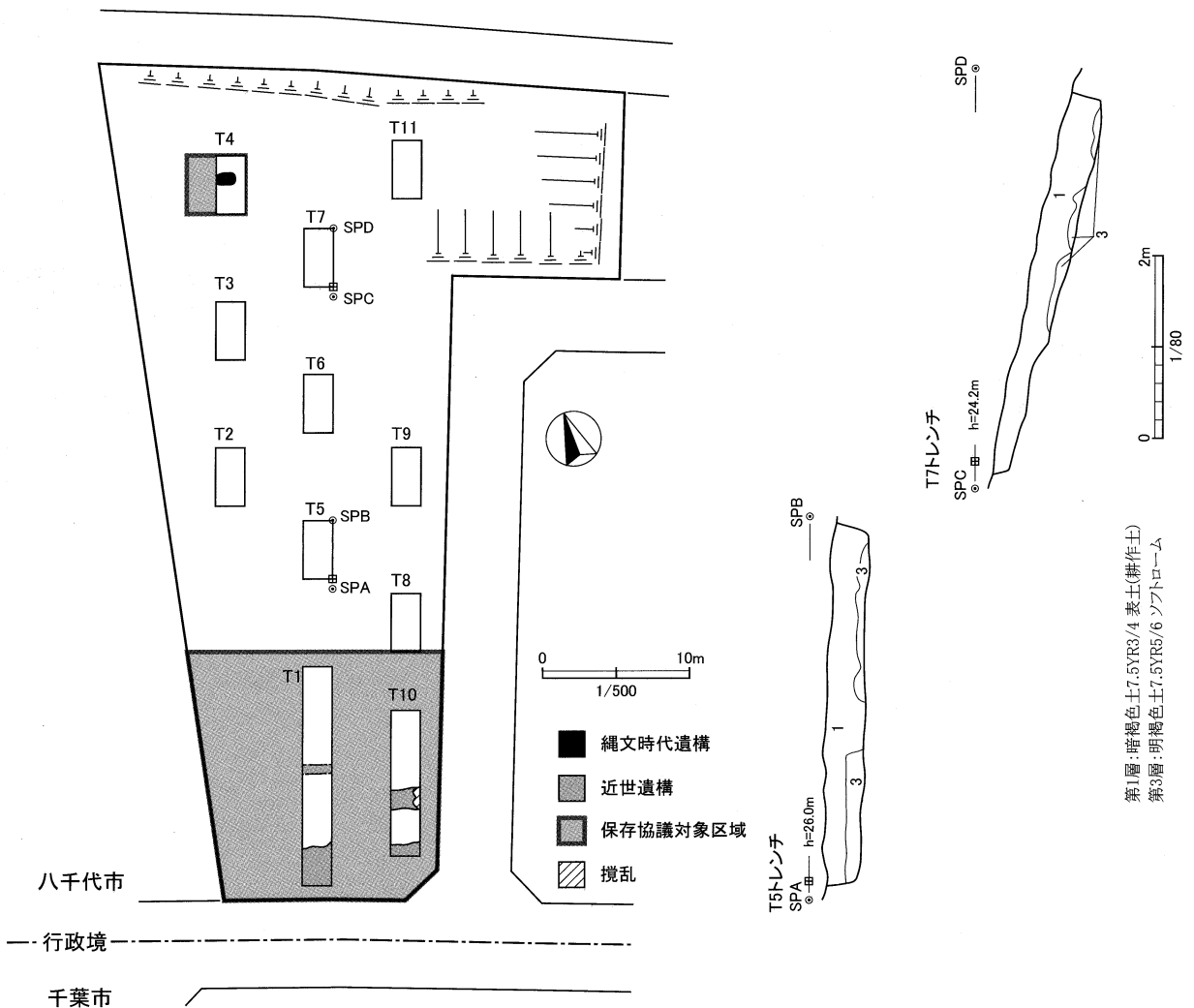
発掘調査は、調査対象面積 1,231.36㎡に対して、トレンチ11か所、掘削面積は118㎡、9.58%の面積を掘削し、調査した。

調査の結果、縄文時代の土坑1基と近世の野馬堀跡2条が検出された。出土遺物の総数は2点で、内外器面が黒変した土師質土器の小片1点、陶器茶碗破片1点であった。いずれもT2から出土している。

調査のまとめ

今回の調査の結果、高津新田遺跡の一部とみられる縄文時代の土坑1基と江戸時代に作られた野馬堀の一部を検出することができた。そのため、協議対象区域は土坑の検出された16㎡(高津新田遺跡e地点)と野馬堀の検出された269㎡(高津新田野馬堀遺跡m地点)、合計285㎡が対象となった。

その後、開発事業者と市教委との協議の結果、現状保存が困難なため、本調査による記録保存が行われることになった。本調査は平成27年6月23日から7月16日まで行われた。本整理も同年度中に行われ、報告書が刊行された。



図版 4 高津新田遺跡 e 地点・高津新田野馬堀遺跡 m 地点



1. 調査区全景



2. T7 トレンチ土層堆積状況



3. T5 トレンチ土層堆積状況



4. T1 トレンチ遺構検出状況



5. T10 トレンチ遺構検出状況



6. T1 トレンチ遺構検出状況



7. T4 トレンチ遺構検出状況



8. 出土遺物

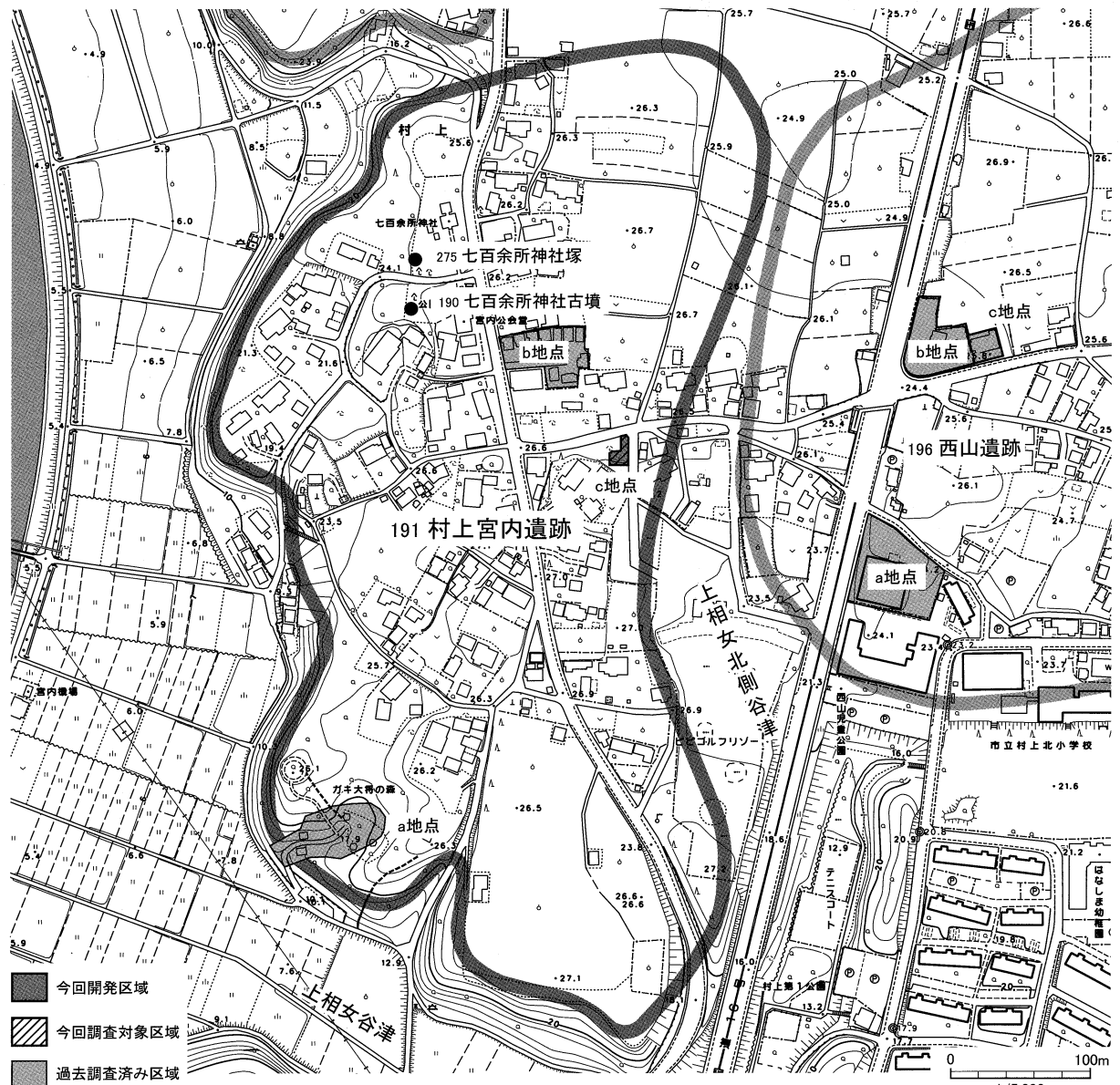
5. 村上宮内遺跡 c 地点

遺跡の立地と概要

村上宮内遺跡は市域の中央部、村上地区に所在する。新川の右岸の標高26mから27mの河岸段丘、下総上位面の段丘面上に立地する。遺跡の範囲は平成9年の遺跡統廃合により、数遺跡を一つにまとめた結果、複数の舌状台地にまたがる遺跡となった。規模としては東西方向約350m、南北方向約700mである。

本跡の調査は、2回行われている。a地点は本跡域の南端の小さな谷津部分で、遺構は確認されていない。b地点は跡域の中央部、台地奥の平坦部で調査が行われている。狭い調査区域ながら、古墳時代の集落の一部で、高い遺構密度で竪穴建物跡が多数検出されている。

今回の調査区域c地点は、跡域中央部の東側に位置する。現在の地形から、周辺で埋め立てや造成が行われた結果、平坦な地形に立地するようにみえるが、本来の地形としては、本跡南側の上相女谷津から北側に分岐する上相女北側谷津が北側の奥深くまで複雑に開析し、南東側に突出した小規模な舌状台地を形成していた。c地点はその台地上に立地していた。



第11図 村上宮内遺跡 c 地点位置図

調査の方法と経過

発掘調査は開発区域内に建築計画があるため、建築物の予定場所を避けて2m幅のトレンチを任意の位置・長さで設定した。掘削は人力により表土を除去した。掘削後、遺構の検出、土層の分析を行った。

この調査での標高は、都市計画図上の標高の明らかな地点を基準に計測した。

調査は平成27年6月1日から8日まで実施した。1日月曜日:トレンチ設定、調査区北側の塚状の部分のトレンチ1の掘削を開始、塚状の地形の簡易測量実施。2日火曜日:トレンチ掘削。3日水曜日:中止。4日木曜日:掘削完了。レベル移動。5日金曜日:各トレンチの土層分析、実測・写真。8日月曜日:埋め戻しを行い、調査を完了した。

調査の概要

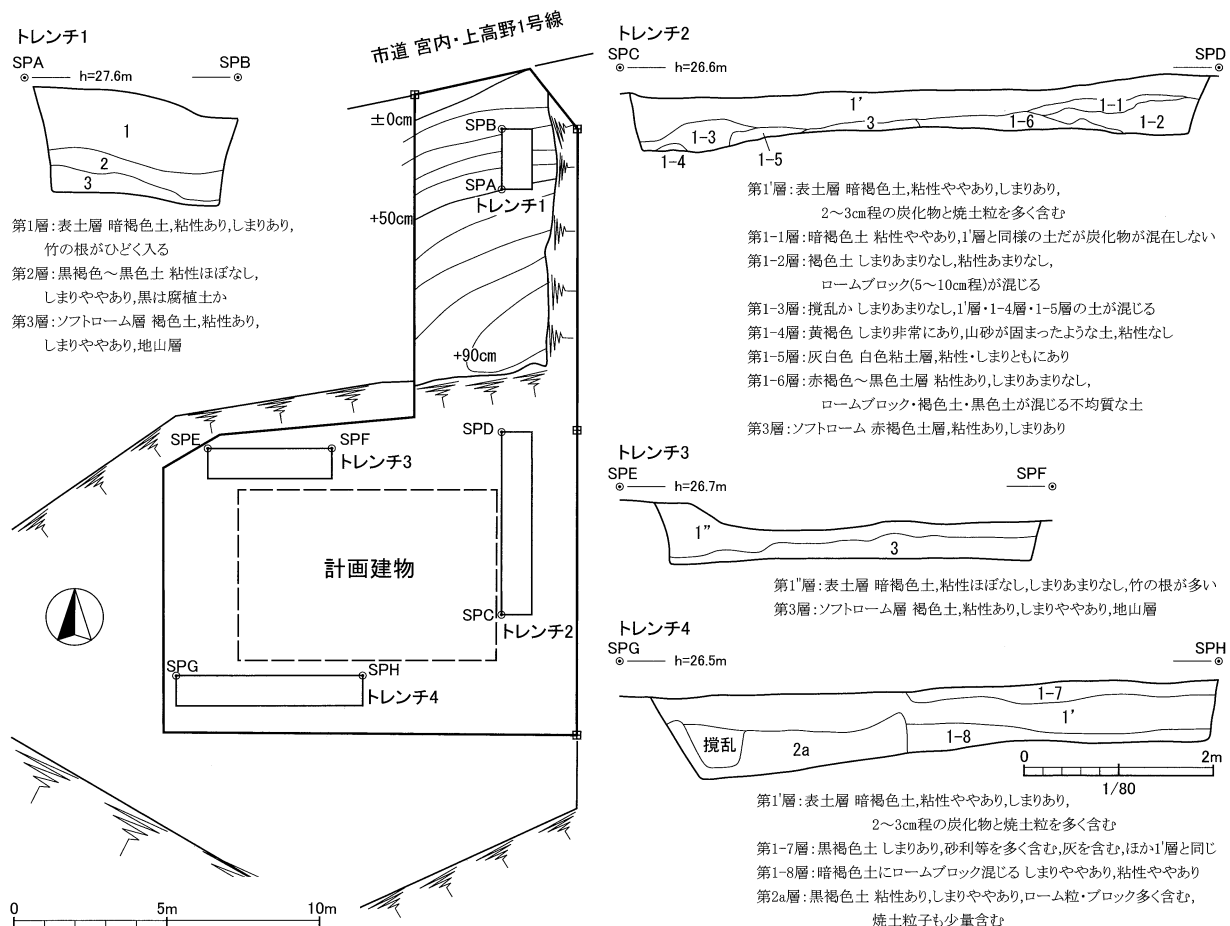
調査区は土地の改変が激しく、定かではないが、南東に突き出た小さな舌状台地先端と推測される。

調査区の土層は、調査区北側のトレンチ1で自然堆積を確認できたが、他のトレンチでは掘削や盛土等による土地の改変が激しく、自然堆積を確認できなかった。

第6表 村上宮内遺跡の調査

地点	調査面積 (㎡)	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
a	/2,000	確認	なし	縄文土器(早期, 中期, 後期) 平安時代 土師器, 須恵器	市教委	S60.12	*1
b	256/2,043	確認	古墳時代 竪穴建物跡11 時期不明 溝1, 土坑1	古墳時代前期 土師器 中近世 陶磁器	市教委	H12.10	市内H13

*1「埋蔵文化財発掘調査報告集」1987(S62)



第12図 c 地点トレンチ配置図・土層断面図

発掘調査は、調査対象面積194.94㎡に対して、トレンチ4か所、掘削面積は18㎡、9.23%の面積を掘削し調査した。この調査の結果、遺構・遺物は検出されていない。

調査のまとめ

今回の調査では、調査区域北側で地表面の起伏を塚と想定して調査を開始したが、土層の分析から自然地形であると判断された。また、その他の部分では、造成等による土地の改変が激しく、遺構や遺物も確認できなかった。

図版5 村上宮内遺跡c地点



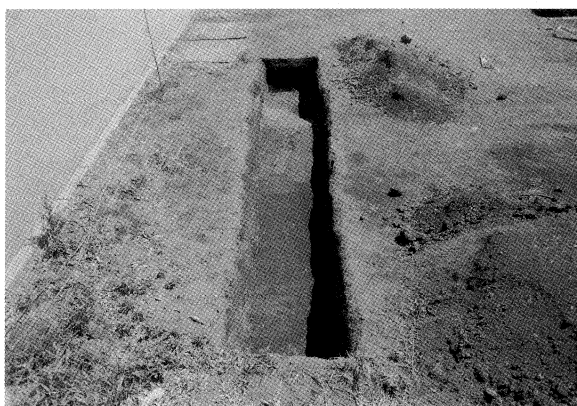
1. 調査区域全景



2. トレンチ1掘削状況



3. トレンチ1西面土層堆積状況



4. トレンチ2確認面検出状況



5. トレンチ3確認面検出状況



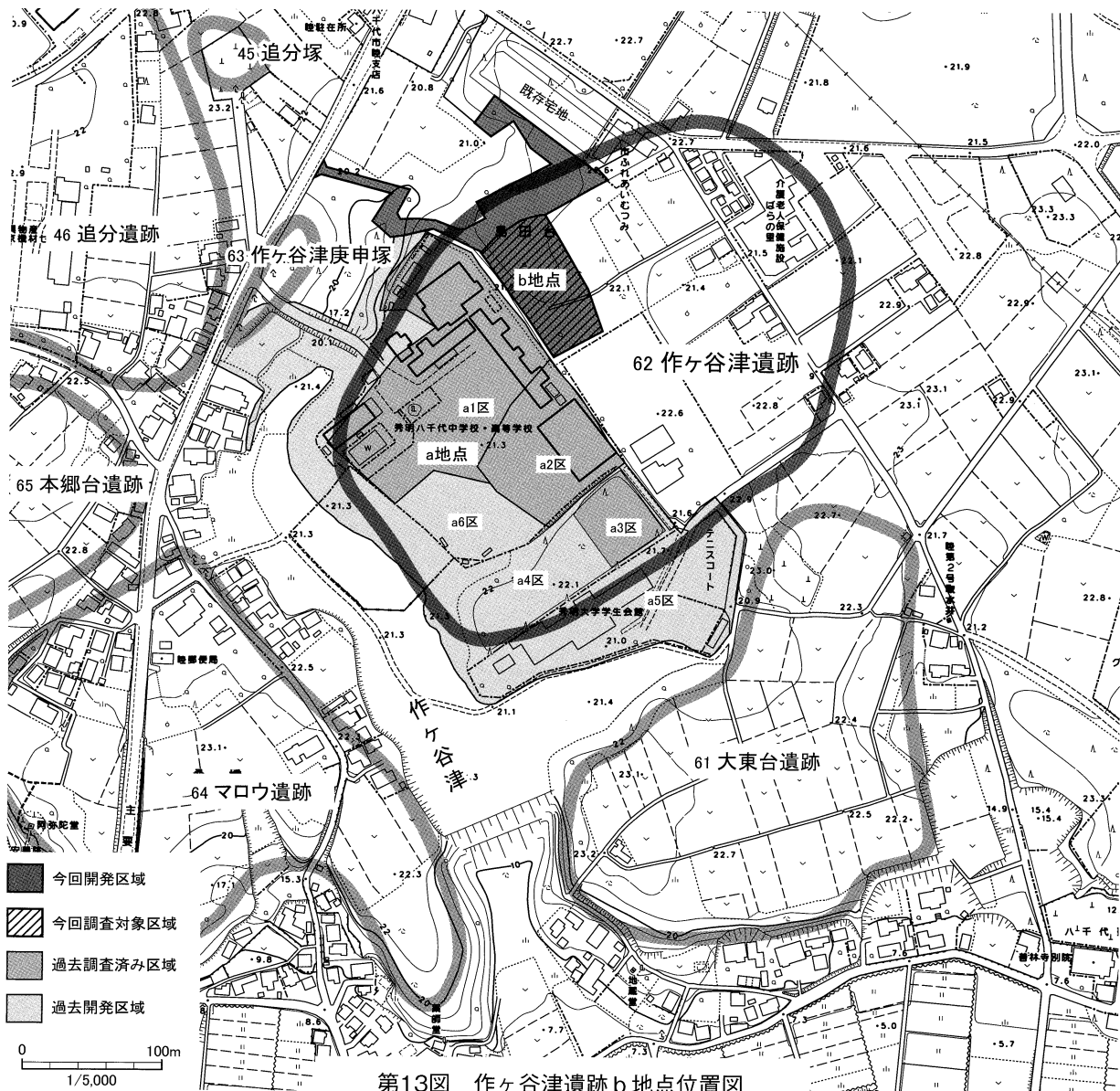
6. トレンチ3北面土層堆積状況

6. 作ヶ谷津遺跡b地点

遺跡の立地と概要

作ヶ谷津遺跡は市域の北西部、桑橋地区に所在する。桑納川の下流域で左岸から流れ込む作ヶ谷津を500mほど遡った左岸台地上、標高21mから22mの下総上位面の段丘上に立地する。遺跡の規模は、北東-南西方向約400m、北西-南東方向約280mである。本跡はかつて、(No59)桑橋新田遺跡の一部として認識されていたが、a地点第1次・2次本調査の結果を踏まえて分離された。

本跡の調査は、今回2地点目である。a地点の調査の経緯は、昭和55年1月私立中学校の建設を目的として、約4.75haの区域について「文化財の有無」等の照会が提出され、区域の一部について埋蔵文化財の包蔵地として県から回答(1/10,000の地形図上に表記されたが、面積は不明)があった。昭和55年6月に第1期の工事の対象となる区域に含まれる包蔵地 約15,000㎡(a1区)の確認調査・本調査(1次・2次本調査)が開始した。その後、昭和58年6月同校高等部の校舎等の建設工事を行うため、隣接するa2区の調査(3次確認本調査)が行われた。a6区(4,230.50㎡)は、同年7月台地半ばまで小谷津が入り込んでいたため、遺跡が所在しないとの回答があり、また、昭和62年1月同校からグラウンドとして整備する旨の



第13図 作ヶ谷津遺跡b地点位置図

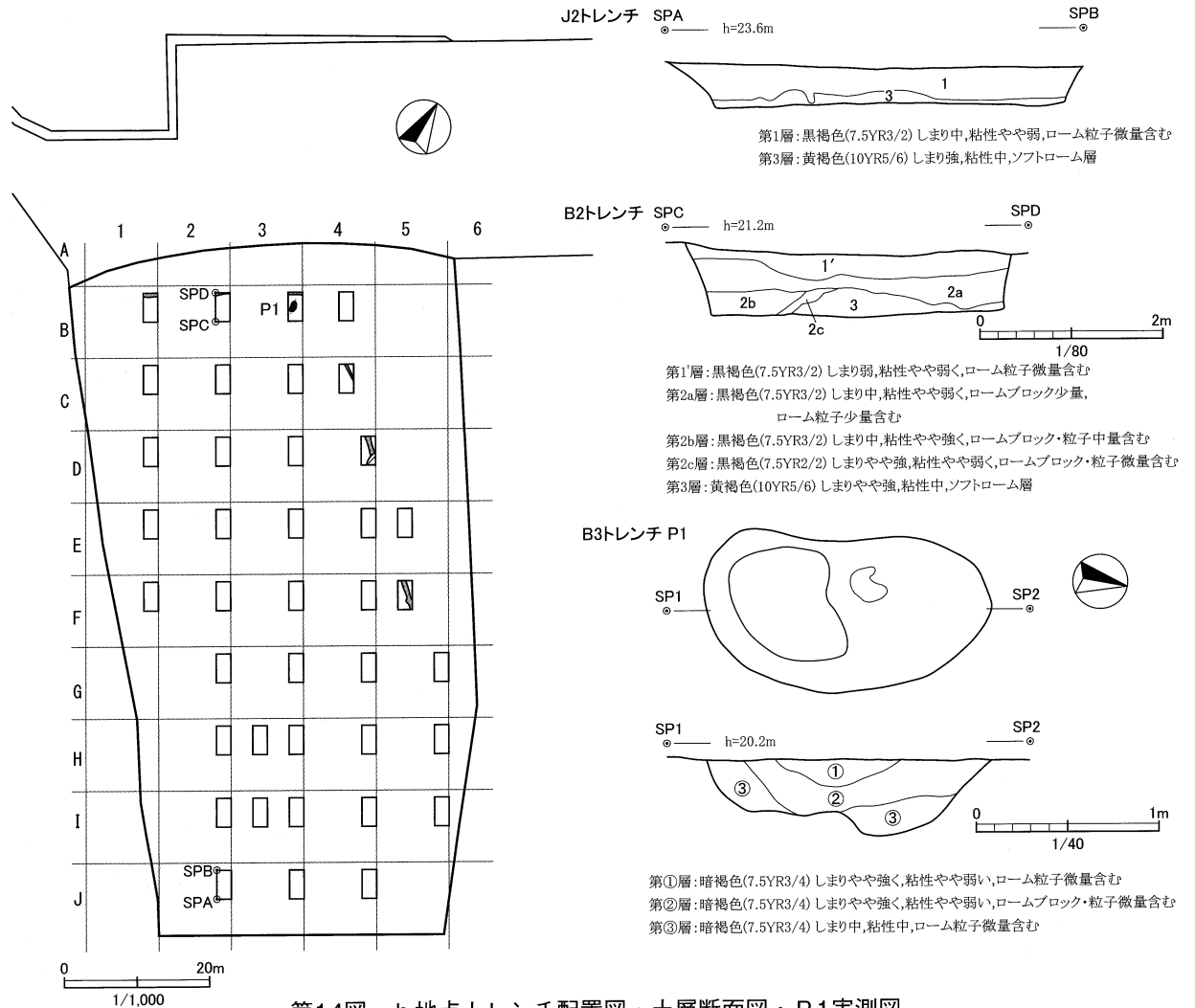
照会に対して、同年2月19日(木)試掘調査を行い、縄文時代土坑2基、縄文土器(中期:加曾利E)多数が検出されたため、現状保存することとなった。そのほか、a4区については山林のまま、現状で保存されている。a5区は、付帯施設等の建設工事が予定され照会が提出されたが、谷津及び斜面地として包蔵地が所在しないと判断され工事が行われている。以上により、本跡の先端部分の状況が明らかになってきた。

今回の調査区域b地点は本跡域の中央に位置し、a地点の北側に接する。谷津の縁辺部に立地する。

第7表 作ヶ谷津遺跡の調査

地点	調査面積 (㎡)	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
a	*1 /15,000 a1区	確認	桑橋新田遺跡として調査実施 縄文時代 土坑4 平安時代 竪穴建物跡1 時期不明 溝3	縄文土器後期(加曾利B)、打製石斧、磨製石斧、石皿、磨石、凹石		S55.6	
	4,100 a1区	本調査	桑橋新田遺跡として調査実施 縄文時代 土坑5 平安時代 竪穴建物跡1 時期不明 土坑1 溝1	縄文土器(前期黒浜を主体に早期～晩期) 土師器、須恵器	調査会	S55.10 1次 10.22 2次 12.18	未報告
	*2 /5,600 a2区	確認・ 本調査	*3 作ヶ谷津遺跡として調査実施 縄文時代中期 竪穴建物跡1、土坑4 古墳時代 竪穴建物跡3	縄文土器 土師器		S58.6	
	30/2,420 a3区	試掘	縄文時代 土坑2	縄文土器(中期:加曾利E)		S62.2	
	4,000 a5区	有無照会					

*1 工事予定区域4.75haに対して、第1期の工事区域を調査対象区域とした。調査面積不明 *2 S58.2の試掘に基づき実施。調査面積不明
*3 S58.3刊行「八千代の遺跡」にて桑橋新田遺跡を作ヶ谷津遺跡と大東台遺跡の3遺跡に分離

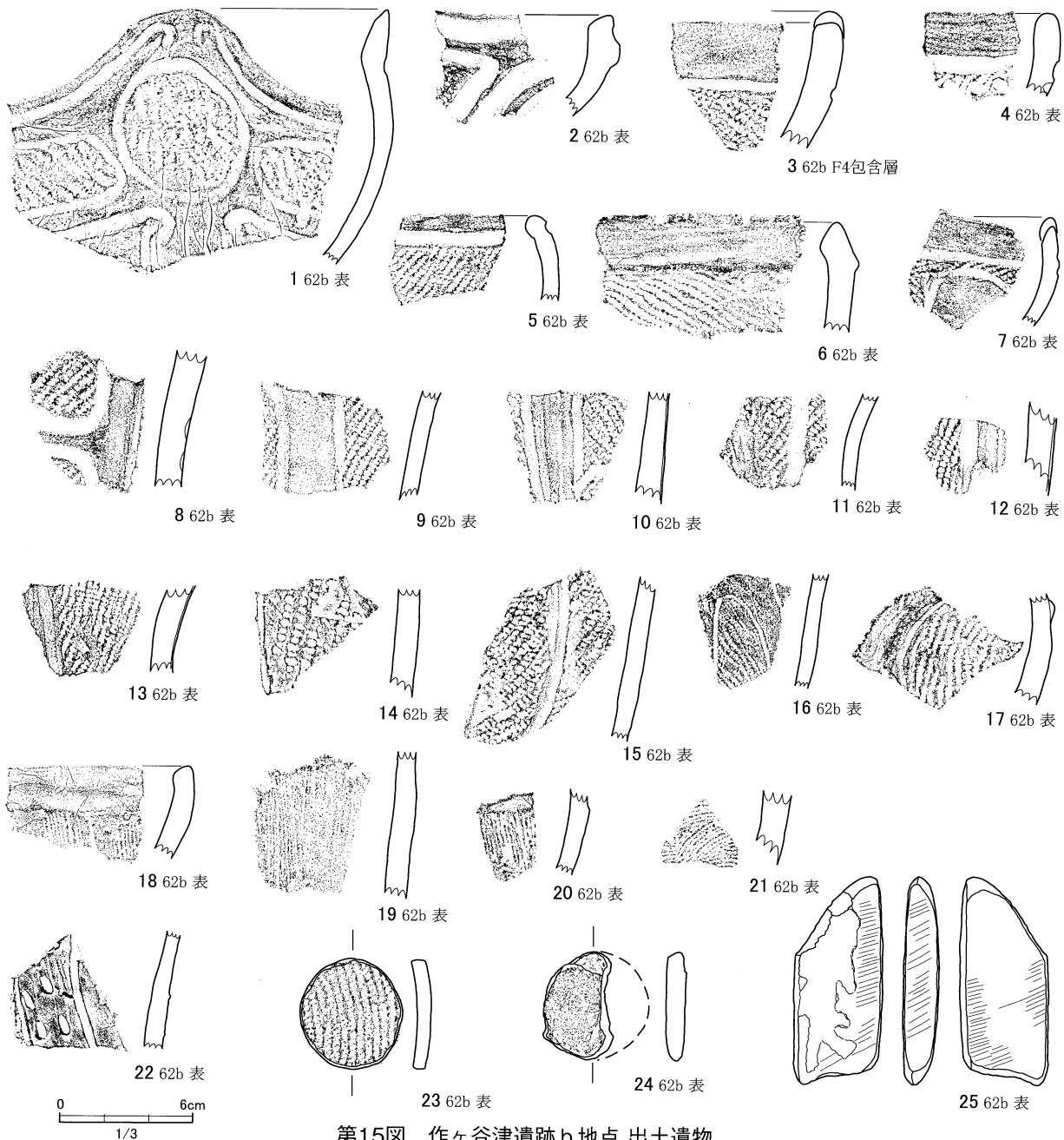


調査の方法と経過

発掘調査は、調査対象区域南端隅を基点とし、南東側の境界線を基準線に10m方眼を組み、2m×4mのトレンチを設定することを基本とした。掘削は遺構確認面であるローム上面まで重機により表土を除去し、遺構の検出作業、土層の分析を行った。

この調査での標高は、調査区近隣で都市計画図上の標高の明らかな地点を基準に計測した。

調査は平成27年7月3日から7月15日まで実施した。3日金曜日:グリッド設定のため杭打ち。7日火曜日:重機により掘削開始。遺構検出作業。8日水曜日:重機による掘削終了。遺構検出作業継続。9日木曜日:遺構検出作業継続。10日金曜日:遺構検出作業継続。13日月曜日:遺構検出精査。14日火曜日:土層分析、写真、実測などの記録作業実施。B3トレンチから検出された土坑調査。15日水曜日:重機による埋め戻しを行い、調査を完了した。



第15図 作ヶ谷津遺跡b地点 出土遺物

調査の概要

調査区は南西側から回り込んでくる作ヶ谷津に面する。調査区の南東側と北東側で2 m強の高低差がみられる。土層は現地表面から40cmほどで遺構確認面としたソフトローム層が検出されるが、北西側の谷津側では攪乱が目立つ。

発掘調査は調査対象面積3,047㎡に対して、トレンチ39か所、掘削面積は312㎡、全体の10.24%の面積を掘削し調査した。この調査の結果、縄文時代の土坑1基、近世の溝跡2条が検出されている。確認調査による出土遺物は、総数141点であった。内訳は縄文土器が134点で中期後半から末の加曾利E3からE4の時期の土器片が大半で、後期 称名寺式土器が1点であった。円盤型土製品は2点、陶磁器2点、礫1点、砥石1点であった。今回の調査による出土遺物は、表面採集した遺物が大半で、出土地点を特定できる遺物が調査対象区域全体にまばらに出土しており、特段の出土傾向はみられなかった。

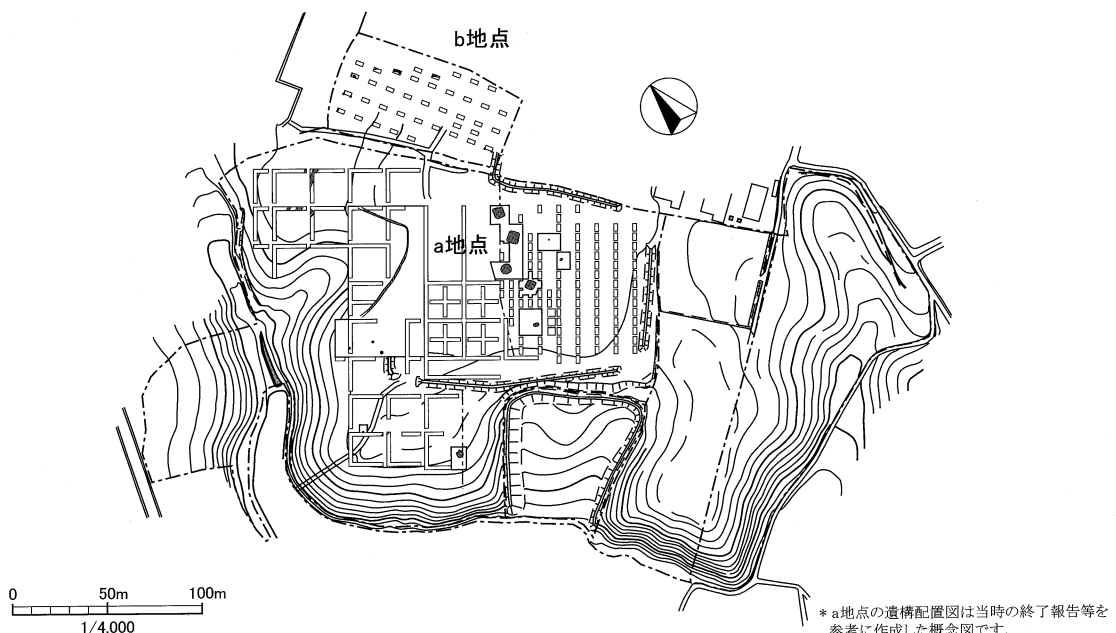
1～21は加曾利E3～4。その内、1～7は口縁部片である。1, 3, 7は明らかな波状口縁をなしている。8～17は胴部片。15～17は沈線で円または楕円、曲線により区画し外側を磨り消している。18～20は縦位の条線により施文される。18は口縁部片で口縁に幅広の無文帯をもち、以下条線が施文される。21は曲線的に施文される。22は沈線で区画し、区画内に列点を施文する。23, 24は円盤型土製品。25は砥石。部分的に表面が剥離するが、それ以外はほぼ全面に擦痕がみられる。

B3トレンチで検出された土坑(P1)は、長軸1 m60cm、短軸90cm、検出面からの深さ45cm、土坑底部に段を有し、平面形状は楕円形を呈している。土坑内の覆土から自然埋没とみられる。遺構内部から遺物は検出されていない。

調査のまとめ

今回の調査では隣接するa地点と同様の傾向を示した。遺構としては近世の溝跡2条と土坑が1基しか検出されなかったが、a地点と同様に、縄文時代中期後葉から末の土器が多く出土した。遺構の広がり、調査区の南側に展開する可能性があり、今後も周辺で慎重に調査し、判断する必要がある。

調査後、開発区域の一部が変更になった。変更された区域は、包蔵地外で新たな調査は行われなかった。

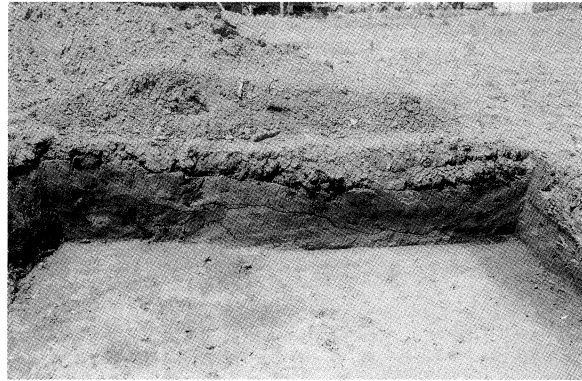


第16図 作ヶ谷津遺跡 a 地点・ b 地点

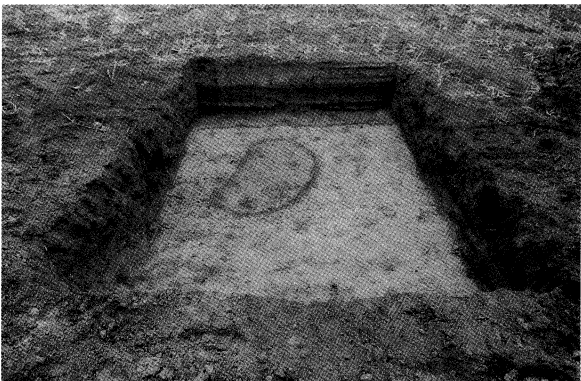
図版6 作ヶ谷津遺跡b地点



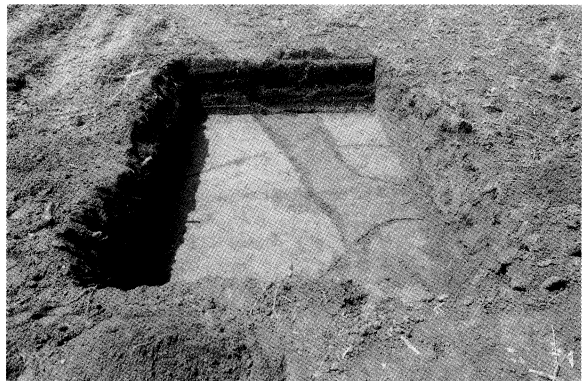
1. 調査区全景



2. B2トレンチ西面土層堆積状況



3. B3トレンチ遺構検出状況



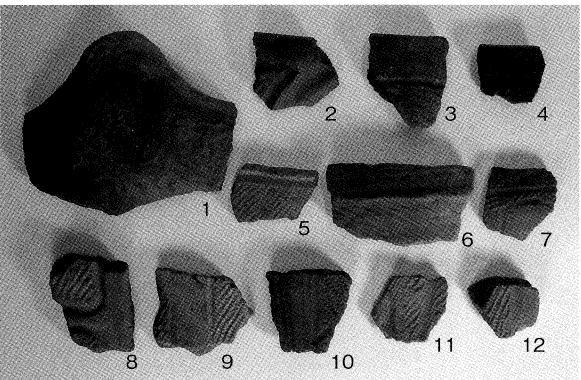
4. D4トレンチ遺構検出状況



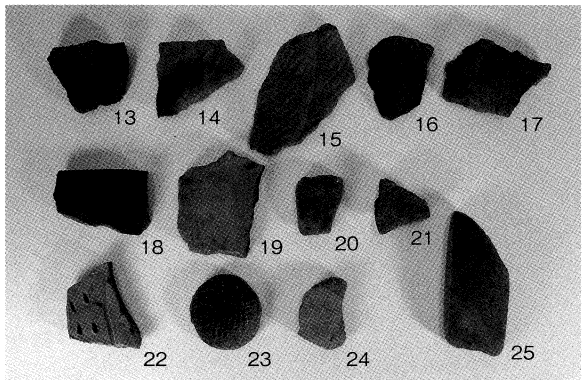
5. P1(土坑)土層堆積状況



6. P1(土坑)完掘状況



7. 出土遺物1(1~12)



8. 出土遺物2(13~25)

7. 平沢遺跡 e 地点

遺跡の立地と概要

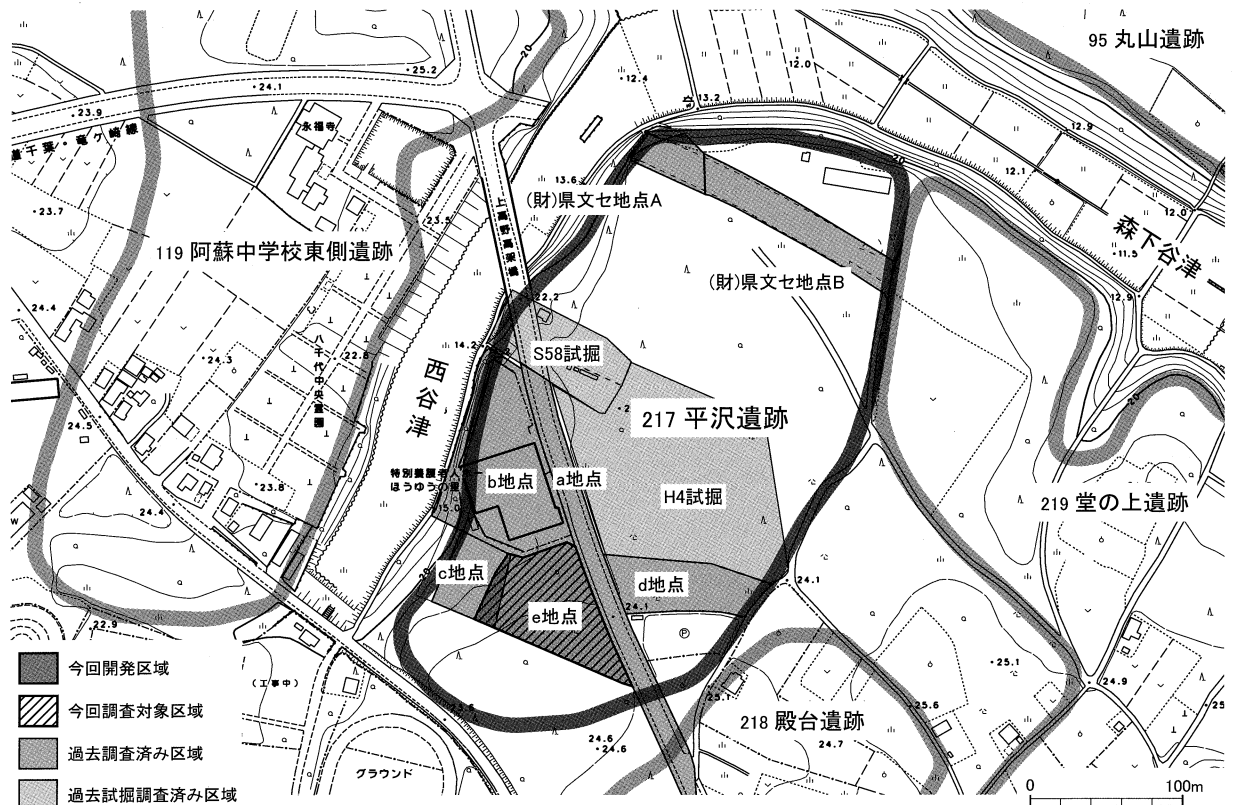
平沢遺跡は、市域の東部の上高野地区に所在する。佐倉市との市境を流れる高野川の中流域で、西側から合流する森下谷津とその上流の西谷津の右岸、標高24m前後の台地平坦面に立地する。森下谷津と西谷津に開析された台地の西側の部分、北東-南西方向約450m、北西-南東方向約240mの規模を範囲とする。台地の地形面としては、下総下位面に相当する。

本跡の調査は過去6回行われ、また、試掘調査も2回行われている。これらの過去の確認調査・本調査では、弥生時代後期の竪穴建物跡が16軒検出されており、集落を形成している。その他、縄文時代や奈良・平安時代の土坑や溝なども検出されているが散発的である。また、周辺で行われた試掘調査では遺構等の検出はみられず、本跡北側で行われた財団法人 千葉県文化財センターの調査においても、当該時期の遺

第8表 平沢遺跡の調査

地点	調査面積 (m ²)	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
a	456/4,500	確認	弥生時代後期 竪穴建物跡10 時期不明 溝2	縄文土器(早期～後期)、石鏃 弥生土器(南関東系・臼井南式・東関東系)、土製紡錘車、転用器台、石鏃、砥石 古墳時代前期 土師器	市教委	H7.1	*1
	1,250	本調査				H7.4	
財県文七地点A	上層107/1,068 下層 43/1,068	確認	縄文時代 土坑2	縄文土器、石器	(財)千葉県文化財センター	H15.9	未報告
財県文七地点B	上層350/3,492 下層140/3,492	確認	旧石器時代 遺物集中地点2	旧石器時代 石器 縄文土器	(財)千葉県文化財センター	H17.11	未報告
	620	本調査					
b	562/6,000	確認	縄文時代 遺物包含層(早～後) 土坑2	旧石器時代 尖頭器、剥片	市教委	H21.9	市内H22
	1,100	1次本調査	弥生時代 竪穴建物跡4、土坑1	縄文土器、石器		H22.1	
	640	2次本調査	奈良・平安時代 溝2、土坑8	弥生土器 中期、後期		H22.4	
c	200/2,000.02	確認	縄文時代 土坑1 弥生時代後期 竪穴建物跡2 近現代 溝2	縄文土器 弥生土器後期	市教委	H23.7	市内H24
d	294/3,020	確認	なし	縄文土器 土師器	市教委	H25.7	市内H26

*1「平沢遺跡a地点・殿台遺跡a地点」2013(H25) *2「平沢遺跡b地点」2011(H23)



第17図 平沢遺跡 e 地点位置図

構の検出はなく、現段階において、集落の規模はかなり限定的な範囲に留まると推定される。出土遺物は縄文土器のほか、弥生時代後期の土器が主体で、その他、土師器なども検出されている。

本跡の前面に開析された西谷津を挟んで対岸には、弥生時代後期を主体とする(No.119)阿蘇中学校東側遺跡(文献1)が展開しているが、未報告の調査区域もあり、全容はまだ明らかとなっていない。

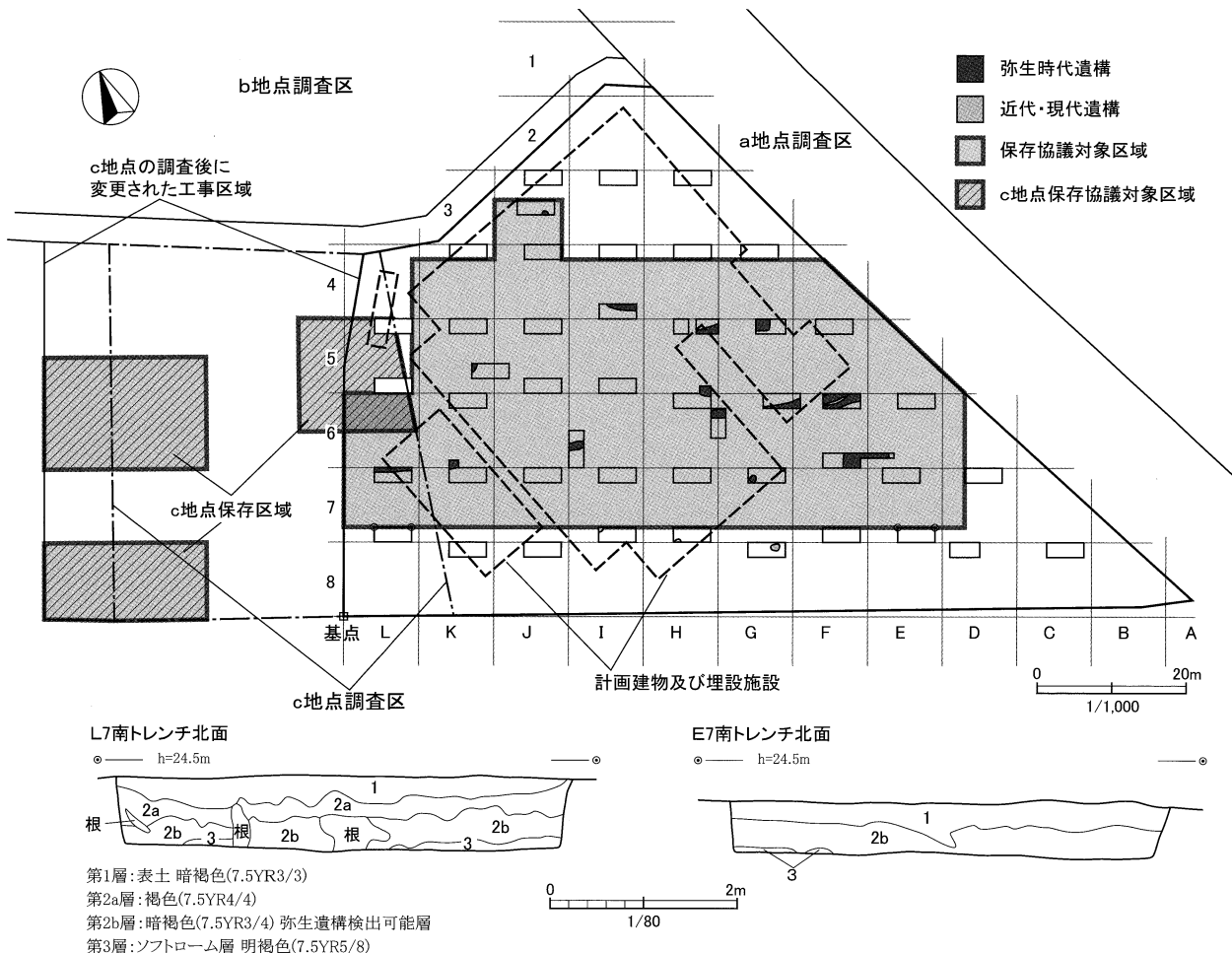
今回の開発区域は台地平坦面で、傾斜地に近いc地点の東側で、a地点との間に位置する。c地点の調査区の東側の一部は今回の調査区に重複している。c地点の工事区域が調査終了後に5mから10mほど西側に移動したため、c地点の調査区域の東側の一部が工事区域から外れた。そのため、この調査時の保存協定は当初の区域と移動した区域とを合わせて締結されている。今回のe地点の調査区は、保存協定が締結された区域の一部が含まれていた。

調査の方法と経過

発掘調査は、調査区の形状に合わせて、南西隅の境界杭を基点とし、西端の境界ラインを基準線にして、10m単位の方眼を組み、このグリッド単位に2m×5mのトレンチを設定することを基本とした。掘削は遺構確認面であるローム上面まで重機により表土を除去し、掘削後、遺構の検出確認作業、土層の分析、調査の記録作業を行った。

この調査での標高は、調査区近隣で都市計画図上の標高の明らかな地点を基準に計測した。

調査は平成27年7月17日から7月31日まで実施した。17日金曜日:杭打ち作業。21日火曜日:重機による



第18図 e地点トレンチ配置図・土層断面図

表土除去作業開始。同時に遺構検出作業も開始。23日木曜日:重機での掘削作業終了。検出作業継続。24日金曜日:G 5 トレンチで弥生時代後期の建物跡検出。弥生土器数点出土。27日月曜日:遺構検出作業。28日火曜日:J 5, K 5 トレンチで建物跡検出。H 5 トレンチでも検出。29日水曜日:土層の分析, 実測等の記録作業。30日木曜日:埋め戻し開始。補足のための追加トレンチの掘削。31日金曜日:埋め戻しが終了し, 調査を完了した。

調査の概要

調査区の土層は, 現地表面より60cmから80cmほどで遺構確認面としたソフトローム層が検出された。地表面から2~3層の自然堆積がみられ, 良好な遺存状況が確認された。

発掘調査は, 調査対象面積 4,860㎡に対して, トレンチ46か所, 掘削面積は472㎡, 全体の9.71%の面積を調査した。

調査の結果, 遺構としては, 弥生時代後期の竪穴建物跡6軒, 土坑3基, 溝状遺構2条が検出されている。また, 出土遺物は総数76点出土している。内訳は縄文土器が1点, 小破片のため定かではないが, 中期阿玉台期のものか。弥生土器では後期の土器片が72点出土している。その他に礫類1点, 鉄片1点, 不明1点であった。

1, 2は弥生土器の甕の口縁部片である。細かい単節のRL, 口唇部にも同様の原体の施文がみられる。3は口縁直下から頸部, 胴部までの破片である。口縁部下半から頸部まで無文, 頸部から胴部まで付加状縄文, 頸部には縄文原体を刺突した圧痕を回らす。7は底部片である。付加状縄文が底部近くまで施文されている。

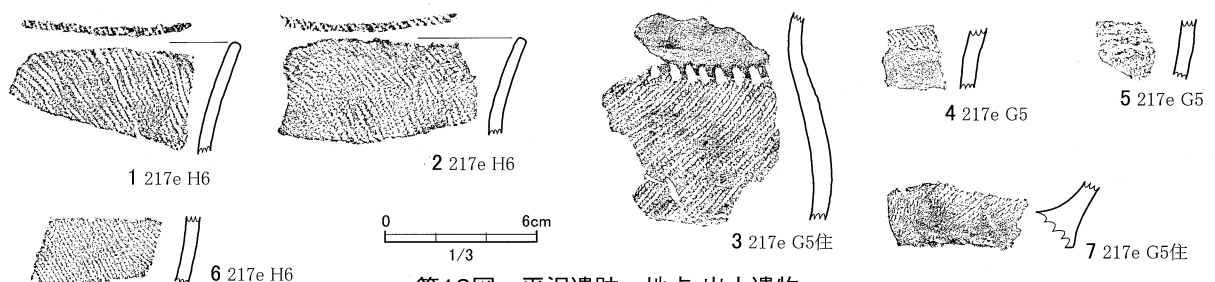
調査のまとめ

今回の調査で, a, b, c 地点において検出された弥生時代後期の集落がさらに南側に広がっていることが判明した。同時に, 昭和58年・平成4年に行われた試掘調査範囲にも遺構の展開する可能性が広がることが推測され, 今後の対応も再検討されなければならない。

今回の調査の結果では, 面積2,635㎡が保存協議の対象となった。そのため, 前回のc地点確認調査で保存協定が締結された区域で, 今回の協議対象区域以外の調査区域に重複した面積約81㎡の区域も含めると2,716㎡が保存協議の全体の対象区域となる。

事業者との協議により平成27年度から28年度にかけて記録保存のための本調査を行うこととなり, 実施された。

文献1「阿蘇中学校東側遺跡Ⅲ」1984 八千代市遺跡調査会



第19図 平沢遺跡e地点 出土遺物

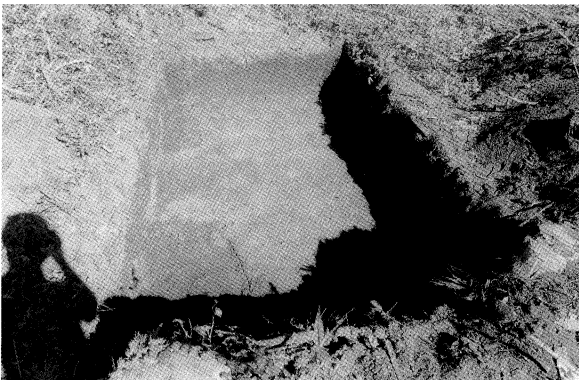
図版7 平沢遺跡 e 地点



1. 調査区全景



2. L7南トレンチ北面土層堆積状況



3. トレンチ遺構検出状況



4. トレンチ遺構検出状況



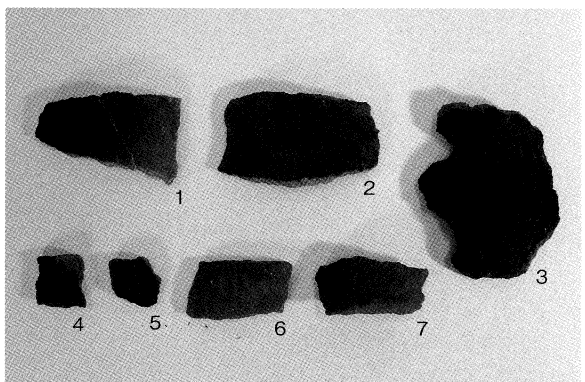
5. F6北トレンチ遺構検出状況



6. I4南トレンチ遺構検出状況



7. J3南トレンチ遺構検出状況



8. 出土遺物(1~7)

8. 井戸向遺跡 d 地点

遺跡の立地と概要

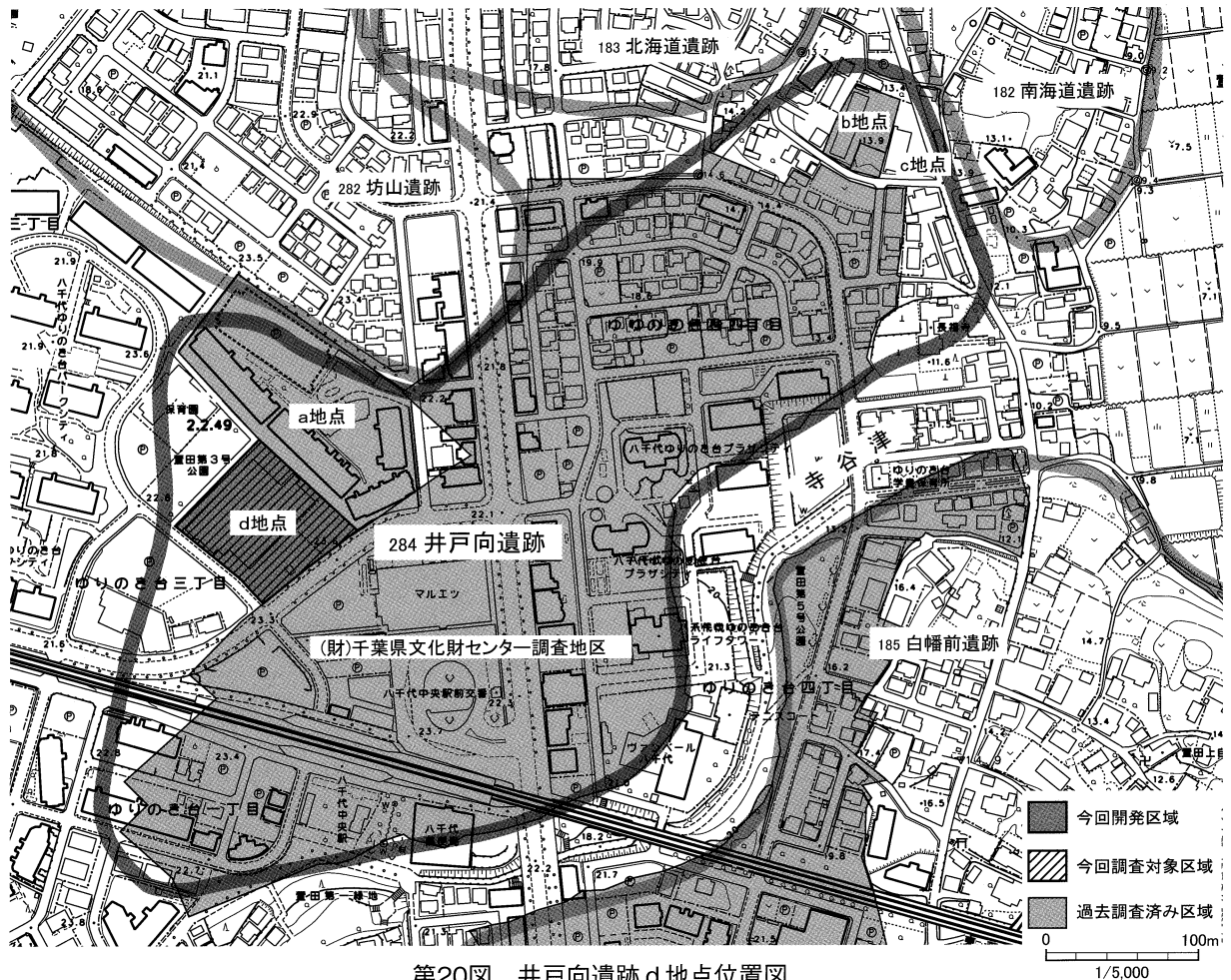
井戸向遺跡は、市域中央部、萱田地区に所在する。本跡は、新川中流域の左岸に開析された「須久茂谷津」と「寺谷津」にはさまれ、北東方向に向かって大きく細長くのびる舌状台地上に立地している。この台地には4つの遺跡が占地している。台地先端部の新川に面する(No182)北海道遺跡、台地北側の(No183)北海道遺跡と台地北西側の(No282)坊山遺跡が須久茂谷津に面する。台地南側に本跡が寺谷津に面して立地する。寺谷津を挟んで対岸には(No285)白幡前遺跡が立地する。

この舌状台地は、下総下位面と複数の千葉段丘面で形成されているが、井戸向遺跡は下総下位面から千葉段丘面にかけて立地している。

第9表 井戸向遺跡の調査

地点	調査面積(m ²)	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
財)県文七 調査地区	約20haの一部	確認	旧石器時代 遺物集中地点9			S53.11~	
	約22haの一部	確認	縄文時代 陥穴状土坑3	先石器時代 石器等		S54年度	
	約2.12ha	本調査	弥生時代後期 竪穴建物跡6	弥生土器	(財)千葉県文化財センター	S55年度	*1
	約3.6 ha	本調査	古墳時代前期 竪穴建物跡31、 方形周溝墓3	古墳時代 土師器		S56年度	
	約1.36ha	本調査	古墳時代後期 竪穴建物跡8、土坑1	奈良・平安時代 土師器、須恵器、鉄器、石器、 墨書土器多数		S57年度	
	約0.43ha	本調査	奈良・平安時代 竪穴建物跡104、	銭貨、奈良三彩、炭化米		S58年度	
	約0.1 ha	本調査	掘立柱建物跡44、井戸跡10			S59年度	
約0.35ha	本調査	中世 墓域、地下式墳24他			S60年度		
978/13,570.46	確認	縄文時代 陥穴5、炉穴1	縄文土器	市教委	H17.8	市内H18	
a	142	本調査	奈良・平安時代 土坑7 時期不明 溝1	奈良・平安時代 土師器	調査会	H17.9~ H17.10	未報告
b	164/1,553	確認	縄文時代 陥穴1	縄文土器、奈良・平安時代 土師器	市教委	H21.11	市内H22
c	32/360	確認	なし	奈良・平安時代 土師器	市教委	H26.12	市内H27

*1「八千代市井戸向遺跡」1987(S62)、「八千代市権現後遺跡・北海道遺跡・井戸向遺跡」1994(H6)



第20図 井戸向遺跡 d 地点位置図

本跡の規模は、北東方向に約740m、北西方向に最大幅約420mである。

南海道遺跡を除く3遺跡の大半は萱田地区の区画整理事業に伴い、(財)千葉県文化財センターが昭和53年以降調査を行い、ほぼ調査を完了している。しかし、本跡においては、区画整理事業から外れた北東側の一部分と西側の一部分に区画整理区域内ではあるが既存建物があるため現状のまま保存され、未調査地区として残っていた。

本跡の概要としては、過去の調査成果から旧石器時代から中世までの各時代、各時期に生活の痕跡を残している中でも、奈良・平安時代の建物群が数ヶ所、広範囲に点在している遺跡と考えられる。一方、a地点から縄文時代の陥穴や炉穴が検出されている。この調査地点は、遺跡の立地から坊山遺跡に含めて理解するほうが妥当かもしれない。b地点でも縄文時代の陥穴が検出されている。

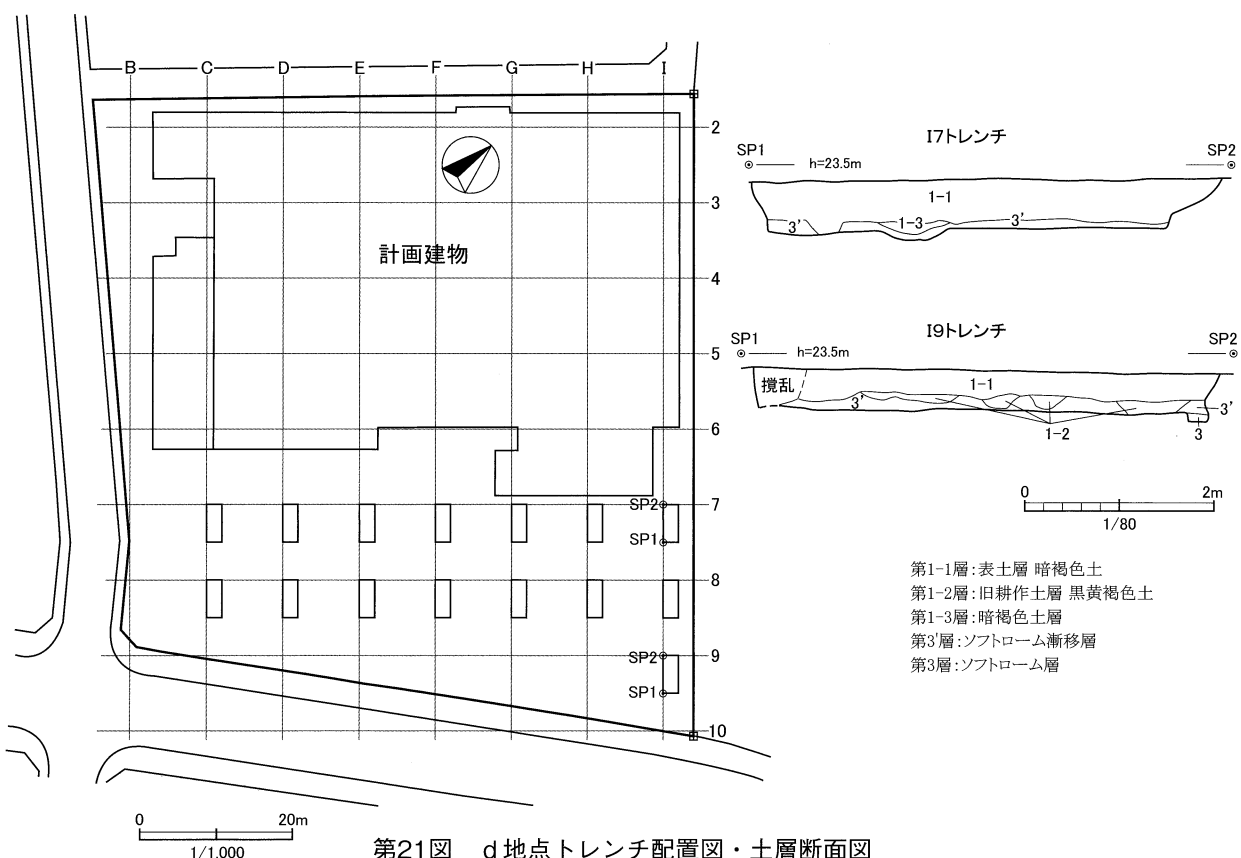
今回の調査地点は、本跡の西側に残された未調査地区で、台地中央部に位置する。

調査の方法と経過

発掘調査は、調査区北側の大半に既存の建物があったため、建物部分は建物解体後に調査することとし、それ以外の部分を解体前に調査した。発掘調査は、調査区の形状に考慮し、北東隅の境界杭を基点にして、北東側の境界を基準線とする任意の10m方眼を組み、各グリッドに2m×5mのトレンチを設定した。掘削は遺構確認面であるローム上面まで重機により表土を除去した。掘削後、遺構の検出作業、土層の分析を行った。

この調査での標高は、調査区近隣で都市計画図上の標高の明らかな地点を基準に計測した。

全体の調査は、平成27年7月22日から9月1日まで実施した。掘削による調査は、22日水曜日:トレン



チの設定，人力による掘削開始。23日木曜日:人力による掘削継続，重機による表土剥ぎ開始。遺構検出作業開始。24日金曜日:遺構検出作業継続，土層分析，実測等記録作業。埋め戻しを開始。28日火曜日:重機による埋め戻しを終了し，調査を完了した。8月5日水曜日～9月1日火曜日:解体工事立会い。既存建物の基礎は深く，撤去に2 m以上の掘削が行われたが，遺構等の残存を確認することができなかった。

調査の概要

調査区の土層は，現地表面より60cmほどで遺構確認面としたソフトローム層が検出された。旧耕作土も残存し，良好な保存状況であった。

発掘調査は，調査が可能な対象区域 約1,900㎡に対して，トレンチ15か所，掘削面積は150㎡，約8%の面積を掘削し調査した。この調査の結果，遺構・遺物は検出されなかった。この結果は，既存建物の部分において行われた工事立会いによる結果と同様の傾向を示した。

調査のまとめ

今回の調査区域 d 地点における発掘調査の結果，遺構・遺物の検出はなく，本跡における新たな発見はなかった。北東側にわずかに未調査地は残存するものの，この地点をもって，ほぼ本跡の全体像が明らかになったといえる。本跡は寺谷津側に面する台地上に展開する弥生時代後期から奈良・平安時代の長期間にわたり，断続的に営まれた集落を主体とする遺跡とすることができる。

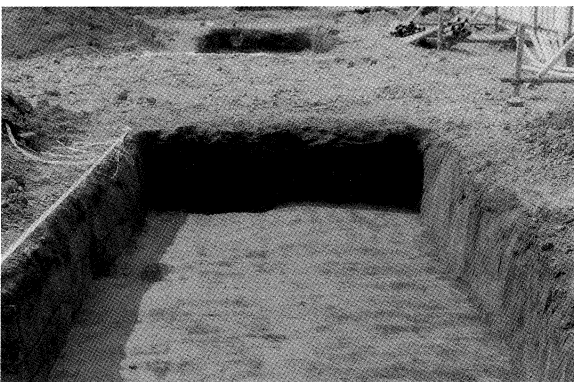
図版8 井戸向遺跡 d 地点



1. 調査区北東側掘削状況



2. 調査区南側掘削状況



3. I9トレンチ南西面土層堆積状況



4. E7トレンチ確認面検出状況

9. 逆水遺跡 i 地点

遺跡の立地と概要

逆水遺跡は、市域の北東部、米本地区に所在する。新川の上流域、右岸の台地上に立地する。北面するこの舌状台地は、西側を亀井戸谷津、東側を烏ヶ谷津が開析している。台地の標高は23m前後の下総下位面により形成され、全体にほぼ平坦な地形である。北端の一部に千葉段丘面がみられるが狭い。

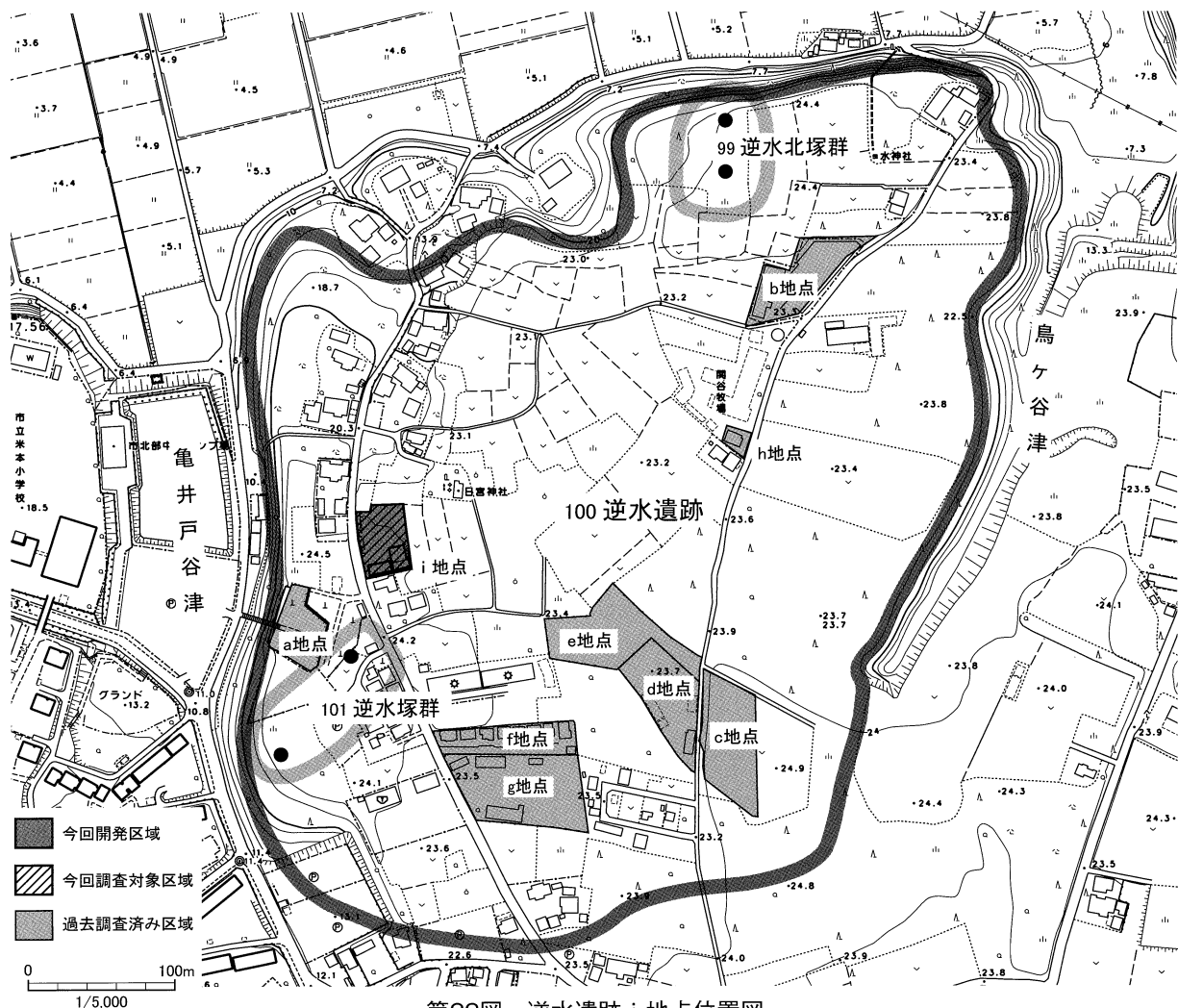
本跡は遺跡の統廃合により、台地全体をひとつの遺跡として認識されている。本跡の規模は、北東-南西方向約700m、北西-南東方向約500mと広範囲である。

本跡の調査は過去8回行われている。本跡の北側の台地先端部付近で調査が行われたb地点では、弥生時代中期の方形周溝墓群が検出されている。本跡の南半側で行われたa, c, d, e地点の4ヶ所の調査では、弥生時代後期の竪穴建物跡が広範囲に散発的に確認されている。その南側に位置するg地点では縄文時代中期の竪穴建物跡や陥穴なども確認されており、また違った様相を示している。

今回の調査区 i 地点は、遺跡の中央部のやや西側の平坦面に立地している。

調査の方法と経過

発掘調査は調査区の形状に合わせて任意に方眼を組み、既存建物やコンクリートを敷き詰めた区域を避けて2m×4mを基本とするトレンチを任意に設定した。



第22図 逆水遺跡 i 地点位置図

掘削は重機により遺構確認面であるローム上面まで表土を除去した。掘削後、遺構の検出確認作業、土層の分析を行った。この調査での標高は、都市計画図上の標高の明らかな地点を基準に計測した。

調査は平成27年8月31日から9月14日まで実施した。8月31日月曜日:調査区の環境整備のため草刈を実施、任意の杭打ち。9月1日火曜日:重機による掘削開始。2日水曜日:掘削継続、遺構遺物を検出できず。T5で深掘実施。3日木曜日:遺構確認のための精査。T6で建物跡検出。4日金曜日:土層分析、実測、写真等記録作業。14日月曜日:重機により埋め戻しを行い、調査を完了した。

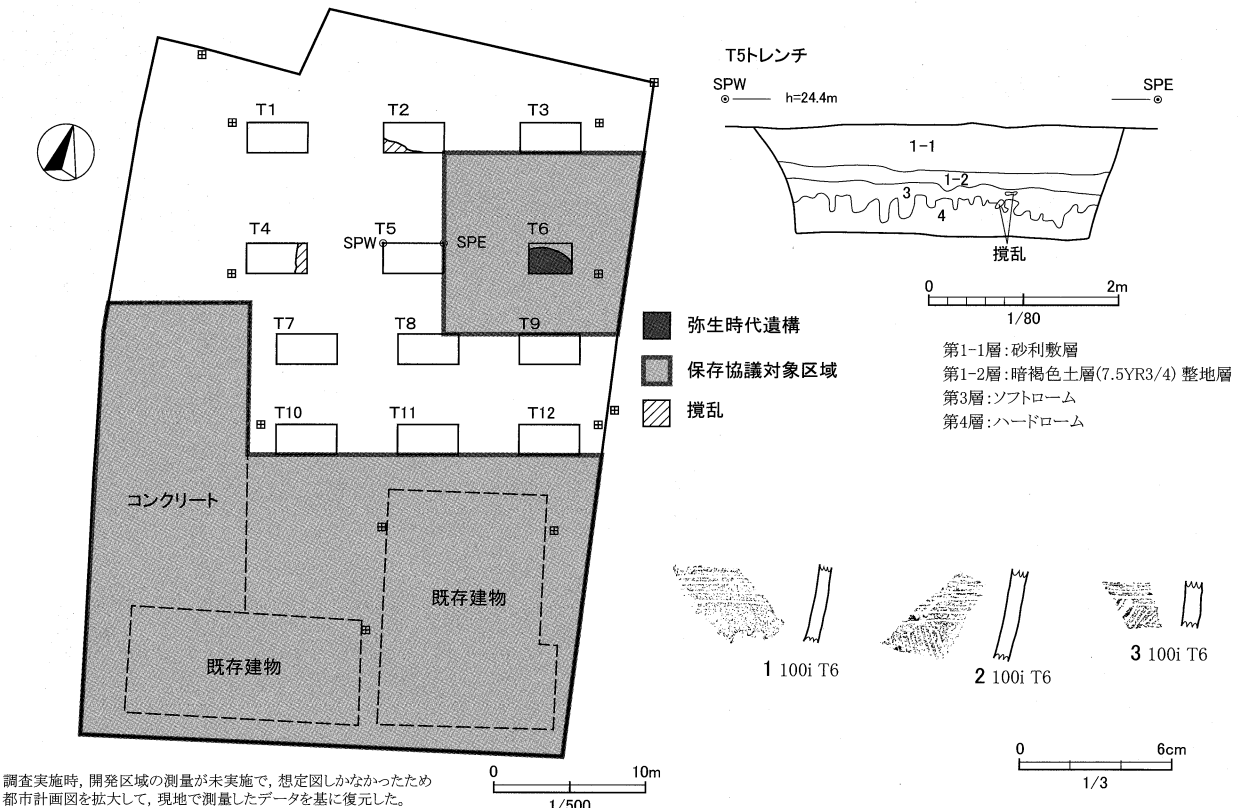
調査の概要

調査区の土層は、現地表面より50cmほどで遺構確認面としたソフトローム層が検出された。

第10表 逆水遺跡の調査

地点	調査面積(m ²)	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
a *1	146/1,340	確認	逆水西遺跡で調査を実施	縄文土器(早期~中期)	市教委	H8.1	市内H7
	上層 678	本調査	弥生時代後期 竪穴建物跡4、土坑1	弥生土器(後期)			
	下層 20/678	下層確認	中世 土壇墓17	平安時代 土師器 永楽通宝、骨片			
b	504/2,414	確認	逆水遺跡で調査を実施 弥生時代中期 方形周溝墓7 時期不明 土坑2 溝1	弥生土器	市教委	H8.11	市内H8
	上層 340 下層 4/340	本調査 下層確認	協議対象区域一部本調査、残区域保存 弥生時代中期 方形周溝墓2 時期不明 溝1	縄文土器 弥生土器 古墳時代 土師器			
c	250/2,919	確認	弥生時代後期 竪穴建物跡1	弥生土器(後期)	市教委	H13.8	市内H14
d	448/2,645	確認	弥生時代後期 竪穴建物跡2	縄文土器、弥生土器(後期)	市教委	H14.5	市内H15
e	377/3,012	確認	縄文時代 土坑10 弥生時代後期 竪穴建物跡1	縄文土器(中~後期) 弥生土器(後期)、寛永通宝	市教委	H17.7	市内H18
f	248/1,874.62	確認	なし	弥生土器(後期)、寛永通宝	市教委	H17.10	*2
g	430/4,255	確認	縄文時代 陥穴1、中期 竪穴建物跡1 中世 土坑2	縄文土器(中期)	市教委	H22.11	市内H23
h	25/258.91	確認	なし	なし	市教委	H27.2	市内H27

*1 a地点は遺跡統合以前の遺跡名「逆水西遺跡」として調査を実施 *2 「不特定遺跡発掘調査報告書V」2008(H20)



第23図 i 地点トレンチ配置図・土層断面図・出土遺物

発掘調査は、調査対象区域1,419㎡の内、掘削可能な区域689㎡に対して、トレンチ12か所、掘削面積は96㎡、約13.93%の面積を掘削し調査した。調査の結果、弥生時代後期の竪穴建物跡1軒、遺構を検出したT6トレンチから縄文土器の小破片3点(1,2,3)が出土した。いずれも同一土器の破片とみられる。

調査のまとめ

調査の結果、今回の調査区 i 地点は、弥生時代後期の集落の一部と考えられた。そのため、掘削できなかった部分約730㎡及び遺構の検出された部分約148㎡が保存協議の対象となった。事業者との協議により、遺構が検出された148㎡について、記録保存のための本調査が実施された。未調査部分730㎡について現段階では、現状保存とされた。本調査に伴う整理作業が同年度中に実施され、報告書が刊行された。

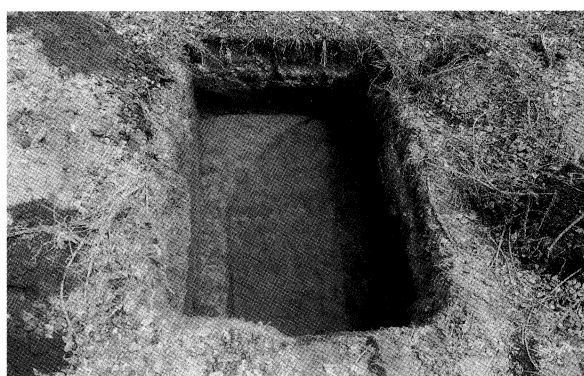
図版9 逆水遺跡 i 地点



1. 調査区全景



2. T5トレンチ北面土層堆積状況



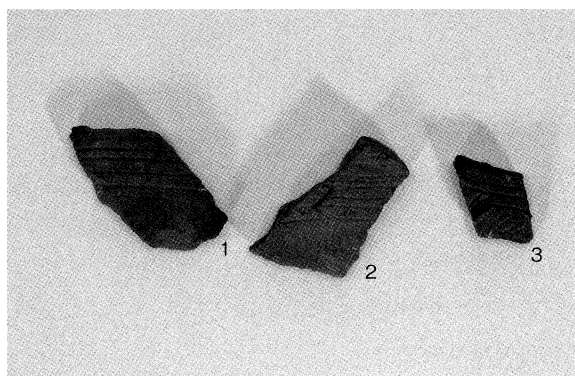
3. T6トレンチ遺構検出状況



4. T1トレンチ確認面検出状況



5. T4トレンチ確認面検出状況



6. 出土遺物(1~3)

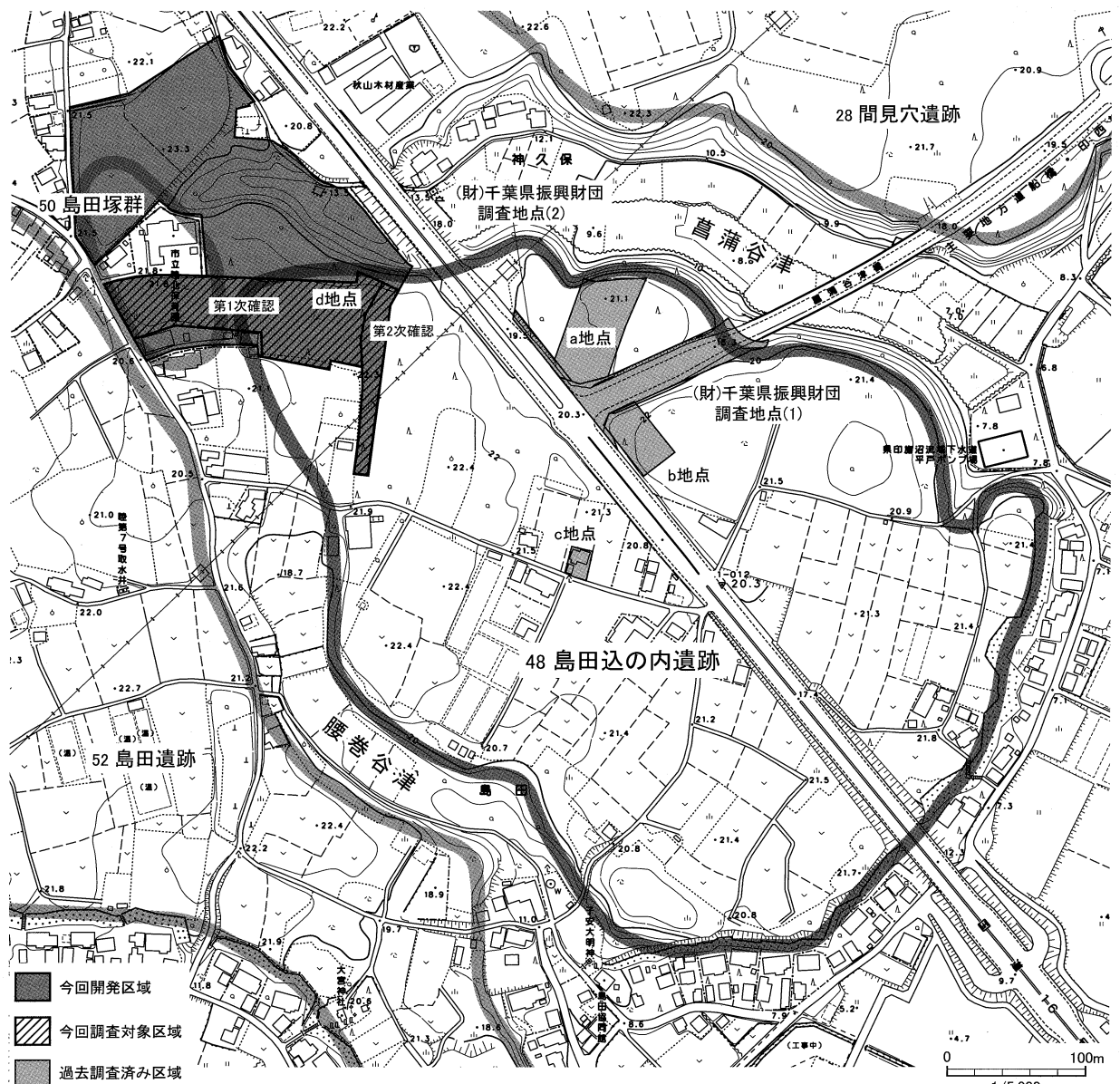
10. 島田込の内遺跡 d 地点(第1次確認・第2次確認)

遺跡の立地と概要

島田込の内遺跡は、市域の北部、島田地区に所在する。新川下流域の左岸、台地の北側を「菖蒲谷津」、南側を「腰巻谷津」が開析した舌状台地全体を遺跡範囲としている。本跡の規模は、北西-南東方向約630m、北東-南西方向約420mである。この台地は、標高21m~22mの下総下位面の河岸段丘により形成されている。平成9年の遺跡範囲の見直しにより、国道16号線によって南北で区分されていた2つの遺跡をひとつに統合している。

本跡の調査は、県道バイパスの建設工事のための調査以降、4地点の調査が行われており、弥生時代後期から奈良・平安時代に至る各時期の集落の一端が検出されてきた。遺跡の範囲が広く、調査も部分的なものであり、また、確認調査のみの区域もあり、全体を正確に把握することはできないが、現時点でこの舌状台地の北半には密度の濃い奈良・平安時代の集落の展開が想定されている。

今回の開発区域は、本跡の北端から(No.50)島田塚群、さらに菖蒲谷津をまたいで対岸の台地にまで広がっ



第24図 島田込の内遺跡 d 地点位置図

ていた。第I章で前述したとおり、島田込の内遺跡の北端の平坦部分と対岸の台地平坦面はすでに掘削・削平されており、今回、確認調査の対象になった区域は、島田込の内遺跡の北端部と島田塚群の一部であった。島田塚群は、昭和52年2月に今回の調査区に隣接する陸北保育園敷地内に塚が1基確認されており、建設時に現状保存することとなっている。また、平成11年1月に今回の第1次確認調査区とほぼ同じ区域に「所在」の有無等の照会が提出され、当時、3～4基の塚が確認されたと報告されていたが、その後、調査も開発も行われることがなかった。現在、今回の開発区域内に塚は確認されていない。

今回の調査区域は、標高約21m～22mの舌状台地の付け根部分の平坦面に立地している。

調査の方法と経過

発掘調査は、調査の承諾が当初得られた調査区西側の山林部分の区域約7,985㎡(第1次確認調査区)と調査の承諾が遅れた調査区東側の畑地を含む約1,878㎡(第2次確認調査区)とに分割して行われた。

調査には、調査区全体の位置を特定するため、任意な位置にA1の杭を設置し、そこを基準にして、調査区の形状にあわせて、全体に10m方眼を設定した。第1次確認調査区域では現状が山林で見通しがきかないため、立木を避けて東西方向のグリッド単位に列を設け、列ごとに掘削が可能な場所に任意にトレンチを設定した。第2次確認調査区域では、見通しがきいたため、グリッド単位にトレンチを設定した。必要に応じて、トレンチの拡張、サブトレンチを設定し掘削調査を行った。

掘削は重機により遺構確認面であるローム上面まで表土を掘削除去した。掘削後、遺構の検出作業、土層の分析を行った。この調査での標高は、調査区近隣で都市計画図上の標高の明らかな地点を基準に計測した。

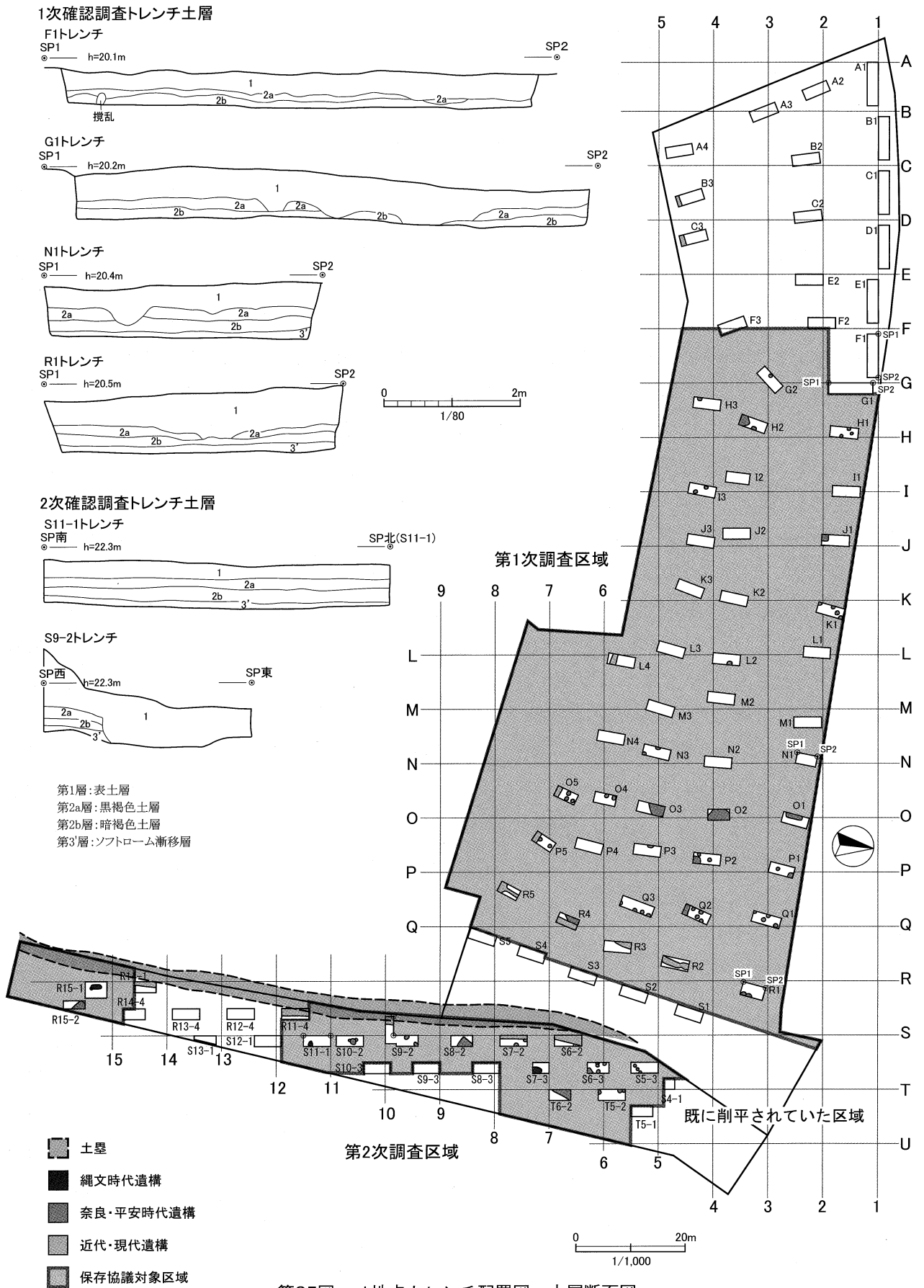
第1次確認調査は、平成27年9月29日から10月21日まで実施した。29日火曜日:機材搬入、基準杭設置。トレンチ設定。～10月1日木曜日:杭打ち、トレンチ設定。1日から重機による掘削を開始。遺構検出作業開始。～7日水曜日:掘削継続。～20日火曜日:検出作業継続。12日月曜日:土層分析、実測等記録作業実施。16日金曜日～21日水曜日:トレンチの位置計測。14日水曜日・15日木曜日:検出遺構の記録写真撮影。21日水曜日:機材を撤収し、調査を終了した。

第11表 島田込の内遺跡の調査

地点	調査面積(㎡)	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
財)県文七 調査地区(1)	上層400/4,000 下層160/4,000 本調査 3,200	確認・ 本調査	古墳時代 竪穴建物跡12 奈良・平安時代 竪穴建物跡9, 掘立柱建物跡4 中世 土坑57, 溝13	旧石器時代 石器 縄文土器(早期～後期) 奈良・平安時代 土師器, 須恵器 灰釉陶器, 鉄製品, 銅製品	(財)千葉県文化 財センター	H5.10～ H6.1	*1
	199.5/240	1次確認	弥生時代後期～ 古墳時代前期 竪穴建物跡1 奈良・平安時代 竪穴建物跡6, 土坑4	縄文土器(早期) 弥生土器(後期) 古墳時代 土師器 奈良・平安時代 土師器, 須恵器, 鉄鏃, 紡錘車, 砥石	市教委	H15.6	市内H16
	170/170	2次確認	縄文時代 土坑2 奈良・平安時代 竪穴建物跡3 掘立柱建物跡2, 土坑1 近世 炭焼窯1		市教委	H15.7	
184	本調査	奈良・平安時代 竪穴建物跡4, 土坑1		市教委	H15.7		
財)県文七 調査地区(2)	上層 —/200 下層 10/200 本調査 200	確認 本調査	旧石器時代 出土地点1 奈良・平安時代 竪穴建物跡1	旧石器時代 石器 奈良・平安時代 土師器, 須恵器	(財)千葉県文化 財センター	H15.10～ H15.11	*2
	255/2,168.71	確認	弥生時代～平安時代 竪穴建物跡13, 土坑48	縄文土器(前～後期) 弥生土器(後期) 古墳時代 土師器 平安時代 土師器, 須恵器	市教委	H18.9	市内H19
	21/264.96	確認	なし	奈良・平安時代 土師器, 須恵器 近世 陶磁器	市教委	H27.3	市内H27

*1「船橋印西線埋蔵文化財調査報告書1 第328集」1998(H10) *2「船橋印西線埋蔵文化財調査報告書5 第559集」2006(H18)

*3工事予定区域の内、進入路のためのスロープ部分の調査を実施



第25図 d地点トレンチ配置図・土層断面図

第2次確認調査は、平成28年2月18日から3月25日まで実施した。18日木曜日:基準杭設置。トレンチ設定。19日金曜日:トレンチ設定継続, 人力での掘削を開始。22日月曜日:人力掘削終了。重機による掘削開始。23日火曜日:重機による表土剥ぎ終了。遺構検出作業開始。～3月3日木曜日:遺構検出作業継続。2日水曜日:土層分析, 実測等記録作業実施。3日木曜日:重機による拡張部分のトレンチ掘削。22日火曜日:埋め戻しを開始。～25日金曜日:埋め戻しが終了し, 調査を完了した。

調査の概要

発掘調査は第1次確認では7,985㎡に対し, トレンチは59ヶ所, 掘削面積656㎡, 8.22%を調査し, 第2次確認では1,878㎡に対し, トレンチ26か所, 掘削面積203㎡, 10.81%を調査した。全体的にみると調査対象面積 9,863㎡に対して, 掘削面積は859㎡, 全体の8.71%の面積を掘削し調査している。

調査区の土層は, 多くのトレンチで現地表面より60cm～90cmほどで遺構確認面としたソフトローム層が検出された。また, 多くの地点で表土層以下, 土砂の移動がほとんどみられず, 自然の堆積土が検出されている。ただ調査区に掘削・削平されてしまった区域があり, 一部は調査ができなかった。

調査の結果をみると, 第1次確認で奈良・平安時代の竪穴建物跡9軒, 掘立柱建物跡11棟, 土坑11基, 第2次確認で, 縄文時代の陥穴3基, 奈良・平安時代の竪穴建物跡6軒, 掘立柱建物跡4棟, 土坑6基などが検出されている。遺構の検出状況に大きな差異はみられないが, 区域全体に奈良・平安時代の集落が広く展開していることが想定され, 希薄ではあるが縄文時代の遺構の展開も推定される。

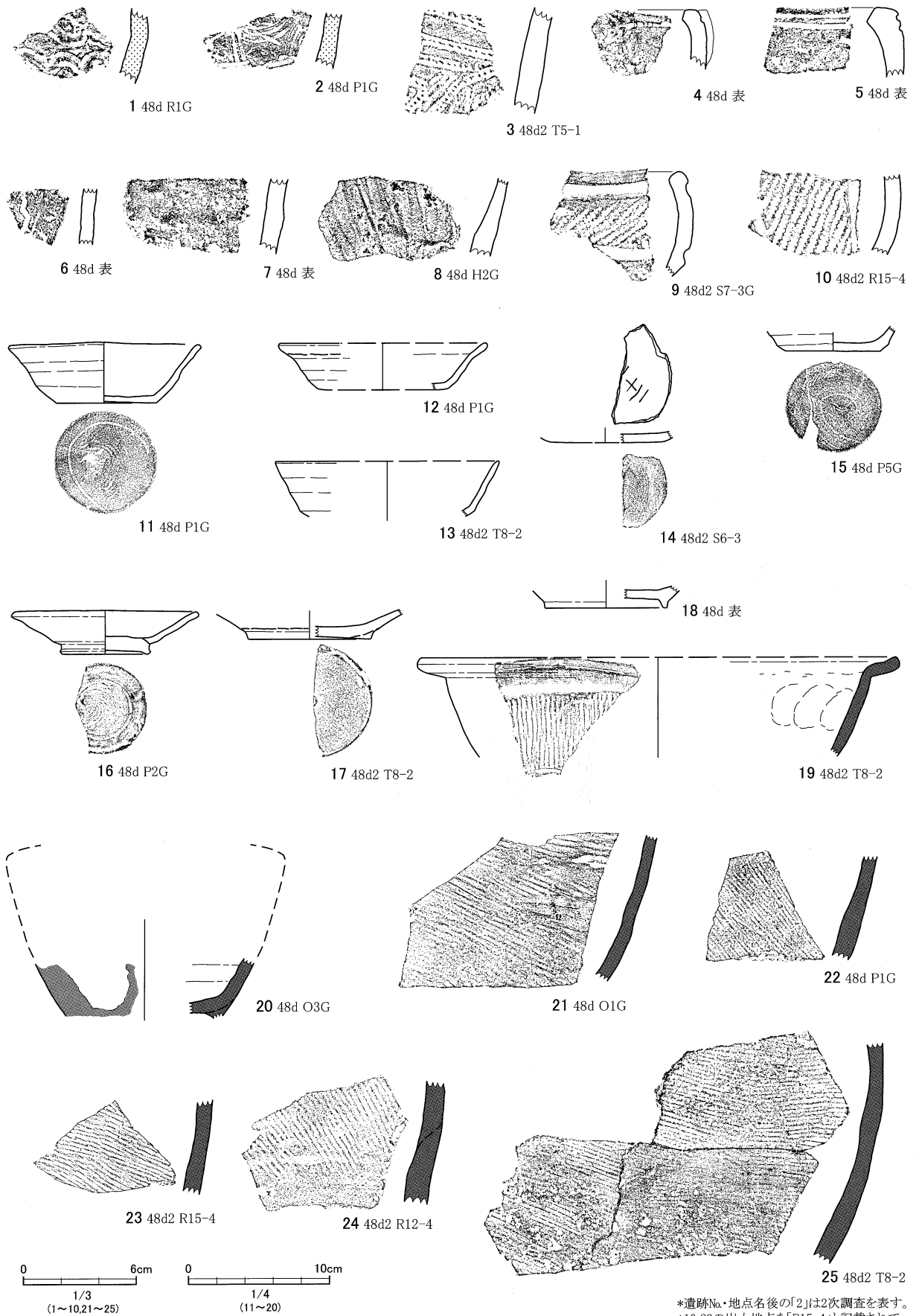
1次, 2次確認調査の結果, 採集された出土遺物の総数は285点であった。第1次確認調査では, その内186点を採集しており, 縄文時代前期・中期などの縄文土器15点, 奈良・平安時代の土師器150点, 須恵器15点, 鉄片1点, 不明5点が出土している。第2次確認調査では99点が出土しており, 縄文時代前期・中期などの縄文土器4点, 奈良・平安時代の土師器81点, 須恵器13点, 礫1点であった。

出土した縄文土器は全体で19点あり, 前期前半の黒浜式土器6点(第26図1,2), 後半諸磯式土器1点(同3), 中期前半の阿玉台式土器4点(同4,5,6,7), 後半の加曾利E3～4式土器3点(同9,10)が主であった。土師器は全体で231点出土しているが, 甕のほかに坏(同11,12,13,14,15), 高台付皿(同16,17,18)などがみられた。第26図14の坏の内側底面に線刻がみられるが, 意味は不明である。須恵器は28点出土しており, 大型の甕(同19,21,22,23,24,25)や高台付壺(同20)が出土している。(遺物の写真はP60 図版16-1～4)

調査のまとめ

本跡 d 地点全体の調査の結果, 縄文時代の陥穴3基は調査区東側の2次調査区で検出されている。また, 平安時代の竪穴建物跡は15軒, 掘立柱建物跡は15棟が検出されている。調査区全体では中央から東側により多く検出される傾向がみられ, 両調査区にまたがって展開している。出土遺物では, 前期, 中期の縄文土器がわずかに検出されたが, 明確な出土傾向はみられない。奈良・平安時代の土師器・須恵器については, 全体的に多く出土しているが, 中心は8世紀期後半から9世紀前半のものが多く, 特に調査区中央から東側に多く出土する傾向が伺われ, 遺構の展開と同様とみられた。区域内には島田塚群も展開しているはずであるが, 今回の調査において確認されておらず, 区域内においては消滅した可能性がある。

第1次確認調査区域約7,985㎡の内約6,200㎡が, 第2次確認調査区域約1,878㎡の内約807㎡, 合計7,007㎡が保存協議の対象となった。



第26図 島田込の内遺跡d地点 出土遺物

*遺跡No.・地点名後の「2」は2次調査を表す。
 *10,23の出土地点を「R15-4」と記載されているが、存在しない。「R15-2」の誤記か。

図版10-1 島田込の内遺跡 d 地点 第1次確認調査



1. 第1次調査区掘削状況



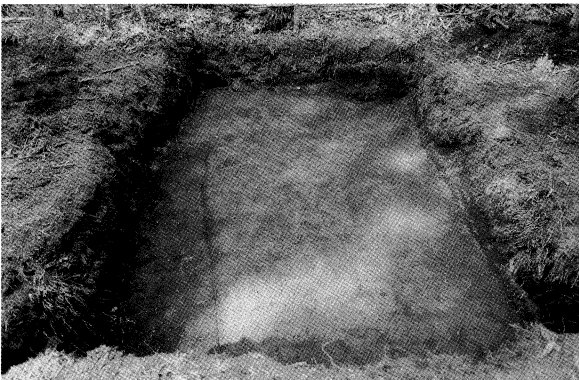
2. F1トレンチ土層堆積状況



3. R1トレンチ土層堆積状況



4. I3トレンチ遺構検出状況



5. O1トレンチ遺構検出状況



6. O2トレンチ遺構検出状況



7. O3トレンチ遺構検出状況



8. Q2トレンチ遺構検出状況

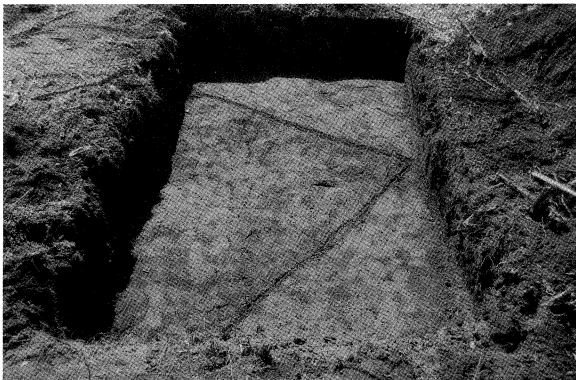
図版10-2 島田辺の内遺跡d地点 第2次確認調査



1. 第2次調査区全景



2. S11-1トレンチ土層堆積状況



3. S8-2トレンチ遺構検出状況



4. S5-3トレンチ遺構検出状況



5. T6-2トレンチ遺構検出状況



6. S7-3トレンチ遺構検出状況



7. S9-2トレンチ土層堆積状況



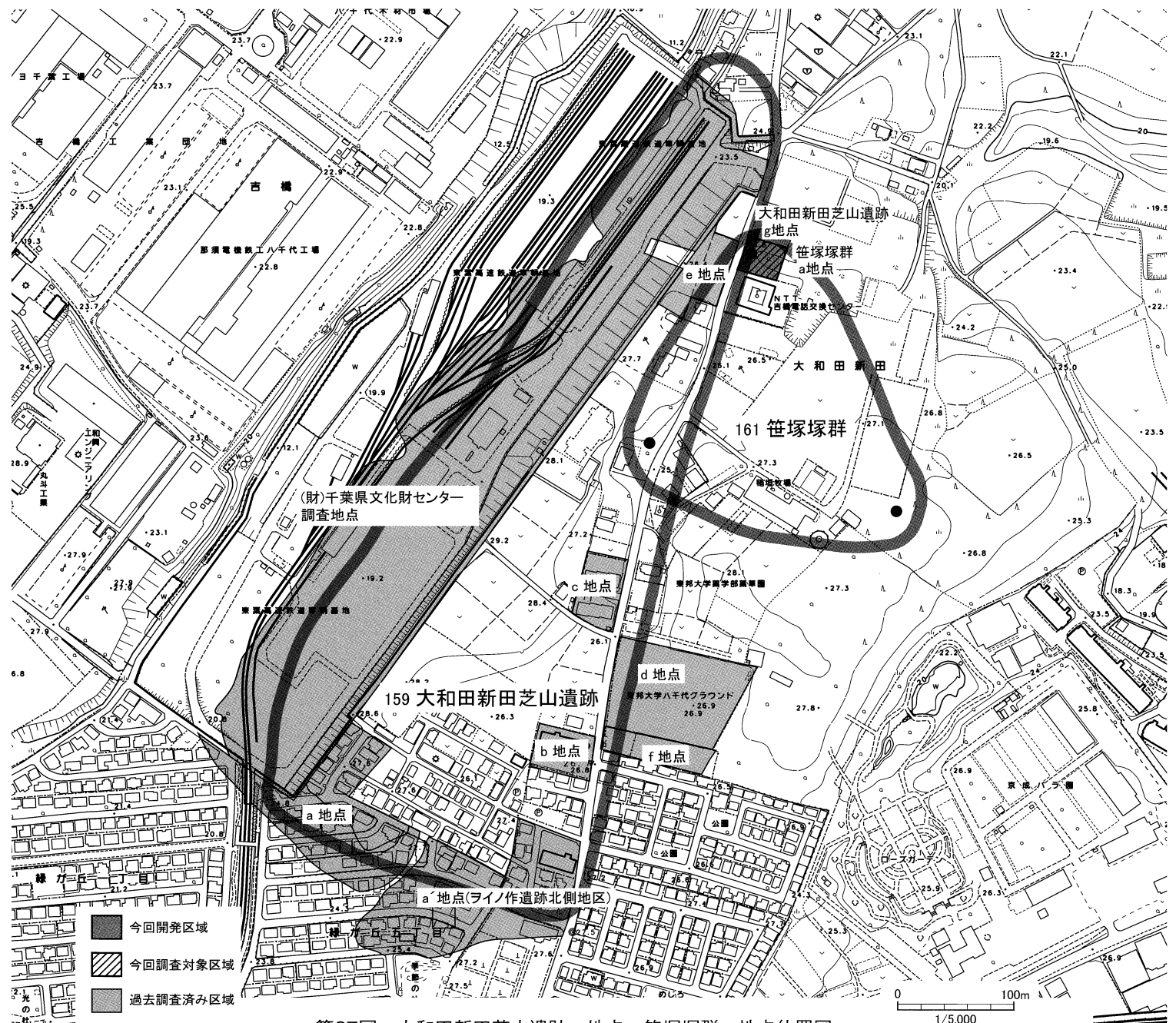
8. S10-2トレンチ遺構検出状況

11. 大和田新田芝山遺跡 g 地点・笹塚塚群 a 地点

遺跡の立地と概要

大和田新田芝山遺跡は、市域の西部、大和田新田地区平作に所在する。桑納川の右岸から合流する花輪川を約2,000m遡り、川の中流域の右岸、台地上に幅広く展開する。段丘面としては、下総上位面に区分され、標高27mから29mに立地する。本跡の東側には、桑納川から南へ津金谷津が奥深く入り込み、その分流が本跡に迫ってきているが、かなり地形の改変が行われたためか、元来の地形が判然としない。

本跡の規模は大きく、北東-南西方向で約750m、北西-南東方向の最大幅約300mの範囲を想定している。花輪川に面する台地先端部の大半は、(財)千葉県文化財センターにより調査が行われた。その後、周辺の開発に伴い6地点で調査を行っている。遺跡全体の密度は低いが、旧石器時代から奈良・平安時代まで断続的に集落や人の生活の痕跡が検出されている。傾向としては、台地先端部から離れるにしたがって、



第27図 大和田新田芝山遺跡 g 地点・笹塚塚群 a 地点位置図

遺構・遺物の検出はみられなくなる。

昭和58年の遺跡分布図では、a地点は本跡の区域内に入っていたが、a'地点は本跡の南側に隣接する「ライノ作遺跡」の一部と捉えられていた。周辺一帯で行われた区画整理事業の調査時において、「ライノ作遺跡」北側地区と南側地区との間に大きな谷津が入り込むことが確認されたため、平成9年の分布図の改正時において、分離統合の結果、a'地点(ライノ作遺跡 北側地区)は本跡に組み込まれた。

今回の調査区g地点は、花輪川側の台地先端から約150m台地内側に入り、本跡北部の東端に位置する。また、区域内には笹塚塚群の内の1基が所在するとみられていた。

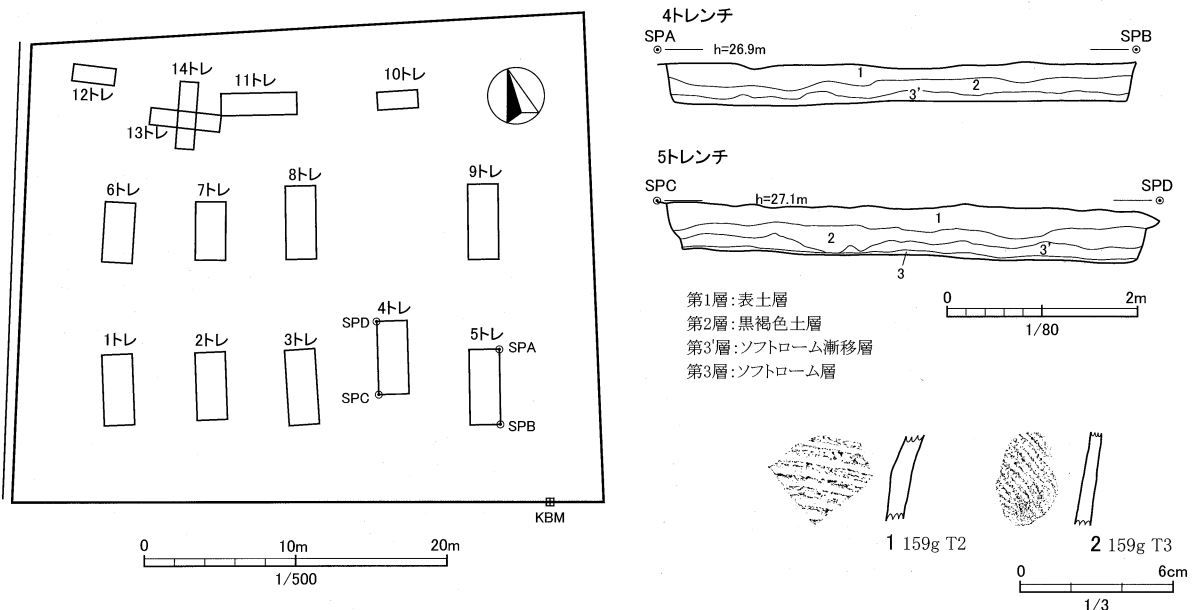
調査の方法と経過

発掘調査は、区域の形状に合わせて、2m×5mのトレンチを基本として、任意に設定した。掘削は人力で遺構検出面を確認し、その後、重機により遺構確認面としたローム上面まで表土を掘削除去した。掘削後、遺構の検出作業、土層の分析を行った。塚が想定された地表の高まりの部分には、追加トレンチを

第12表 大和田新田芝山遺跡の調査

地点	調査面積 (㎡)	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
財)県文七 調査地区	25,400	確認	旧石器時代 環状ブロック2	旧石器時代 ナイフ形石器他 縄文土器(早期~後期) 平安時代 土師器、刀子	(財)千葉県文化 財センター	S59年度	*1
	17,000	本調査	縄文時代 早期炉穴2				
	29,144		同 前期 竪穴建物跡1, 土坑1 同 中期 竪穴建物跡1 同 後期 竪穴建物跡1, 土坑1 平安時代 竪穴建物跡8, 製鉄炉1 時期不明 陥穴状遺構44				
a	763/7,630	確認	縄文時代 早期炉穴1, 同 前期 竪穴建物跡2, 縄文時代 土坑9	縄文土器(早期 条痕文, 前期, 中期), 石鏃	調査会	S61.10	*2
	3,500	本調査	平安時代 竪穴建物跡1, 土坑1	平安時代 須恵器		S62.5~ S62.6	
a'	24,000内14,000	確認・本	縄文時代 前期 竪穴建物跡1, 土坑1	縄文土器(前期)	調査会	S61.10	*2
	— /2,970	確認・本	縄文時代 土坑1	縄文土器(前期, 後期)		S63.7	
	— /2,240	確認	なし	縄文土器(前期)		S63.12	
b	上321.5/1,947.71 下 24/1,947.71	確認	なし	縄文土器(後期)	市教委	H15.2	市内H15
c	216/2,114.90	確認	なし	縄文土器, 近世 陶磁器, 焙烙	市教委	H18.4	市内H19
d	376/4,000	確認	奈良@平安時代 土坑1	縄文土器, 石鏃	市教委	H23.4	市内H24
e	上 259/2,515.50 下 20/2,515.50	確認	縄文時代 土坑1	縄文土器(前期~晩期)	市教委	H23.9	市内H24
f	36/320	確認	なし	なし	市教委	H27.2	市内H27

*1「八千代市仲ノ台遺跡・芝山遺跡 176集」1990(H2) *2「千葉県八千代市仲ノ台遺跡・ライノ作遺跡他発掘調査報告書」1996(H8) a' 地点は調査時「ライノ作遺跡北側地点」として調査が行われた。面積・調査時期等について不明な点もあるが、終了届や報告書等から抽出した。



第28図 大和田新田芝山遺跡 g 地点・笹塚塚群 a 地点トレンチ配置図・土層断面図・出土遺物

設定し掘削した。この調査での標高は、調査区近隣で都市計画図上の標高の明らかな地点を基準に計測した。

調査は平成27年10月20日から10月28日まで実施した。20日月曜日:トレンチの設定, 人力での掘削を開始。21日火曜日:トレンチ掘削継続。土層分析, 実測等記録作業開始。遺構検出作業。27日火曜日:土層実測, 記録作業。塚の追加トレンチ掘削。埋め戻し開始。28日水曜日:追加トレンチ清掃確認。埋め戻しが終了し, 調査を完了した。

調査の概要

調査区の土層は、地表面より50cmほどで遺構確認面としたローム層が検出された。

発掘調査は、調査対象面積 942㎡に対して、トレンチ14か所、掘削面積は106㎡、全体の11.25%の面積を掘削し調査した。調査の結果、遺構は検出されなかったが、遺物は縄文土器が2点(第28図1,2)(遺物の写真はP60 図版16-5)出土している。1は縄文時代後期の粗製土器とみられる。

調査のまとめ

今回の調査区は、大和田新田芝山遺跡の北東端でもあり、笹塚塚群の1基が調査の対象となった。調査の結果、遺構は検出されず、遺物は縄文時代後期を含む土器が2点出土した。

また、調査前に塚状の高まりが確認されていたが、追加トレンチなどの調査の結果、人為的な盛土を確認することができなかった。

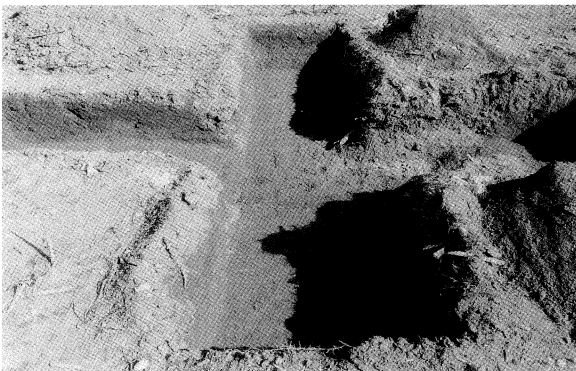
図版11 大和田新田芝山遺跡 g 地点・笹塚塚群 a 地点



1. 調査区全景



2. 5トレンチ土層堆積状況



3. 13・14トレンチ確認面検出状況



4. 2トレンチ確認面検出状況

調査の方法と経過

発掘調査は調査区が狭小のため、調査区の形状にあわせ、既存建物を避けて任意に2か所のトレンチを設定した。掘削は遺構確認面まで人力により表土を除去し遺構の検出作業、土層の分析を行った。

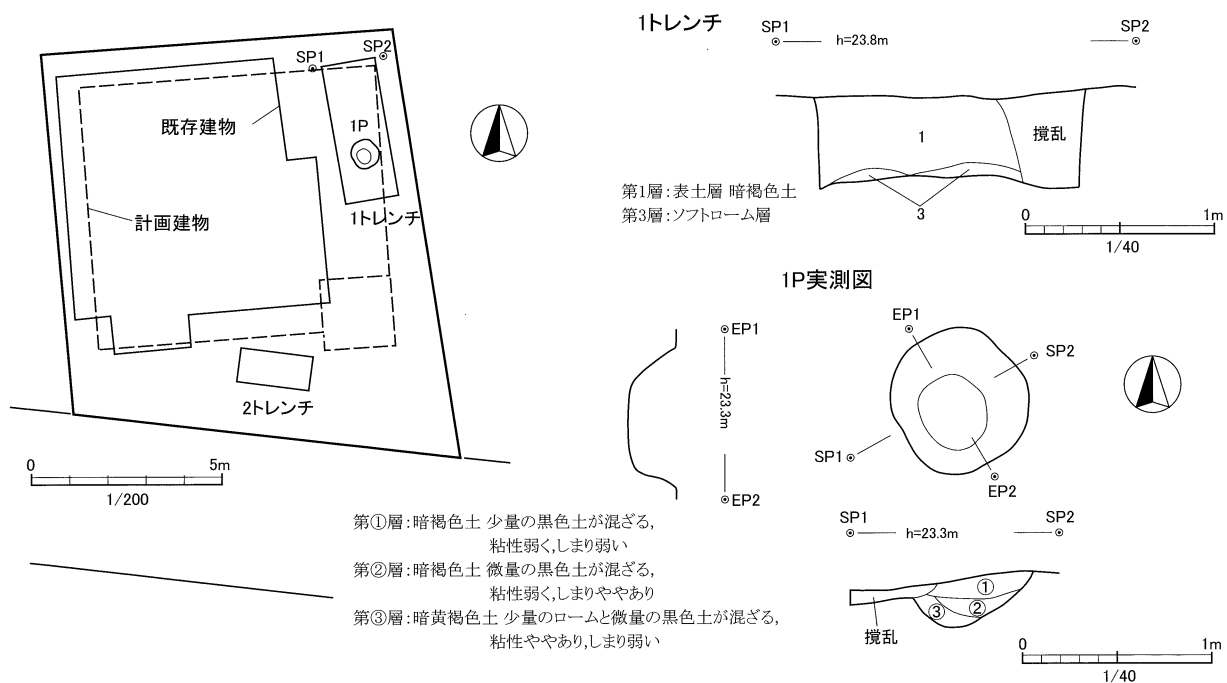
この調査での標高は、調査区近隣で都市計画図上の標高の明らかな地点を基準に計測した。

調査は平成28年1月8日から1月14日まで実施した。8日金曜日:トレンチの設定。人力による掘削開始。12日火曜日:掘削終了、遺構検出作業。遺構を確認し、写真撮影。13日水曜日:土層の分層、実測。遺構(1P)掘削調査。14日木曜日:1P実測、写真等の撮影記録作業。埋め戻しを行い、調査を完了した。

第13表 白幡前遺跡の調査

地点	調査面積 (㎡)	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
財)県文セ調査地区	94.026	本調査	弥生時代後期 竪穴建物跡17 古墳時代後期 竪穴建物跡5 奈良・平安時代 竪穴建物跡279 同時代 掘立柱建物跡149他	旧石器時代石器、弥生土器 古墳時代 土師器 奈良・平安時代 土師器、須恵器	(財)千葉県文化財センター	S54.8~ S63.9	*1
池の台	675	本調査	平安時代 竪穴建物跡2他	平安時代 土師器他	市教委	S60.5	*2
財)県文セ上の台	2,027	本調査	奈良・平安時代 竪穴建物跡17他	奈良・平安時代 土師器、須恵器	(財)県文セ	H2.12~ H3.7~	*3
a	117.6/1,497.97	確認	平安時代 竪穴建物跡18、掘立柱建物跡5、土坑39、井戸状遺構2	縄文土器(中期加曾利E式) 弥生土器(後期)	市教委	H13.2	未報告
	1,497.97	本調査	中世 溝状遺構1	平安時代 土師器、須恵器、施釉陶器	調査会	H13.5	
b	214/214	確認 本調査	奈良・平安時代 土坑4 時期不明 溝2	奈良・平安時代 土師器、須恵器	市教委	H13.9	市内H14
c	91/894.01	確認	奈良・平安時代 竪穴建物跡4、土坑12他	奈良・平安時代 土師器、須恵器、 鬮羽口、支脚、釘、鉄鏃、鉄滓、貝、 土器片円盤	市教委	H19.10	市内H20
	311	本調査	近世 溝1、土坑1 近現代 溝2	近世 陶器、馬骨	市教委	H20.3	*4
d	226/2,306	確認	縄文時代中期 竪穴建物跡1 古墳時代後期 竪穴建物跡2	縄文土器(前期~中期)、石鏃 古墳時代後期 土師器	市教委	H25.9	市内H26
	90.15	本調査	奈良・平安時代 土坑4、溝1、他土坑12	奈良・平安時代 土師器、須恵器、鉄鏃 近世銭貨	市教委	H25.10	*5
e	148/1,629.46	確認	中近世 掘立柱建物跡1、土坑214、 台地整形区画1、溝12、ピット列2、 粘土貼り付け遺構1	中近世 陶磁器、土器、石製品、 金属器、漆製品、木製品 土師器、須恵器	市教委	H26.5	市内H27
	803	本調査			市教委	H26.7	*6

*1「八千代市白幡前遺跡-菅田地区埋蔵文化財調査報告書V-」1991(H3) *2「池の台遺跡-都市計画道路3・3・7号線造成工事に先行する緊急調査-」1986(S61) *3「八千代市沖塚遺跡・上の台遺跡 他」1994(H6) *4「白幡前遺跡c地点」2009(H21) *5「白幡前遺跡d地点」2016(H28) *6「白幡前遺跡e地点」2015(H27)



第30図 f 地点トレンチ配置図・土層断面図・1P実測図

調査の概要

発掘調査は調査対象面積97.99㎡に対して、トレンチ2か所、掘削面積8㎡、全体の8.16%の面積を調査した。調査区の土層は、現地表面より40cmほどで遺構確認面としたソフトローム層に達した。

調査の結果、奈良・平安時代の土坑1基、出土遺物は土師器7点、須恵器1点が出土している。(遺物の写真はP60 図版16-6)

調査のまとめ

過去8回の調査により、縄文時代から奈良・平安時代、さらに中近世にわたる遺跡で、とりわけ平安時代の大規模な集落として、全貌がみえている。今回の調査において、遺跡西端の状況がわずかながら一部明らかとなった。

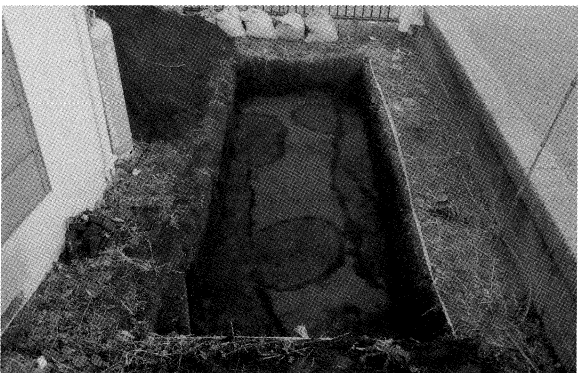
図版12 白幡前遺跡 f 地点



1. 調査区全景



2. 1トレンチ土層堆積状況



3. 1トレンチ遺構検出状況



4. 2トレンチ確認面検出状況



5. 1P(土坑)土層堆積状況



6. 1P(土坑)完掘状況

13. 神明前遺跡 a 地点

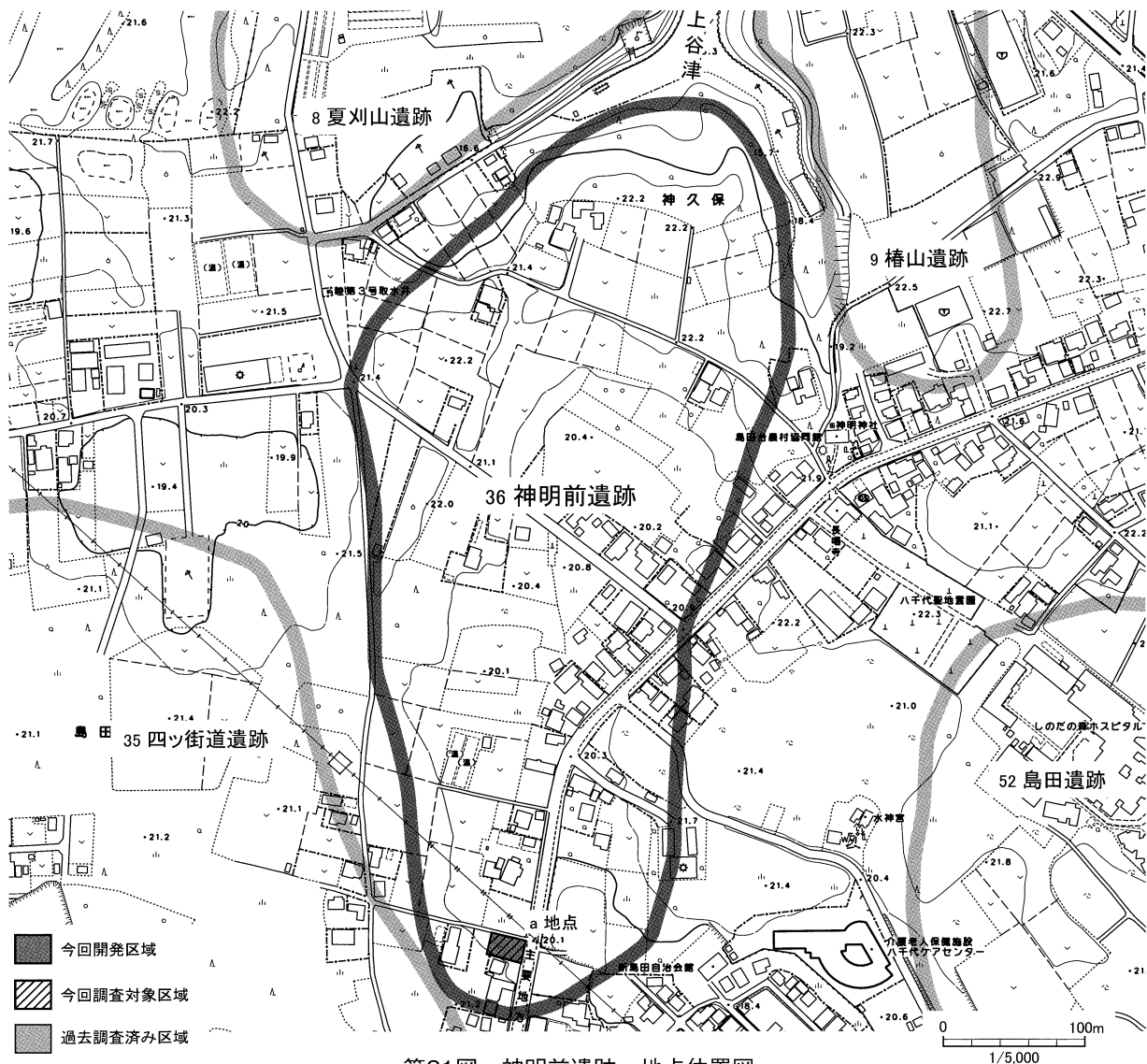
遺跡の立地と概要

神明前遺跡は、市域の北西部、神久保地区から島田台地区にまたがって所在する。神崎川の下流域で、小池地区と真木野地区の大字界から、神久保地区の中央を通る谷津の最上流「上谷津」に面する標高20mから22mの台地上に立地する。遺跡の立地する台地は、下総下位面で形成されている。本跡の規模は、南北方向約660m、東西方向の最大約300mで南北に細長い遺跡範囲となっている。本跡の先端は「上谷津」が二股に分岐し、舌状台地を形成する。本跡は、過去に調査が行われておらず、遺跡の様相は明らかになっていない。

今回の調査区域 a 地点は、本跡の南端、台地内の平坦面に位置する。

調査の方法と経過

発掘調査は調査区の形状にあわせ、計画建物を避けて任意に5か所のトレンチを設定した。掘削は遺構確認面の検出や包含層の有無を確認するため、人力により調査を開始し、以後、重機により表土を除去し



第31図 神明前遺跡 a 地点位置図

た。掘削後、遺構の検出作業、土層の分析を行った。

この調査での標高は、調査区近隣で都市計画図上の標高の明らかな地点を基準に計測した。

調査は平成28年2月12日から2月19日まで実施した。12日金曜日:トレンチの設定。人力による掘削開始。15日月曜日:重機による掘削開始。2トレンチから遺構(1P)確認。16日火曜日~17日水曜日:土層の分層、実測。18日木曜日:遺構(1P)掘削調査。19日金曜日:埋め戻しを行い、調査を完了した。

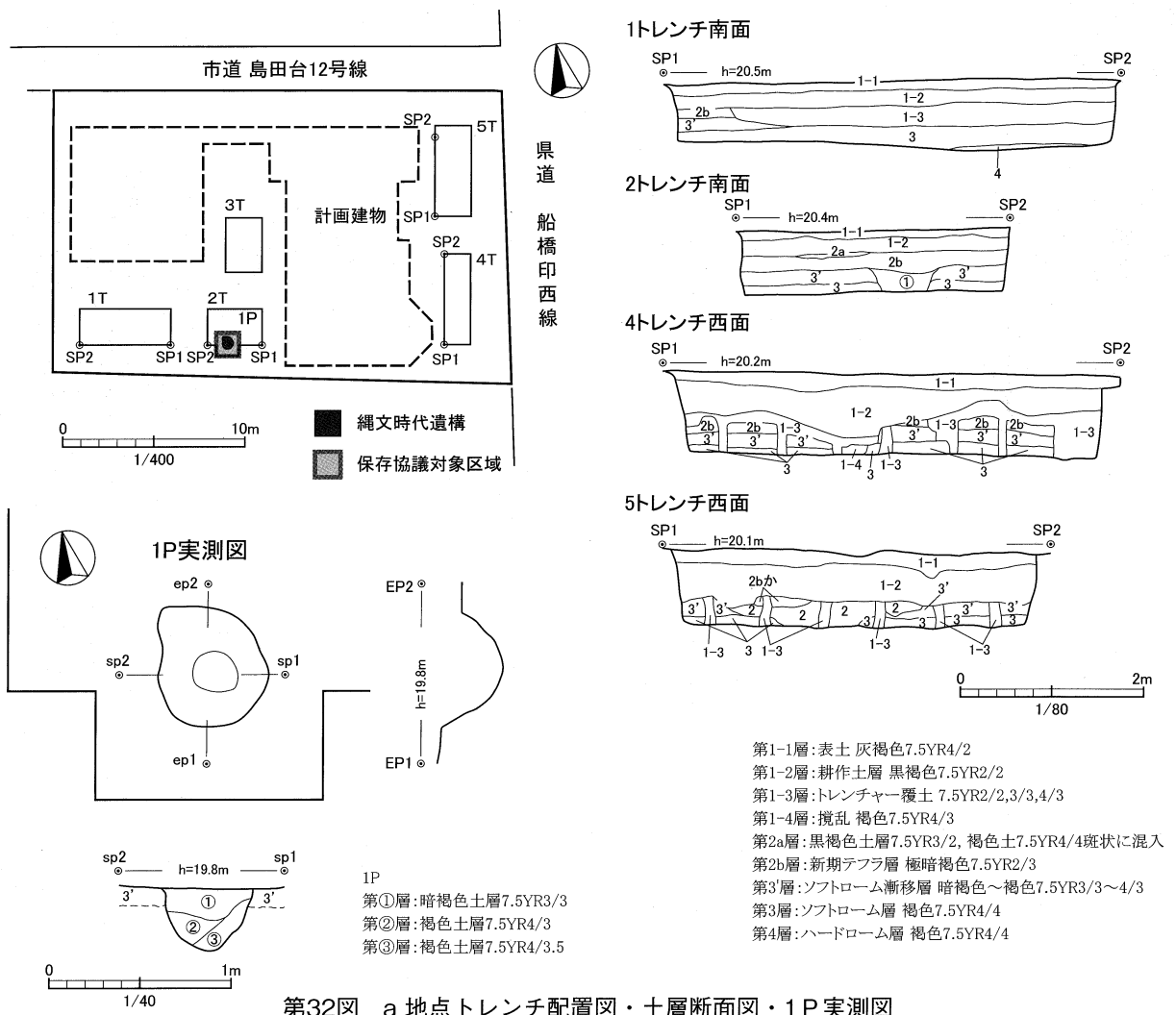
調査の概要

発掘調査は、調査対象面積388.93㎡に対して、トレンチ5か所、掘削面積38㎡、全体の9.77%の面積を調査した。同時に、検出された遺構調査のため、1.44㎡の本調査を行った。調査区の土層は、表土以下に自然堆積土が残るが、トレンチャーなどの攪乱がみられる。現地表面より50cmから60cmほどで遺構確認面としたローム層が検出される。

調査の結果、縄文時代と推定される土坑1基が検出されていた。出土遺物は1トレンチから土師質土器の小片1点が出土する。(遺物の写真はP60 図版16-7)

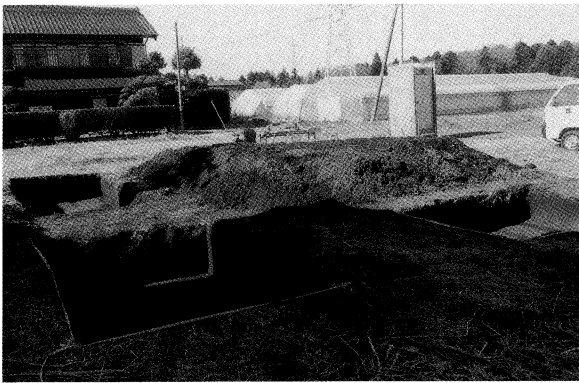
調査のまとめ

本跡の主体は台地先端部にあるとみられるが、今回の調査によって、本跡の一端が明らかとなった。



第32図 a 地点トレンチ配置図・土層断面図・1P実測図

図版13 神明前遺跡 a 地点



1. 調査区掘削状況



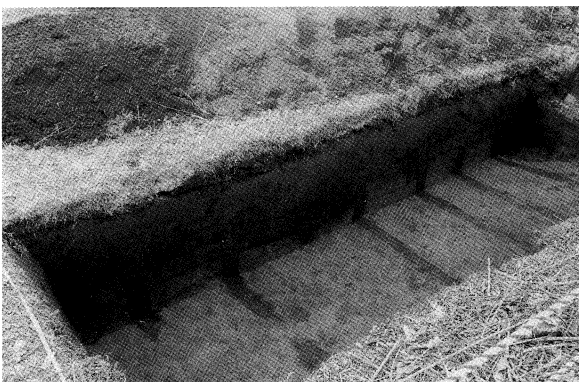
2. 1トレンチ南面土層堆積状況



3. 2トレンチ南面土層堆積状況



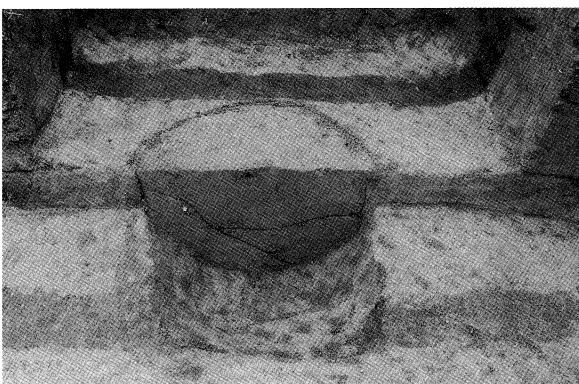
4. 5トレンチ西面土層堆積状況



5. 4トレンチ西面土層堆積状況



6. 4トレンチ確認面検出状況



7. 1P(土坑)土層堆積状況



8. 1P(土坑)完掘状況

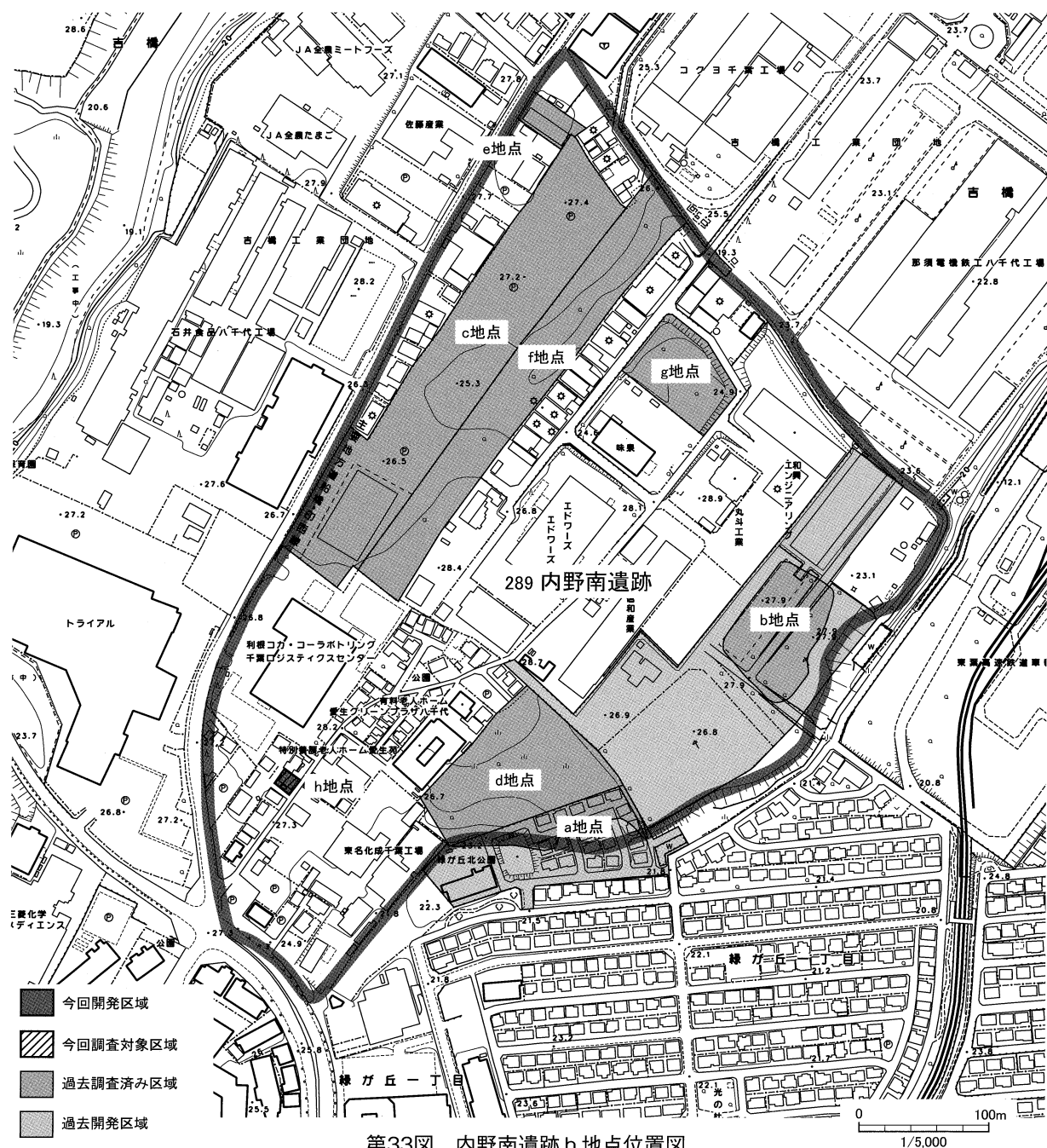
14. 内野南遺跡 h 地点

遺跡の立地と概要

内野南遺跡は市域の西部，吉橋地区に所在する。桑納川の下流域の右岸で花輪川と石神谷津が開析されることにより形成された南北に細長い舌状台地の最奥部，花輪川に面する標高26mから28mの台地上に立地する。この台地の地形面は下総上位面で形成されている。本跡の規模は，北東－南西方向で約650m，北西－南東方向で最大幅約450mである。

本跡は過去に7か所調査が行われており，遺跡の様相は明らかになりつつある。遺跡の主体は，縄文時代早期から前期の炉穴や竪穴建物跡，陥穴などであり，台地中央部での遺構密度は希薄で，花輪川に面する台地の際で遺構が検出される。特に，竪穴建物跡が検出される区域は限定される。

今回の調査区域 h 地点は，本跡の南西部，台地の内側の平坦面に位置する。



調査の方法と経過

発掘調査は計画建物を避け、調査区の形状にあわせて任意に2か所のトレンチを設定した。掘削は遺構の確認面の検出や包含層の有無を確認するため、人力により調査を開始し、以後、重機により表土を除去した。掘削後、遺構の検出作業、土層の分析を行った。

調査は平成28年2月23日から2月26日まで実施した。23日火曜日:トレンチの設定。人力による掘削開始。24日水曜日:重機による掘削開始。遺構検出作業を行う。25日木曜日:土層の分析、実測等記録作業。26日金曜日:埋め戻しを行い、調査を完了した。

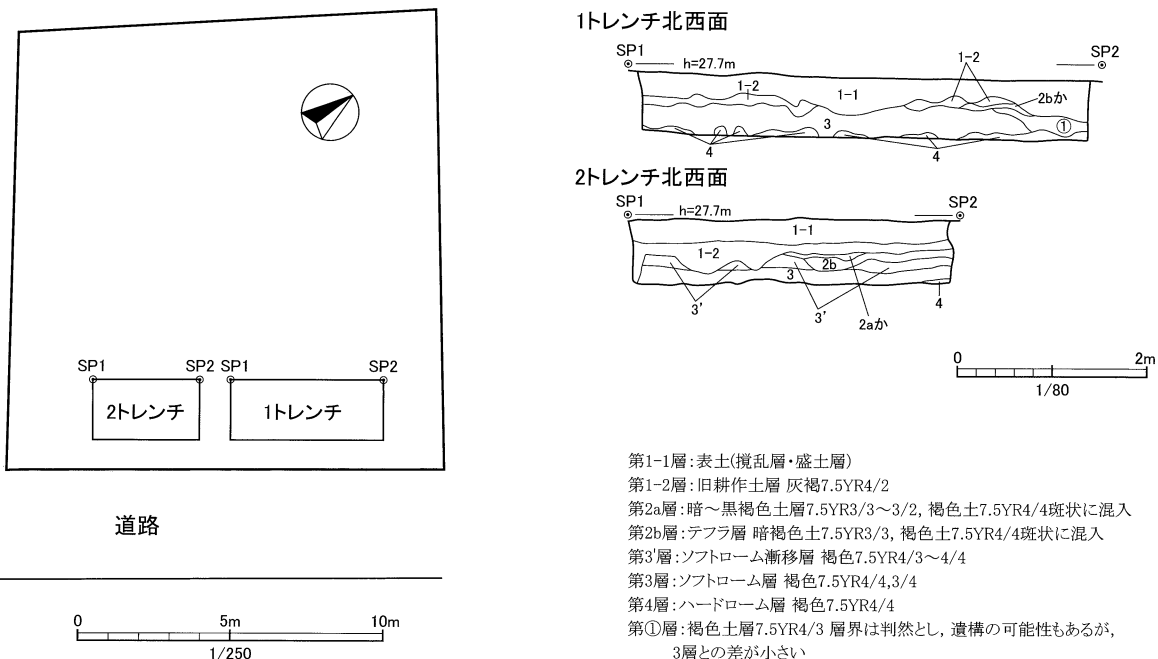
調査の概要

発掘調査は、調査対象面積204㎡に対して、トレンチ2か所、掘削面積17㎡、全体の8.33%の面積を調査した。調査区の土層は、表土以下に旧耕作土もみられ、比較的良好な堆積状況が確認された。現地表面より30cmから50cmほどで遺構確認面としたローム層が検出された。

第14表 内野南遺跡の調査

地点	調査面積(㎡)	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
a	350/5.300 本調査 280	確認 本調査	縄文時代 早期 炉穴5, 前期 土坑8 奈良時代 竪穴建物跡1	縄文土器(早期, 前期, 中期, 後期) 奈良時代 土師器, 須恵器	調査会	H10.3~4	*1
b	上 774/5.400 下 24/5.400	確認 本調査	縄文時代 陥穴1, 土坑1	縄文土器(早期, 中期, 後期)	市教委	H10.8	市内H10
c	2,792/22,911.10 本調査84	確認 本調査	縄文時代 土坑7	縄文土器(前期, 中期, 後期), 石鏃	市教委	H14.5	市内H15
d	上 970/9,702.82 下 32/9,702.82 1.600	確認 本調査	縄文時代 早期 竪穴建物跡4, 炉穴5, 陥穴1 同 前期 竪穴建物跡4 同 早期~前期 土坑182, 道路状遺構1	縄文土器 早期(条痕文系土器), 前期(黒浜, 浮島, 興津), 中期, 後期(曾谷), 磨石, 焼礫	市教委	H19.7 H19.11	市内H20 *2
e	90/1,072.61	確認	なし	縄文土器(後晩期)	市教委	H22.9	市内H23
f	1,064/10,790	確認	なし	縄文土器(後期 加曾利B, 安行)	市教委	H24.7	市内H25
g	341/4,428	確認	なし	縄文時代 礫 奈良・平安時代 土師器	市教委	H24.8	市内H25

*1 「内野南遺跡a地点発掘調査報告書」2000(H12) *2 「内野南遺跡d地点発掘調査報告書」2008(H20)



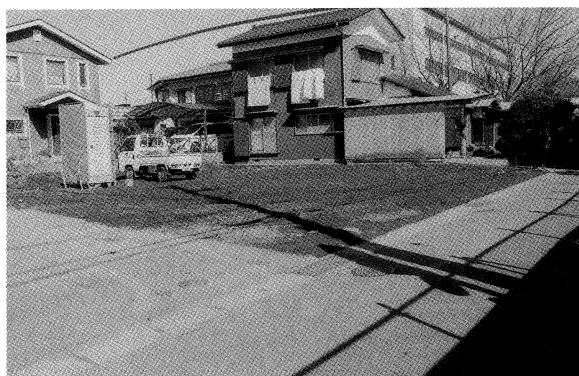
第34図 h地点トレンチ配置図・土層断面図

調査の結果、遺構は検出されなかったが、出土遺物として縄文土器の小片2点(出土遺物はP60 図版16-8)が出土している。

調査のまとめ

今回の調査地点では、遺構が検出されず、出土遺物も縄文土器の小片がわずか2点という結果ではあった。前述のように、本跡の主体は、縄文時代の早期から前期を中心とした炉穴や竪穴建物跡が花輪川に面する台地の際に立地しているとみられる。小規模な今回の調査で確定的な結論を出すことはできないが、台地の内側に行くにしたがって、遺構の検出や出土遺物の希薄さが増すであろうことが、あらためて確認される結果となった。

図版14 内野南遺跡h地点



1. 調査区全景



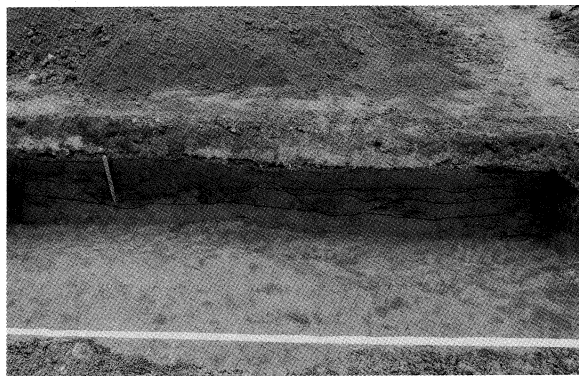
2. 遺構検出作業風景



3. 1トレンチ土層堆積状況



4. 1トレンチ確認面検出状況



5. 2トレンチ土層堆積状況



6. 2トレンチ確認面検出状況

15. 下船田遺跡 c 地点

遺跡の立地と概要

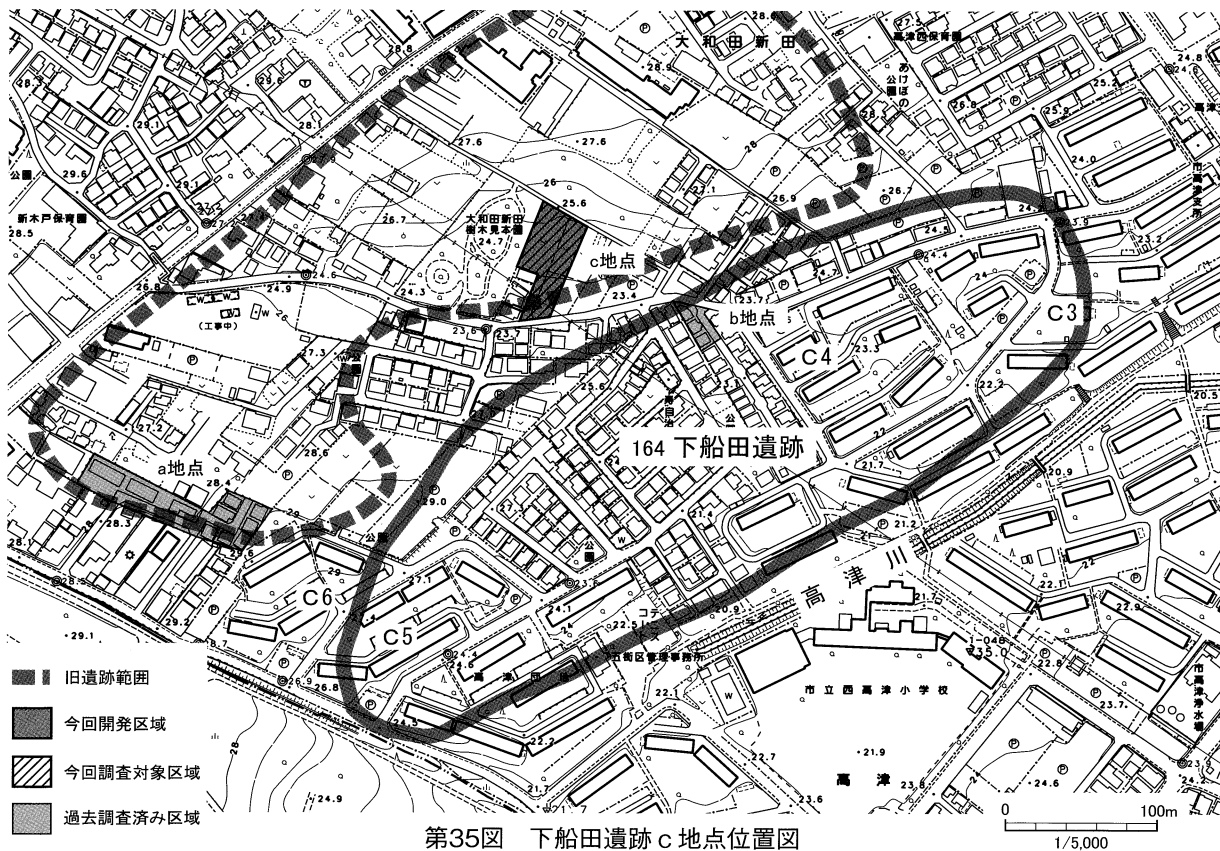
下船田遺跡は市域の西部，大和田新田地区西部の新木戸前に所在する。本跡は高津川の最奥部，左岸の標高21～24mの台地上に立地している。この周辺の台地の地形面は下総上位面で形成されている。遺跡の規模は，北東－南西方向の長さ約570m，北西－南東方向の幅で最大約180mである。

本跡の範囲として高津川沿いの区域を示しているが，以前の遺跡分布図では台地奥の成田街道沿いの一帯(第35図の破線の示す範囲)を指していた。変更された理由は定かではないが，現在の範囲には，昭和45年に行われた高津団地造成時の調査区域が含まれている。C3～C6が当時の調査地点の一部である。C3地点はトレンチによる調査が行われ，区域内にあった「牧舎・牧場」の移転後に追加トレンチを入れたが遺構は検出されず，土師器片が数片出土した。この地点の地形は，比較的広い下位段丘面が形成され，その先端部の調査であったようだ。C4地点は高津川から北西方向に分岐する小規模な谷津の中に位置する。この谷津はc地点の南西側にまで入り込んでいる。遺構遺物は検出されていない。C5地点は幅の狭い下位段丘面上を調査している。地表下約55cmでローム層が確認され，遺構遺物は検出されていない。C6地点はC5地点の北西側に位置し，上位段丘面との間の傾斜地であったようだ。遺構の検出の記載はなく，土師器片が若干と縄文土器数片が出土している。報告書では上位段丘面からの流れ込みと推測している。

第15表 下船田遺跡の調査

地点	調査面積 (㎡)	調査種別	遺構	遺物	調査機関	調査年月	報告書
高津 C3	220/-	確認	なし	土師器数片	調査団	S45.3	*1
高津 C4	240/-	確認	なし	なし		S45.4	
高津 C5	420/-	確認	なし	なし		S45.4	
高津 C6	765/-	確認	なし	縄文土器数片，土師器若干		S45.4	
a	304/2,994	確認	なし	縄文土器(中期)	市教委	H4.7	市内H4
b	97/463.32	確認	なし	なし	市教委	H14.10	市内H15

*1「千葉県八千代市高津遺跡 発掘調査概報」1970(S45)立正大学博物館学講座研究小報4



調査の方法と経過

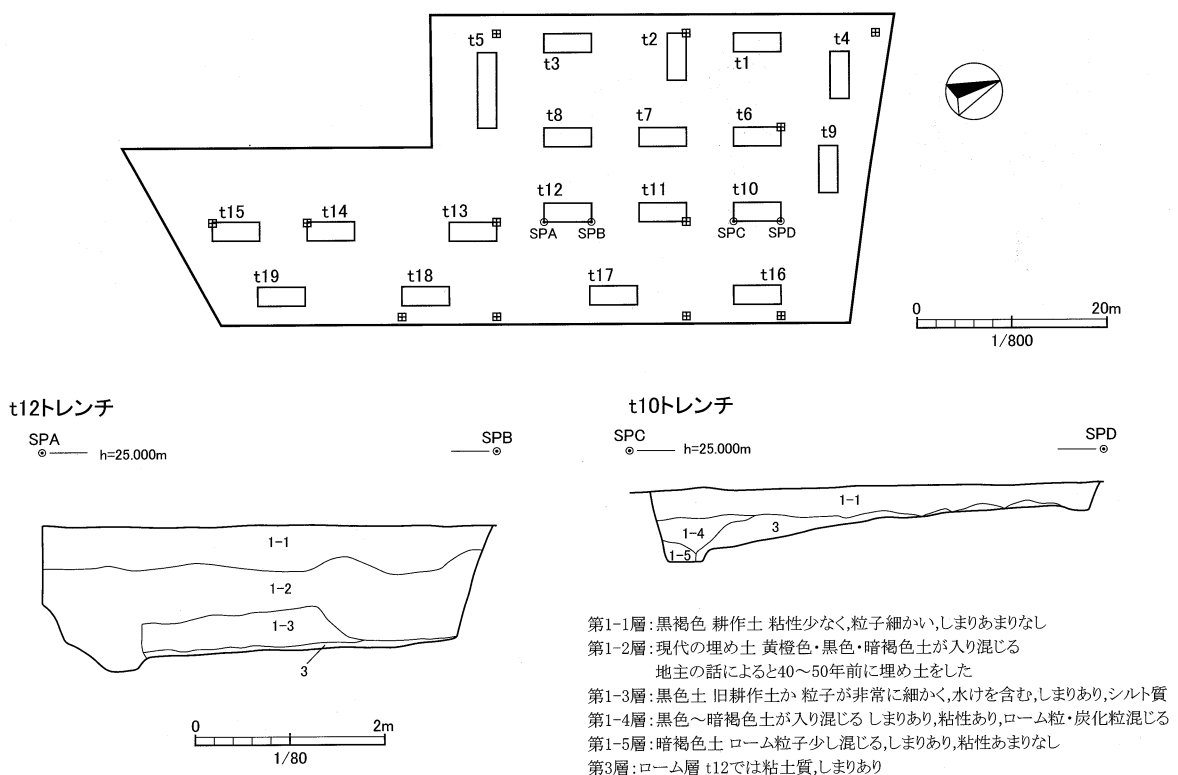
発掘調査は調査区の形状にあわせて方眼を組み、その方眼を基準に2m×5mのトレンチを設定した。トレンチの名称は順次番号を割り振った。掘削は遺構確認面の検出や包含層の有無を確認するため、人力により調査を開始し、以後、重機により遺構確認面まで表土を除去した。掘削後、遺構の検出作業、土層の分析を行った。調査での標高の基準は、都市再生街区基本調査における街区多角点10B66(X=-31042.198 Y=21551.025 H=23.553)を参考に計測した。

調査は平成28年3月8日から3月18日まで実施した。8日火曜日:杭打ち、トレンチの設定。9日水曜日:人力による掘削開始。耕作土の下に山砂を検出。人為的な堆積か。11日金曜日:重機による掘削をt15トレンチから開始、2mほど掘削したが、ローム層が検出されず、事故防止のため埋め戻した。遺構検出作業。15日火曜日:重機によるトレンチ掘削終了。遺構検出作業継続。16日水曜日:街区多角点からレベル移動。土層の分析、実測等記録作業。18日木曜日:重機により埋め戻しを行い、調査を完了した。

調査の概要

発掘調査は調査対象面積1,980.76㎡に対して、トレンチ19か所、掘削面積196㎡、全体の9.90%の面積を調査した。調査区の土層は北東側トレンチで30cm程の耕作土の直下にローム層が検出された。しかし、調査区の南西側では、地下の傾斜が激しく、ローム層が検出されず、前述のようにt15トレンチでは2m掘削してもローム層を検出できなかった。

今回の調査の結果、遺構・遺物は検出されなかった。



第36図 c 地点トレンチ配置図・土層断面図

調査のまとめ

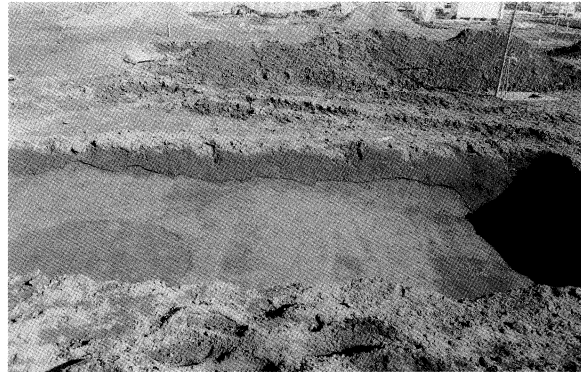
今回の調査地点は、現在の遺跡の範囲からは外れている。遺跡範囲の大半は、高津団地建設時に発掘調査が行われた後に造成工事が実施されており、残存する可能性は低く、当時の報告書の記述からは上位の段丘面上に遺跡の本体が存在する可能性が示唆されていた。

今回の調査の結果から、調査区の南西部分で地山が急激に傾斜していることが確認され、調査区の本来の地形は谷津に面した台地の縁辺であったことがわかってきた。また、今回の調査で遺構・遺物は確認できなかった。同じ上位段丘面に立地するa地点の調査でも近世以降の溝状遺構しか検出されていない。出土遺物は、縄文時代中期 加曾利E式土器の数片が出土しているのみである。残念ながら、今回の調査においても、現時点では、遺跡本体に迫る成果は得られていない。

図版15 下船田遺跡c地点



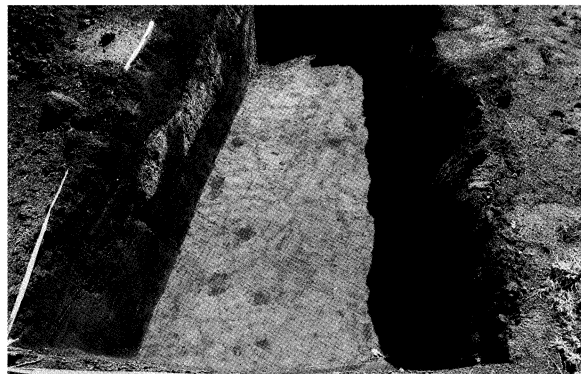
1. 調査区全景



2. t10トレンチ土層堆積状況



3. t12トレンチ土層堆積状況



4. t12トレンチ確認面検出状況

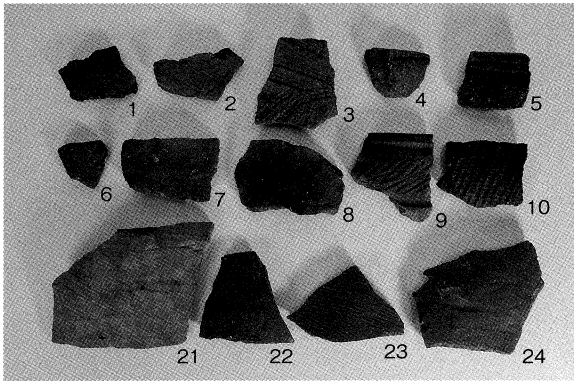


5. t4トレンチ確認面検出状況

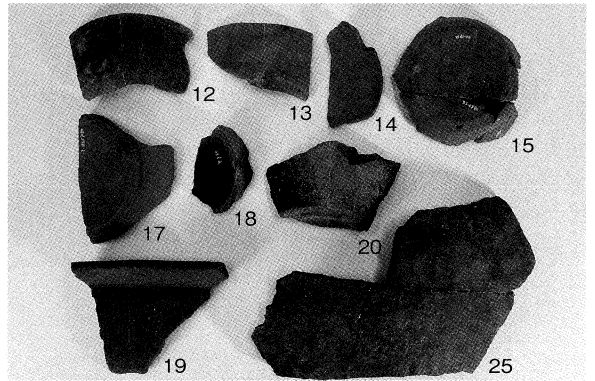


6. トレンチ掘削状況

図版16



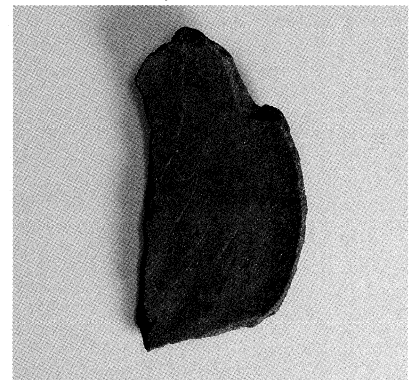
1. 島田込の内遺跡 d 地点 出土遺物(1)



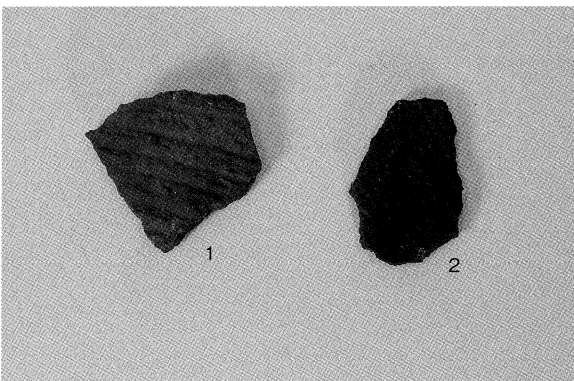
2. 島田込の内遺跡 d 地点 出土遺物(2)



3. 島田込の内遺跡 d 地点 出土遺物(3)



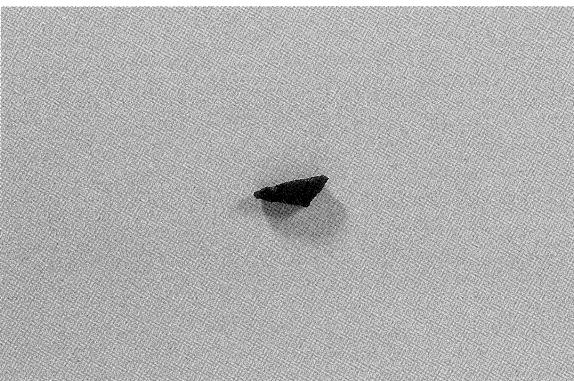
4. 島田込の内遺跡 d 地点 出土遺物(4)14 刻書拡大



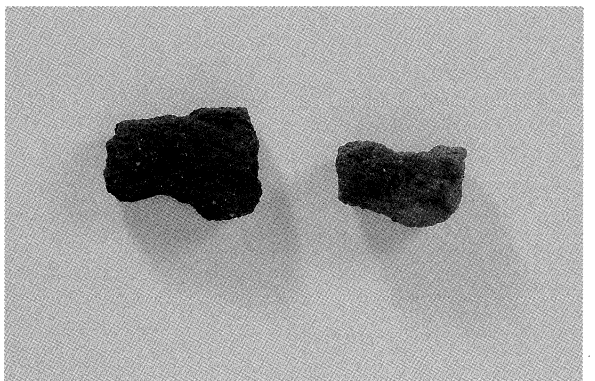
5. 大和田新田芝山遺跡 g 地点・笹塚塚群 a 地点 出土遺物



6. 白幡前遺跡 f 地点 出土遺物



7. 神明前遺跡 a 地点 出土遺物



8. 内野南遺跡 h 地点 出土遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	ちばけんやちよし しないいせきはくつちょうさほうこくしょ へいせい28ねんど
書 名	千葉県八千代市 市内遺跡発掘調査報告書 平成28年度
副 書 名	ライノ作南遺跡 e 地点, 高津新山遺跡 d 地点, 内込遺跡 d 地点, 高津新田遺跡 e 地点・高津新田野馬堀遺跡 m 地点, 村上宮内遺跡 c 地点, 作ヶ谷津遺跡 b 地点, 平沢遺跡 e 地点, 井戸向遺跡 d 地点, 逆水遺跡 i 地点, 島田込の内遺跡 d 地点, 大和田新田芝山遺跡 g 地点・笹塚塚群 a 地点, 白幡前遺跡 f 地点, 神明前遺跡 a 地点, 内野南遺跡 h 地点, 下船田遺跡 c 地点
編 著 者 名	秋山利光
編 集 機 関	八千代市教育委員会
所 在 地	〒276-0045 千葉県八千代市大和田138-2 Tel 047-483-1151(代表)・047-481-0304(直通)
発行年月日	西暦2017(平成29年)3月24日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積(m ²) 掘削/対象	調査原因
		市町村	遺跡 番号					
ライノ作南遺跡 e 地点	おおわ だしんでんあざていこうじの 大和田新田字貞光寺野930-2	12221	276	35度 43分 39秒	140度 4分 48秒	20150507~20150511	上層 10/105	個人住宅 建設
高津新山遺跡 d 地点	たかつしんやまいせき 高津東 4 丁目12-17	12221	239	35度 42分 49秒	140度 5分 35秒	20150512~20150514	上層 16.5/165.44 本調査 32.67	個人住宅 建設
内込遺跡 d 地点	うちこめいせき 八千代台北17丁目1615-25	12221	246	35度 42分 51秒	140度 5分 48秒	20150514~20150520	上層 8.1/119.25	建売住宅 建設
高津新田遺跡 e 地点 高津新田野馬堀遺跡 m 地点	たかつしんでんいせき やちよだいまのみちようめ 八千代台南 2 丁目 1-77, 18-1, 19	12221	250 251	35度 41分 37秒	140度 5分 28秒	20150526~20150603	上層 118/1,231.36	宅地造成
村上宮内遺跡 c 地点	むらかみやうちいせき 村上字鳥居作 994, 995-1 各一部	12221	191	35度 44分 14秒	140度 7分 8秒	20150601~20150608	上層 18/194.94	個人住宅 建設
作ヶ谷津遺跡 b 地点	しまだ だいいあざひがしそうのほしだい 島田台字 東 桑 橋台744-1	12221	62	35度 45分 15秒	140度 5分 15秒	20150703~20150715	上層 312/3,047 一部本調査	宅地造成
平沢遺跡 e 地点	ひらさわいせき かみこうやあざひらさわ 上高野字平沢151-4, 152-1	12221	217	35度 44分 38秒	140度 7分 41秒	20150717~20150731	上層 472/4,860	福祉施設 建設
井戸向遺跡 d 地点	いどむかいせき ゆりのき台 3 丁目4-1, 2, 3	12221	284	35度 43分 45秒	140度 6分 10秒	20150722~20150901	上層 150/5,921.27	店舗建設
逆水遺跡 i 地点	さかさみずいせき よならとあざさかみず 米本字 逆水1280-1, 4	12221	100	35度 45分 42秒	140度 6分 53秒	20150831~20150914	上層 96/1,419	福祉施設 建設
島田込の内遺跡 d 地点	しまだこめ うちいせき 第 1 次確認調査 島田字込之内1005-1, 2, 3, 1008-1, 5, 6, 12, 13, 1009-1 第 2 次確認調査 島田字込之内1003-1, 2, 3	12221	48	35度 45分 56秒	140度 7分 58秒	20150929~20151021 20160218~20160325	上層 656/7,985 上層 203/1,878	物流基地 建設
大和田新田芝山遺跡 g 地点 笹塚塚群 a 地点	おおわ だしんでんしばやまいせき 大和田新田字平作813-1	12221	159 161	35度 44分 10秒	140度 5分 6秒	20151020~20151028	上層 106/942	駐車場建設

しらほまえいせき 白幡前遺跡 えふちてん f 地点	かやだ 萱田2214-51, 2213-7	12221	185	35度 43分 31秒	140度 6分 15秒	20160108~20160114	上層 8/97.99 一部本調査	個人住宅 建設
しんめいまいせき 神明前遺跡 えいちてん a 地点	しまだ だいあぎたかほり 島田台字高堀1268-2	12221	36	35度 45分 52秒	140度 5分 29秒	20160212~20160219	上層 38/388.93 本調査 1.44	個人住宅 建設
うちのみなみいせき 内野南遺跡 えつちちてん h 地点	よしほしあぎうち 吉橋字内野1064-1	12221	289	35度 43分 51秒	140度 4分 28秒	20160223~20160226	上層 17/204	建売住宅 建設
しもふなだ いせき 下船田遺跡 しーちてん c 地点	おおわだ しんでんあぎにい き どまえ 大和田新田字新木戸前 42-18, 19, 20, 28, 30, 31, 32	12221	164	35度 43分 13秒	140度 4分 19秒	20160308~20160318	上層 196/1,980.76	宅地造成

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物	特記事項
ライノ作南遺跡 e 地点	集落跡	縄文時代	なし		なし	
高津新山遺跡 d 地点	包蔵地 集落跡	旧石器時代 縄文時代 古墳時代 奈良・平安時代 中近世	古墳時代 溝跡 1 条		古墳時代 土師器 奈良・平安時代 土師器, 陶器	一部本調査実施
内込遺跡 d 地点	包蔵地 集落跡	古墳時代 奈良・平安時代	なし		なし	
高津新田遺跡 e 地点 高津新田野馬堀遺跡 m 地点	包蔵地 集落跡 野馬堀	縄文時代 近世	縄文時代 土坑 1 基 近世 野馬堀跡 2 条		近世 陶磁器	285㎡ 記録保存
村上宮内遺跡 c 地点	包蔵地 集落跡	縄文時代 古墳時代 奈良・平安時代	なし		なし	
作ヶ谷津遺跡 b 地点	集落跡	縄文時代 奈良・平安時代	縄文時代 土坑 1 基 近世 溝跡 2 条		縄文土器 近世 磁器, 砥石	一部本調査実施
平沢遺跡 e 地点	包蔵地 集落跡	旧石器時代 縄文時代 弥生時代 奈良・平安時代	弥生時代 竪穴建物跡 6 軒, 土坑 3 基, 溝跡 2 条		弥生土器	2,635㎡ 記録保存
井戸向遺跡 d 地点	包蔵地 集落跡	旧石器時代 縄文時代 弥生時代 奈良・平安時代	なし		なし	
逆水遺跡 i 地点	集落跡	縄文時代 弥生時代 古墳時代 奈良・平安時代 中近世	弥生時代 竪穴建物跡 1 軒		縄文土器	148㎡ 記録保存 730㎡ 保存協議
島田込の内遺跡 d 地点	集落跡	縄文時代 古墳時代 奈良・平安時代 中近世	奈良・平安時代 竪穴建物跡 9 軒 掘立柱建物跡 11 棟 土坑 11 基		縄文土器 奈良・平安時代 土師器, 須恵器	7,007㎡ 保存協議
			縄文時代 陥穴 3 基 奈良・平安時代 竪穴建物跡 6 軒 掘立柱建物跡 4 棟 土坑 6 基		縄文土器 奈良・平安時代 土師器, 須恵器	
大和田新田芝山遺跡 g 地点 笹塚塚群 a 地点	包蔵地 集落跡 生産跡 塚	旧石器時代 縄文時代 奈良・平安時代 中近世	なし		縄文土器	
白幡前遺跡 f 地点	集落跡	旧石器時代 縄文時代 古墳時代 奈良・平安時代 中近世	奈良・平安時代 土坑 1 基		奈良・平安時代 土師器, 須恵器	一部本調査実施

神明前遺跡 a 地点	包蔵地	縄文時代 奈良・平安時代	縄文時代 土坑 1 基	奈良・平安時代 土師器	一部分調査実施
内野南遺跡 h 地点	包蔵地	縄文時代 奈良・平安時代	なし	縄文土器	
下船田遺跡 c 地点	包蔵地	縄文時代 奈良・平安時代	なし	なし	
要 約	<p>1. ライノ作南遺跡 e 地点 遺構・遺物の検出はなかった。</p> <p>2. 高津新山遺跡 d 地点 溝状遺構が 1 条検出し、古墳時代～奈良・平安時代の土師器と陶器が出土した。</p> <p>3. 内込遺跡 d 地点 遺構・遺物の検出はなかった。</p> <p>4. 高津新田遺跡 e 地点 縄文時代の土坑 1 基、縄文土器の出土はなかった。</p> <p>高津新田野馬堀遺跡 m 地点 近世の野馬堀跡 1 条と付属する溝状遺構 1 条が検出された。近世の陶磁器類も出土した。</p> <p>5. 村上宮内遺跡 c 地点 遺構・遺物の検出はなかった。</p> <p>6. 作ヶ谷津遺跡 b 地点 縄文時代土坑 1 基が検出し、近世以降の新しい溝跡 2 条が検出した。</p> <p>出土遺物は縄文土器が多数出土したが、大半は表採遺物であった。そのほか、近世の磁器、砥石が出土した。</p> <p>7. 平沢遺跡 e 地点 弥生時代後期の竪穴建物跡 6 軒、溝状遺構 2 条、土坑 3 基が検出した。</p> <p>出土遺物は弥生時代後期の土器が出土した。</p> <p>8. 井戸向遺跡 d 地点 遺構・遺物の検出はなかった。</p> <p>9. 逆水遺跡 i 地点 弥生時代の竪穴建物跡が 1 軒、出土遺物は縄文土器の小片が出土した。</p> <p>10. 島田込の内遺跡 d 地点 2 次にとり確認調査が実施した。縄文時代の陥穴 3 基、奈良・平安時代の竪穴建物跡 15 軒、掘立柱建物跡 15 棟、土坑 17 基が検出した。出土遺物は縄文土器が前期から中期の遺物が出土し、奈良・平安時代の土師器、須恵器の出土が多量にあった。</p> <p>11. 大和田新田芝山遺跡 g 地点 遺構の検出はなかったが、縄文土器がわずかに出土した。</p> <p>笹塚塚群 a 地点 塚は検出されなかった。</p> <p>12. 白幡前遺跡 f 地点 奈良・平安時代の土坑が 1 基検出した。出土遺物では同時代の土師器・須恵器がわずかに出土した。</p> <p>13. 神明前遺跡 a 地点 縄文時代の土坑が 1 基検出した。出土遺物では奈良・平安時代の土師器が出土した。</p> <p>14. 内野南遺跡 h 地点 遺構の検出はなかったが、縄文土器がわずかに出土した。</p> <p>15. 下船田遺跡 c 地点 遺構・遺物の検出はなかった。</p>				

千葉県八千代市

市内遺跡発掘調査報告書 平成 28 年度

平成 29 年 3 月 24 日発行

編集・発行 八千代市教育委員会 教育総務課
千葉県八千代市大和田 138-2
047(483)1151(代表) 047(481)0304(直通)

印 刷 金子印刷企画
千葉県八千代市萱田 410-1
